

令和6年度台東区総合学力調査及び全国学力・学習状況調査 の結果について

1 調査の趣旨

区立小・中学校の児童・生徒の学力及び学習等についての意識を調査し、その分析結果を各校における授業改善等に生かすため、「台東区総合学力調査」を実施する。

2 対象学年

小学校第4学年～中学校第3学年

3 実施日

令和6年4月19日（金）

4 調査内容（下線教科は、「全国学力・学習状況調査」において実施）

小学校第4学年 国語、算数

第5学年 国語、社会、算数、理科

第6学年 国語、社会、算数、理科

※前学年の学習内容を考慮し、小学校第4学年は一部の教科で実施

中学校第1学年 国語、社会、数学、理科、英語

第2学年 国語、社会、数学、理科、英語

第3学年 国語、社会、数学、理科、英語

5 調査結果（同一集団を基本とした経年変化）

※網掛け部分の数值は、「全国学力・学習状況調査」の結果

（1）小学校第4学年

令和6年度

	区	全国	差
国語	74.6	73.4	1.2
算数	77.7	72.1	5.6

（2）小学校第5学年

令和6年度

	区	全国	差
国語	69.7	64.9	4.8
社会	61.2	60.1	1.1
算数	67.5	64.0	3.5
理科	59.9	60.7	▼0.8

令和5年度(小学校第4学年時)

区	全国	差
74.0	70.8	3.2
76.5	71.9	4.6

(3) 小学校第6学年

令和6年度

	区	全国	差
国語	73.0	67.7	5.3
社会	64.6	62.8	1.8
算数	70.0	63.4	6.6
理科	59.2	60.3	▼1.1

令和5年度(小学校第5学年時)

区	全国	差
73.8	70.0	3.8
61.9	59.1	2.8
69.3	67.1	2.2
67.0	66.8	0.2



(4) 中学校第1学年

令和6年度

	区	全国	差
国語	60.9	61.3	▼0.4
社会	48.2	52.4	▼4.2
数学	64.4	64.4	0.0
理科	60.6	67.0	▼6.4
英語	77.1	76.8	0.3

令和5年度(小学校第6学年時)

区	全国	差
70.0	67.2	2.8
66.1	65.4	0.7
67.0	62.5	4.5
59.1	61.1	▼2.0



(5) 中学校第2学年

令和6年度

	区	全国	差
国語	65.9	65.1	0.8
社会	46.1	50.0	▼3.9
数学	56.2	54.7	1.5
理科	50.8	56.0	▼5.2
英語	53.8	52.7	1.1

令和5年度(中学校第1学年時)

区	全国	差
56.8	59.2	▼2.4
48.9	53.3	▼4.4
65.9	65.8	0.1
56.0	62.3	▼6.3
82.8	82.7	0.1



(6) 中学校第3学年

令和6年度

	区	全国	差
国語	57.0	58.1	▼1.1
社会	45.7	53.0	▼7.3
数学	50.0	52.5	▼2.5
理科	44.4	50.5	▼6.1
英語	50.1	50.9	▼0.8

令和5年度(中学校第2学年時)

区	全国	差
61.5	63.9	▼2.4
44.7	51.2	▼6.5
52.3	53.4	▼1.1
48.0	54.9	▼6.9
46.3	46.1	0.2



令和6年度
台東区総合学力調査
報告書

令和6年8月
台東区教育委員会

目 次

調査概要	1
第1章 児童・生徒の学力実態	2
1 小学校第4学年（国語・算数）	
2 小学校第5学年（国語・社会・算数・理科）	
3 小学校第6学年（社会・理科）	
4 中学校第1学年（国語・社会・数学・理科・英語）	
5 中学校第2学年（国語・社会・数学・理科・英語）	
6 中学校第3学年（社会・理科・英語）	
第2章 児童・生徒の生活・学習実態（アンケート調査）	65
1 基本的生活習慣等	
2 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等	
3 学習習慣、学習環境等	
4 地域や社会に関わる活動の状況等	
5 ICTを活用した学習状況	
6 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	
7 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳	
8 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）	
9 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）	
10 台東区独自調査	
第3章 アンケート調査と学力調査のクロス分析	94
1 学習習慣、学習環境等	
2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	
3 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳	
4 台東区独自調査	

調査概要

1 調査目的

- (1) 小・中学校児童・生徒の学力（領域、観点及び基礎・活用別）の実態を調査分析し、学習指導上の問題点及び改善点を明らかにする。
- (2) 小・中学校児童・生徒の学習や生活に関わる意識や活動の実態を調査分析し、生活指導上の問題点及び改善点を明らかにする。

2 調査対象

- (1) 学力調査
 - ①小学校第4・5・6学年の児童
 - ②中学校第1・2・3学年の生徒
- (2) アンケート調査
 - ①小学校第4・5学年の児童
 - ②中学校第1・2学年の生徒

3 調査日時

- (1) 学力調査：令和6年4月19日
- (2) アンケート調査：令和6年4月19日～4月24日

4 調査内容（調査人数・調査時間）

	国語 (小40分) (中45分)	社会 (小40分) (中45分)	算数・数学 (小40分) (中45分)	理科 (小40分) (中45分)	英語 (中45分)	学習・生活 アンケート (小中40分)
小学校第4学年	1134		1133			1142
小学校第5学年	1130	1128	1129	1131		1119
小学校第6学年		1137		1137		
中学校第1学年	718	719	718	718	717	716
中学校第2学年	715	715	716	716	718	715
中学校第3学年		611		610	612	

第1章 児童・生徒の学力実態

1 小学校第4学年

(1) 国語

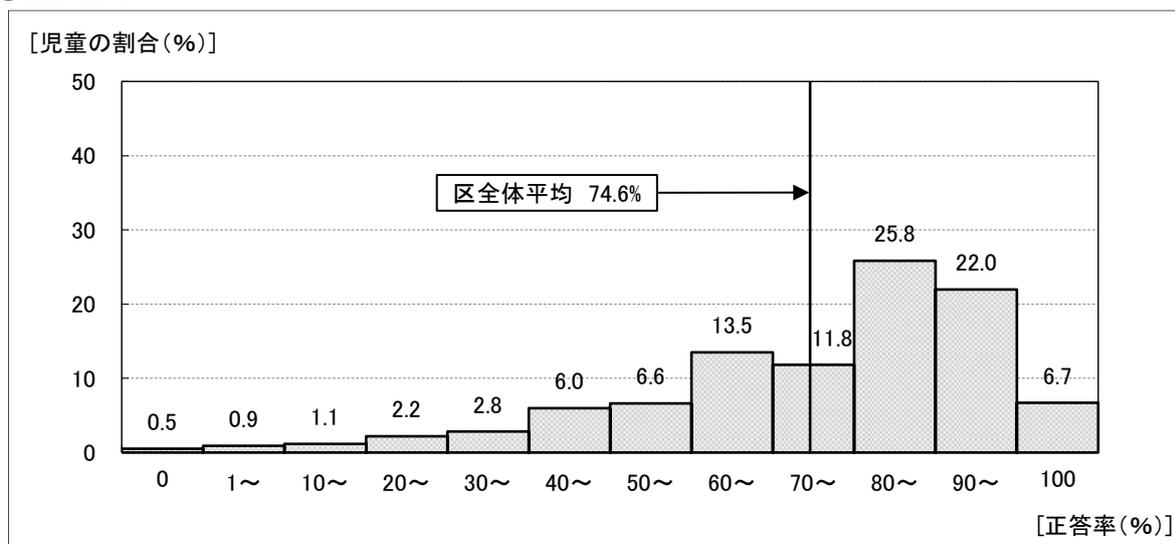
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年	令和元年		
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止	区平均	全国平均	差
74.6	73.4	△1.2	74.0	70.8	△3.2	72.1	68.0	△4.1			70.0	68.1	△1.9

②度数分布



③領域別正答率

	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
全国平均(%)	75.7	52.7	82.8	81.5	58.2	74.6
区全体正答率(%)	74.9	61.8	85.8	83.2	60.5	76.7
差(%)	▼0.8	△9.1	△3.0	△1.7	△2.3	△2.1

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国平均(%)	72.5	69.4	60.0
区全体正答率(%)	73.6	71.5	63.1
差(%)	△1.1	△2.1	△3.1

⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	78.4	62.8
区全体正答率(%)	78.4	66.5
差(%)	0.0	△3.7

⑥課題の見られた小問

● 5 (3)

5

次の文章を読んで、下の問題に答えましょう。

(3) 上の文章を読んだ石川^{いしかわ}さんは、読み取ったことを次のようにまとめました。★に入る言葉を、上の文章中から六字でぬき出して書きましょう。

○ヒマワリについて

問い ・ 太陽の方を向いてさくというのは本当か。

←

答え ・ 本当ではない。太陽の方を向くのは、花がさいてくきの成長が止まるまで。

★ にくきがのびるせいしつがあるので、つぼみのときまでは、太陽を追いかけてくきが動く。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	49.2%	40.5%	8.7ポイント	16.5%		☆	
出題のねらい	中心となる語や文を見付けて要約している。						
結果	区全体正答率49.2%は、全国平均40.5%を8.7ポイント上回った。 全問中正答率は2番目低い。 無解答率は16.5%である。						
対策	本問のまとめに文章の前半部分の内容が整理されているので、まとめの内容と文章の前半部分の内容を比較していけば、空欄に何が入るのかを理解することができる。整理された内容を見ると、ヒマワリについて、「太陽の方を向いてさくというのは本当か」という「問い」が挙げられ、それに対する「答え」が矢印で示されている。説明的な文章の授業では、このような形式で情報の整理が行われることが多い。その際に、教師が全てを整理するのではなく、児童に整理させてみることで、情報整理の仕方を身に付けさせたい。						

6 星野さんは、点字ブロックについて調べて、ほうこくする文章を書くことにしました。次は、星野さんが調べたこと【メモ】と、それをもとにして書いた【文章】です。これらを読んで、あとの問題に答えましょう。

点字ブロックについて
〈本で調べたこと〉

- ・でこぼこしている。
- ・目の不自由な人を安全にみちびく。
- ・足やつえでさわってたしかめる。

○ゆうどうブロック↓進む方向

○けいこくブロック↓注意がひつような場所

〈町で見つけた場所〉

- ゆうどうブロック…まっすぐな歩道
- けいこくブロック…こうさ点・階段の前

※点字ブロックの上に自転車など、物がおかれていた。

↓あぶない。ふだんの生活で気をつける。

点字ブロックについて

4年1組 星野まどか

1. 調べた理由

わたしは、「点字ブロック」の役わりをくわしく知りたいと思い、調べることにしました。

2. 調べて分かったこと

(1)点字ブロックとは

でこぼこしているものです。目の不自由な人を、安全にみちびくためにあります。目の不自由な人は、点字ブロックを足やつえでさわって、たしかめながら歩きます。

(2)点字ブロックのしゅい

①ゆうどうブロック
まっすぐな歩道などにあり、進む方向をしめます。




ゆうどうブロック けいこくブロック

②けいこくブロック
こうさ点や階段の前などにあり、注意がひつような場所をしめます。

3. まとめ

点字ブロックは、目の不自由な人にとって、とても大切なものと分かりました。目の不自由な人が安心して町を歩けるように、わたしたちは ★ と思いました。

〈注意する点〉

・【メモ】の〈町で見つけた場所〉をもとに、どのようなことに気をつけなければいけないのかが分かるように書くこと。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	42.2%	28.6%	13.6ポイント	14.9%			☆
出題のねらい	情報と情報との関係について理解し、自分の考えを明確にして書いている。						
結果	区全体正答率42.2%は、全国平均28.6%を13.6ポイント上回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は14.9%である。 正答のうち、一部不十分な内容があるが、おおむね正しく書いているものが7.8%見られた。						
対策	本問では、設問の〈注意する点〉にあるように、【メモ】の〈町で見つけた場所〉で述べられている点に着目して考えていく。「点字ブロックの上に自転車など、物がおかれていた。→あぶない。……気をつける。」という記載があるので、空欄にはこの内容が入ることが分かる。また、空欄の前後の文脈に合う文体で書くことも重要である。こうした複数のテキストを活用する問題では、テキストの情報と情報との関連を意識して解くことができるように指導したい。そのためには、授業の中でも、複数テキストの組み合わせによる課題を工夫していくことが大切である。						

(2) 算数

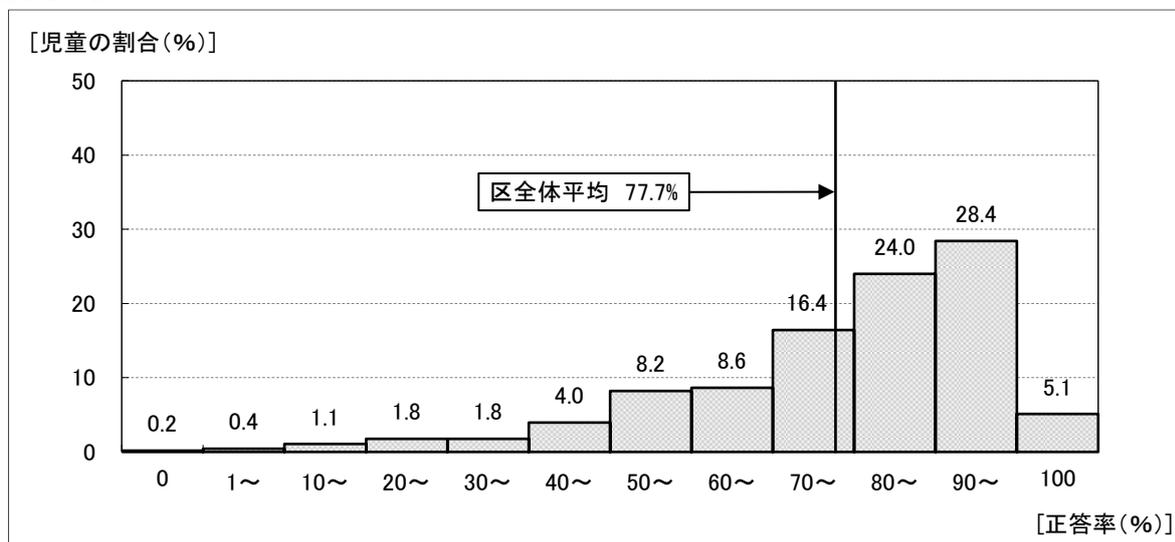
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年	令和元年		
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止	区平均	全国平均	差
77.7	72.1	△5.6	76.5	71.9	△4.6	78.9	73.1	△5.8			77.2	74.6	△2.6

②度数分布



③領域別正答率

	数と計算	図形	測定	データの活用
全国平均(%)	69.7	76.3	81.1	70.0
区全体正答率(%)	76.0	80.8	84.0	76.3
差(%)	△6.3	△4.5	△2.9	△6.3

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国平均(%)	75.0	61.8	75.0
区全体正答率(%)	79.7	70.6	79.2
差(%)	△4.7	△8.8	△4.2

⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	75.2	64.3
区全体正答率(%)	80.3	71.2
差(%)	△5.1	△6.9

⑥課題の見られた小問

● 7 (通し番号 17)

7

16 × 43の答えを筆算でもとめます。次の筆算の 64 の意味を正しく表しているものはどれですか。答えは 1 ~ 4 から 1 つえらんで、その番号を書きましょう。 ⑰

$$\begin{array}{r} 16 \\ \times 43 \\ \hline 48 \\ \underline{64} \\ 688 \end{array}$$

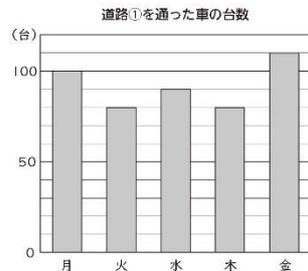
- 1 16 × 3
- 2 16 × 4
- 3 16 × 30
- 4 16 × 40

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	47.7%	34.0%	13.7ポイント	3.2%	☆		
出題のねらい	かけ算の筆算に出てくる数の意味を理解している。						
結果	区全体正答率47.7%は、全国平均34.0%を13.7ポイント上回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は3.2%である。 誤答は、「16×4」(44.0%)が最も多かった。						
対策	本問では、かけ算の筆算は、分配法則で表すことができることを理解させたい。16×43の場合は、16×(40+3)=16×40+16×3と表すことができる。筆算の学習では、筆算の仕方を指導し、十分に習熟させることも大切であるが、筆算の仕組みについても丁寧に指導することが大切である。						

● 15 (3)

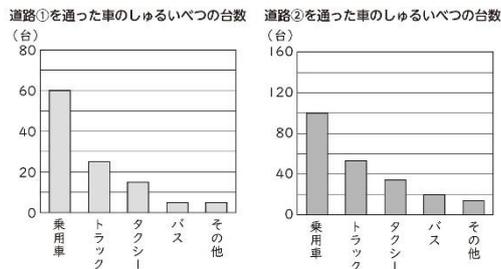
15 みおさんたちは、通学路にある道路①と道路②の交通量が多くてあぶないと感じています。そこで、どのくらい車が通っているのかを調べることにしました。

みおさんは、ある週の月曜日から金曜日、道路①の朝の30分間に通った車の台数を、次のようにぼうグラフに表しました。



(3) みおさんとるいさんは、どのような車に気がつけたいのかを調べました。

るいさんは、道路①、道路②の金曜日に通った車のしゅるいべつの台数を、次のようにそれぞれぼうグラフに表しました。



みお

2つのぼうグラフを見ると、道路①のほうが、乗用車の台数が多かったことがわかるね。



るい

それはちがうよ。乗用車の台数は、道路②のほうが多いよ。

みおさんが言っている「道路①のほうが、乗用車の台数が多かった」は正しいとはいえません。そのわけを、言葉や数を使ってせつ明しましょう。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	59.3%	51.3%	8.0ポイント	15.0%			☆
出題のねらい	棒グラフを正しく読み取り、1目盛りの大きさに着目して説明している。						
結果	区全体正答率59.3%は、全国平均51.3%を8.0ポイント上回った。 全問中正答率は3番目に低い。 無解答率は15.0%で、全問中2番目に高い。						
対策	本問の2つのグラフは同じように見えても、1目盛りの大きさに着目すると、道路①が60台、道路②が100台なので、道路②の方が通った車が多いことが分かる。グラフを比較する場合は、できるだけ同じ大きさの目盛りになるとよい。本問の場合、道路①と道路②の乗用車の台数を並べて表示する「集合棒グラフ」や、両者の乗用車の台数を積み上げて表示する「積み上げ棒グラフ」などが考えられる。いずれにしても、1目盛りの大きさに着目してグラフを比較することが大切である。						

2 小学校第5学年

(1) 国語

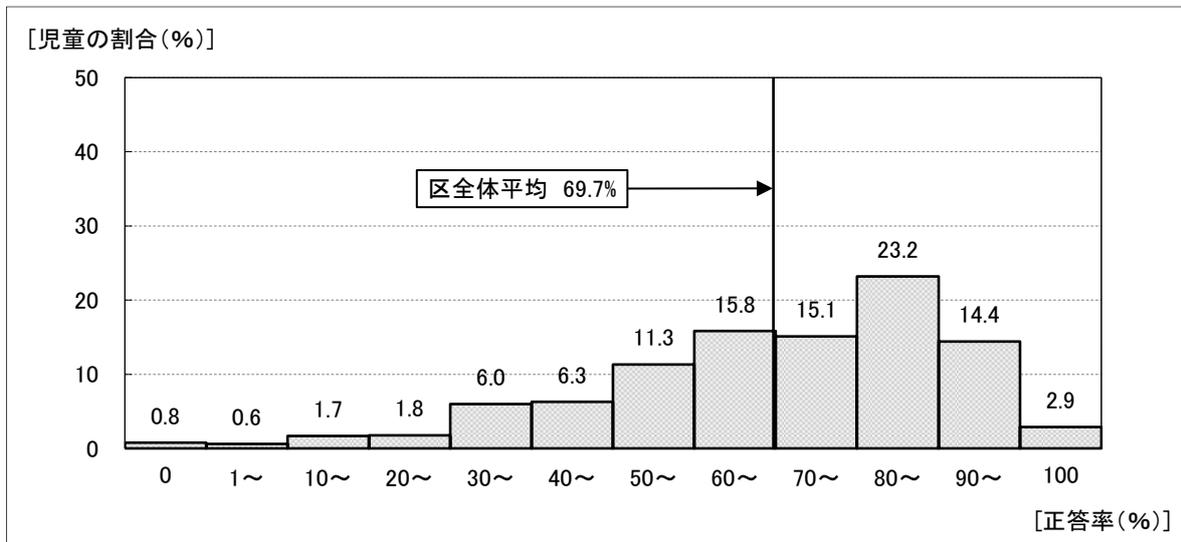
①全国比較

△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年	令和元年		
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止	区平均	全国平均	差
69.7	64.9	△4.8	73.8	70.0	△3.8	70.4	68.0	△2.4			74.0	73.8	△0.2

②度数分布



③領域別正答率

	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
全国平均(%)	65.3	52.6	74.9	66.7	61.7	61.1
区全体正答率(%)	70.1	58.7	81.6	70.7	64.8	67.4
差(%)	△4.8	△6.1	△6.7	△4.0	△3.1	△6.3

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国平均(%)	64.1	63.1	61.3
区全体正答率(%)	69.2	67.8	63.9
差(%)	△5.1	△4.7	△2.6

⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	64.7	65.6
区全体正答率(%)	70.3	68.5
差(%)	△5.6	△2.9

⑥課題の見られた小問

● 3 (1)

3 次の問題に答えましょう。

(1) 次の文の「月曜日に」は、どの言葉をくわしく説明(修飾)していますか。あとから一つ選んで、その番号を書きましよう。

月曜日に、新しいプールがようやくできる。

1 新しい
2 プールが
3 ようやく
4 できる

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	36.2%	29.8%	6.4ポイント	1.8%	☆		
出題のねらい	連用修飾語について理解している。						
結果	区全体正答率36.2%は、全国平均29.8%を6.4ポイント上回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は1.8%である。						
対策	文章を書いたり、文章の内容を正しく読み取ったりするためには、どの言葉がどの言葉を修飾しているのかという文の構成について理解する必要がある。視覚的に分かりやすい言葉の関係の図を用いて、どの言葉がどの言葉にかかっているのか、文の構成を理解させることが大切である。また、簡単な文の空欄に、さまざまな修飾語を入れる練習を積ませることも有効である。						

(2) 社会

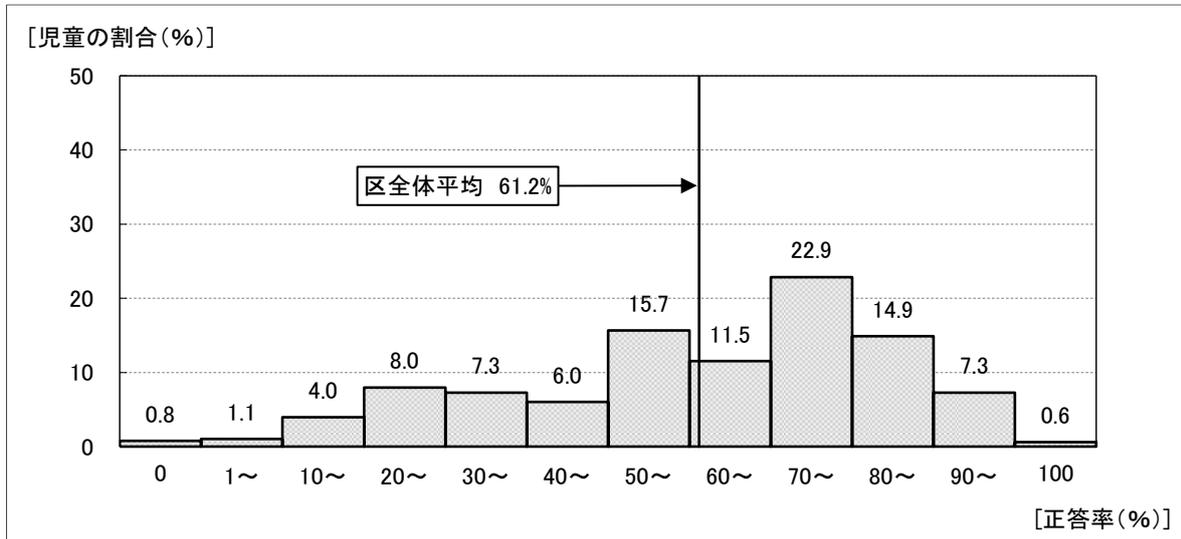
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年	令和元年		
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止	区平均	全国平均	差
61.2	60.1	△1.1	61.9	59.1	△2.8	69.8	70.3	▼0.5			58.7	58.5	△0.2

②度数分布



③領域別正答率

	都道府県の様子	生活環境を支える活動	自然災害からくらしを守る活動	伝統や文化、先人の働き	特色ある地域の様子
全国平均(%)	60.2	65.0	62.2	50.2	51.1
区全体正答率(%)	64.1	63.8	57.0	53.3	57.7
差(%)	△3.9	▼1.2	▼5.2	△3.1	△6.6

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国平均(%)	58.0	64.2	55.9
区全体正答率(%)	60.7	62.3	59.3
差(%)	△2.7	▼1.9	△3.4

⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	62.6	53.5
区全体正答率(%)	62.7	57.8
差(%)	△0.1	△4.3

⑥課題の見られた小問

● 4-2(1)

4-1

たいちさんのクラスでは、地震からくらしを守ることにについて学びました。次の問題に答えましょう。

- (1) たいちさんたちは、地震などの災害に備えた行動や、実際に地震が起きたときの行動について話し合いました。4人のうち、地震などの災害に備えた行動について話している人の組み合わせとして正しいものを、あとの1～4から1つ選んで、その番号を書きましょう。 ⑩



たいち

ハザードマップを使って、学校へ行く道で危険な場所がないかをかくにんします。



ゆいこ

けいたいラジオなどを使って、ひ害やひなんの情報を得るようにします。



ひなた

身の安全がかくにんできたら、ドアを開けて出口をつくり、ひなん場所へ移動します。



あかり

家族とはなれてしまったときの連らく手段として、災害用伝言ダイヤルの使い方を学びます。

- 1 ひなたさんとゆいこさん
- 2 ゆいこさんとたいちさん
- 3 たいちさんとあかりさん
- 4 あかりさんとひなたさん

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	31.8%	29.5%	2.3ポイント	4.7%	☆		
出題のねらい	水害への備えについて理解している。						
結果	区全体正答率31.8%は、全国平均29.5%を2.3ポイント上回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は4.7%である。						
対策	地域の一員として自然災害から安全を守る活動については、「災害に備える」という視点と、「災害発生時の行動」という視点から、自ら意識すべきことが挙げられる。誤答の主な原因として、その区別が曖昧であったことが考えられる。水害に対する取り組みについて、地域の活動への協力ともつなげながら、自然災害に対する「自助」「共助」の視点をおさえる。その上で、本問が「備え」としての自助の在り方を問うものであることを確認し、再度4人の発言を読ませて、自分の命を自分でしっかりと守ることが、地域の一員としての役割を果たすことになることを理解させたい。						

● 5 (3)

5 富山県に住んでいるけいたさんは、県内でいくつもの用水(田畑に水を引くための水路)をつくった椎名道三について調べました。次の2つの資料を見て、あとの問題に答えましょう。

年表あ

年	主なできごと
1790	道三が富山県に生まれる
1814	道三の兄の室田宗兵衛らが室山野の開たくを開始する
1816	室山野用水が完成するが、雨のたびにこわれる
1827	道三が室山野用水を修理する
1836	A村の人びとが十二貫野台地を開たくするよう加賀藩にお願いする
1837	加賀藩は道三に十二貫野を調べるよう命じる
1839	B十二貫野用水の工事を始める
1841	十二貫野用水を完成させる

図 道三が開たく・用水路工事を行った場所

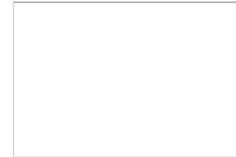


(3) けいたさんは、17ページの年表あ中の下線部Bについて、水の流し方がくふうされていることを知り、その理由を市役所の人に手紙で聞いて、次のような返事をもらいました。市役所の人からの手紙中の□にあてはまる内容を、あとの2つの資料を参考にして書きましょう。

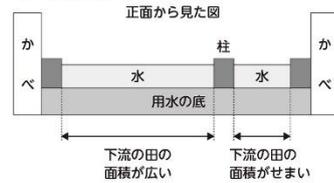
市役所の人からの手紙

十二貫野用水ができたことで、その地いきの人びとは農業に水を使うことができるようになりました。しかし、農業に必要な水の量は、田の面積によってちがいます。そこで、椎名道三は、田の面積に応じて必要な水の量が、多い場所ほど□のように、用水路の中に柱を設置して、水の量を調整できるようにしました。このくふうにより、人びとは公平に水を使うことができたのです。

十二貫野用水を上から見た様子



十二貫野用水の水のわけ方



	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	36.1%	27.7%	8.4ポイント	32.1%			☆
出題のねらい	十二貫野用水の工夫について、複数の資料をもとに表現している。						
結果	区全体正答率36.1%は、全国平均27.7%を8.4ポイント上回った。 全問中正答率は3番目に低い。 無解答率は32.1%で、全問中最も高い。						
対策	十二貫野用水の工夫について考える問題である。「用水の幅を広げて、水が早く届くようにしている」「用水の底をしっかりと固めて、水が途中でなくならないようにしている」などの答えは、下の二つの資料を関連させて考えてはいるが、水の量に直接触れていないので誤答である。当時は特に、水田の水がとても貴重であったこと、それを無駄なく確実に得るために、さまざまな工夫がなされたことを理解させたい。その工夫の一つとして、下流の田の面積に従って水の量を公平に分配できるように、用水路の中に柱を設置したことについて、資料を基に再度指導するとよい。						

(3) 算数

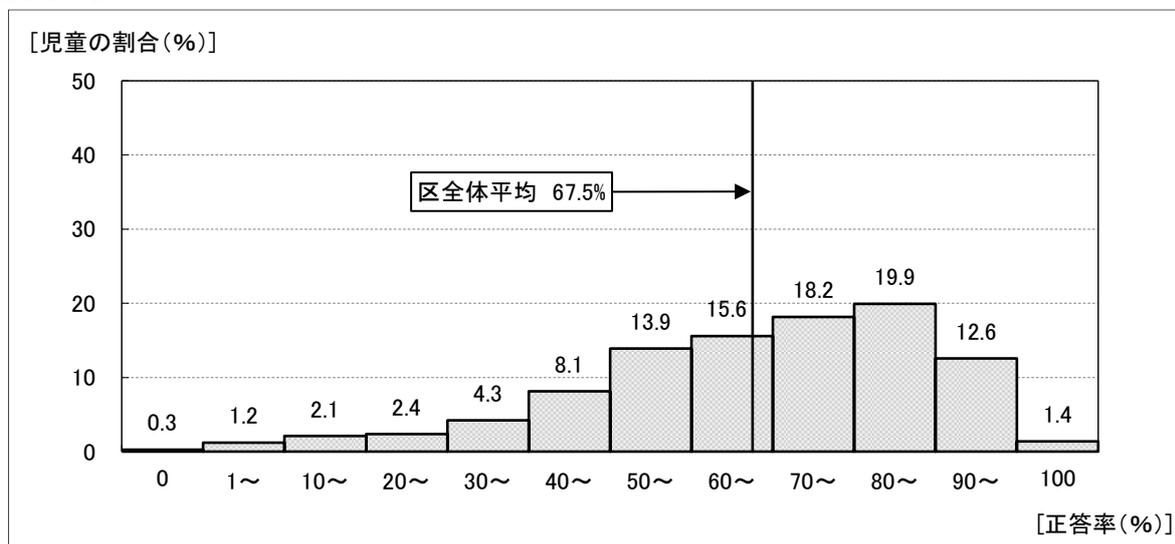
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年	令和元年		
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止	区平均	全国平均	差
67.5	64.0	△3.5	69.3	67.1	△2.2	66.5	60.4	△6.1			68.1	67.3	△0.8

②度数分布



③領域別正答率

	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
全国平均(%)	69.0	65.4	58.5	52.1
区全体正答率(%)	72.5	67.9	62.9	55.8
差(%)	△3.5	△2.5	△4.4	△3.7

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国平均(%)	70.4	44.9	48.1
区全体正答率(%)	73.0	50.9	52.7
差(%)	△2.6	△6.0	△4.6

⑤基礎・活用別正答率

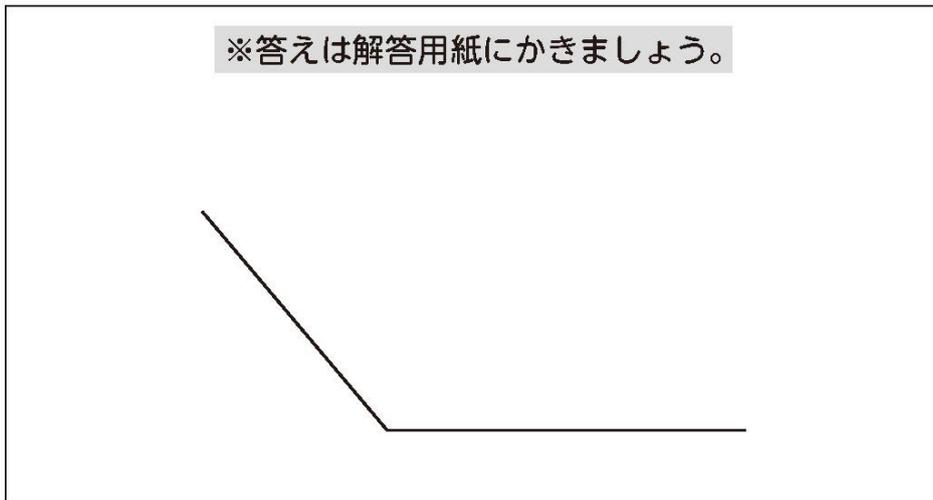
	基礎	活用
全国平均(%)	68.3	55.8
区全体正答率(%)	70.9	60.9
差(%)	△2.6	△5.1

⑥課題の見られた小問

●12(3)

(3) 次の図は、平行四辺形の2つの辺です。コンパスとものさしを使って続きをかいて、平行四辺形を完成させましょう。ただし、コンパスでかいた線は、消さずに残しておきましょう。答えは解答用紙にかきましょう。

25

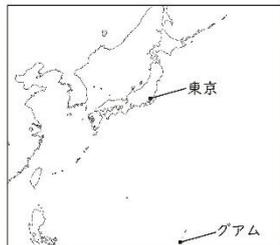


	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	24.2%	29.9%	-5.7ポイント	8.6%		☆	
出題のねらい	平行四辺形の作図ができる。						
結果	区全体正答率24.2%は、全国平均29.9%を5.7ポイント下回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は8.6%である。						
対策	平行四辺形には、1組の三角定規と分度器で作図する方法と、コンパスとものさしで作図する方法がある。前者は、平行四辺形が向かい合った2組の辺がそれぞれ平行であることを踏まえた作図方法で、後者は、平行四辺形の向かい合う辺の長さが等しいことを踏まえた作図方法である。このように、平行四辺形の定義や性質の利用の仕方によって、作図の方法は何通りにもなる。さまざまな作図の方法を経験させるとともに、選んだ作図の方法やその根拠を説明させることが大切である。						

● 14 (2)

14 はるきさんは、おじさんからグアム(アメリカ)に旅行に行ってきた話を聞きました。

グアムは、日本よりもあたたかかったよ。



はるきさんとお姉さんは、ある同じ年の東京(日本)とグアムの1年間の気温の変わり方について調べることにしました。

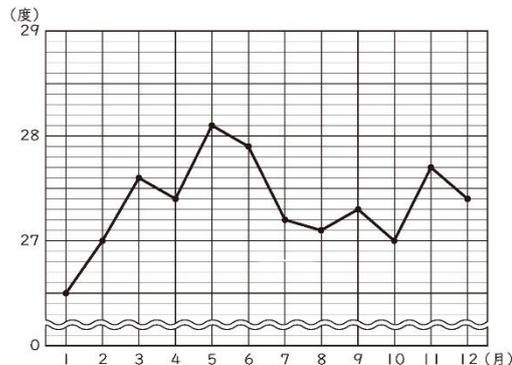
次のグラフは、お姉さんが調べた、東京の1年間の気温の変わり方をグラフに表したものです。

1年間の気温の変わり方(東京)



はるきさんは、グアムの1年間の気温の変わり方について調べ、グラフに表し、東京の1年間の気温とくらべることにしました。

1年間の気温の変わり方(グアム)



気温の変わり方は、折れ線グラフの線のかたむきを見るくらべることができますね。



東京にくらべてグアムのほうが、4月から5月までの線のかたむきぐあい之急です。
だから、東京にくらべてグアムのほうが、4月から5月までの気温の変わり方は大きいです。

(2) 東京とグアムの気温の変わり方について、はるきさんが言っている _____ 部は正しいとはいえません。そのわけを、グラフから読み取ることができる気温に着目して、言葉や数を使って書きましょう。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	20.1%	14.2%	5.9ポイント	39.2%			☆
出題のねらい	1目盛りの大きさが違う2つのグラフをもとに、間違いを指摘している。						
結果	区全体正答率20.1%は、全国平均14.2%を5.9ポイント上回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は39.2%で、全問中最も高い。						
対策	グラフは1目盛りの大きさによって、見た目がかたむきが違うことがある。特に折れ線グラフは、途中を波線で省略することがあるので注意したい。本問の2つの折れ線グラフでは、見た目はグアムのグラフの方が変化が大きいように見える。しかし、1目盛りの大きさに着目すると、東京は1目盛り1度であるのに対し、グアムは1目盛り0.1度と10分の1の大きさである。東京の変化の幅は19-15(度)で4度、グアムの変化の幅は28.1-27.4(度)で0.7度であるので、東京よりグアムの方が変わり方は小さい。グラフを読み取る際は、1目盛りの大きさを必ず確認するように指導したい。						

(4) 理科

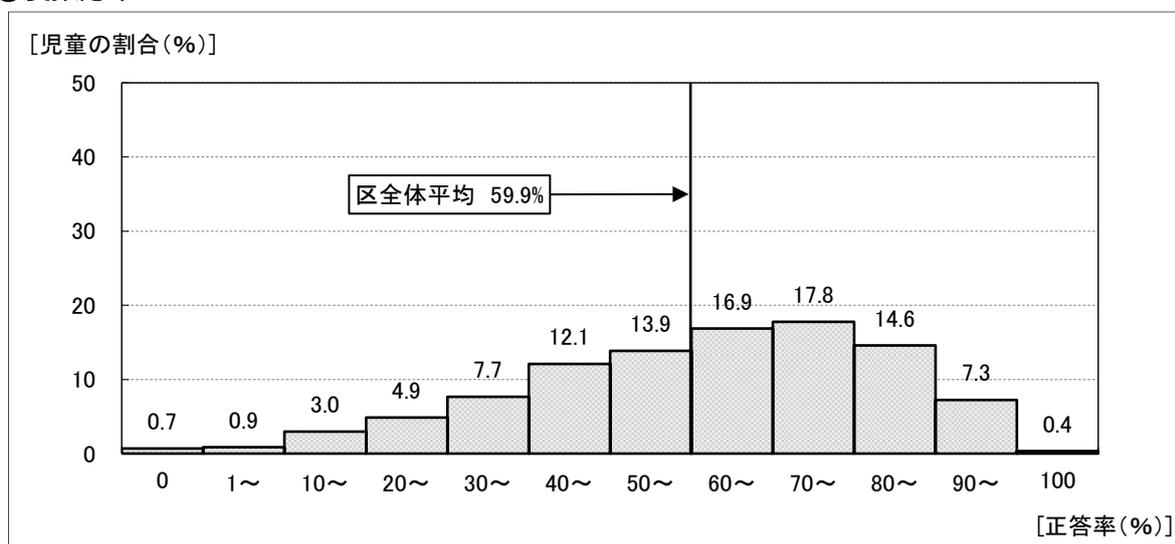
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年	令和元年		
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止	区平均	全国平均	差
59.9	60.7	▼0.8	67.0	66.8	△0.2	62.9	62.5	△0.4			66.9	68.8	▼1.9

②度数分布



③領域別正答率

	物質・エネルギー	生命・地球
全国平均(%)	56.1	64.8
区全体正答率(%)	57.9	61.7
差(%)	△1.8	▼3.1

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国平均(%)	66.6	51.9	62.8
区全体正答率(%)	65.0	52.4	58.8
差(%)	▼1.6	△0.5	▼4.0

⑤基礎・活用別正答率

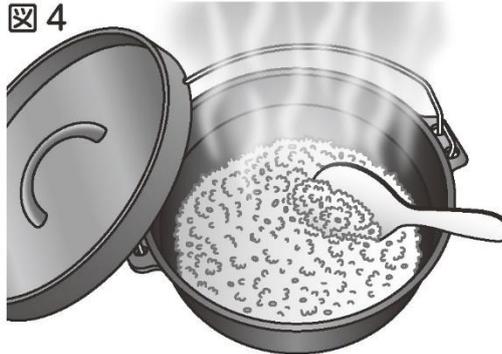
	基礎	活用
全国平均(%)	68.4	42.9
区全体正答率(%)	66.9	43.8
差(%)	▼1.5	△0.9

◎課題の見られた小問

●8 (4)

(4) ともかさんは、キャンプのときに、なべでご飯をたきました。ふたを開けると、図4のように、たくさんの湯気が上がりました。この湯気は、何が何に変わったものですか。あとの1～4から1つ選んで、その番号を書きましょう。 ㉓

図4



- 1 えき体が固体に変わったもの
- 2 固体がえき体に変わったもの
- 3 気体がえき体に変わったもの
- 4 えき体が気体に変わったもの

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	21.6%	15.9%	5.7ポイント	4.9%	☆		
出題のねらい	水のすがたを理解している。						
結果	区全体正答率21.6%は、全国平均15.9%を5.7ポイント上回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は4.9%である。 誤答は、選択肢4（61.5%）が最も多く、正答率を上回った。						
対策	水を沸騰させる実験の後も、湯気は水蒸気である、あるいは水が熱せられると直接湯気になる、という見方をする児童がいる。この場合、目に見えるかどうかで、気体か液体かを判断させるとよい。まず、水面と湯気の間目に見えない部分があることに気付かせた上で、水蒸気は気体なので目に見えないが、水面と湯気の間などに存在することを、モデル図を用いて説明する。さらに、湯気は小さい水の粒の集まりであり、液体であることを確認させることが効果的である。						

● 11 (3)

11 さきさんは、家の水そうの水がへっていることに気がつき、水のへり方のちがいについて考えています。

さきさんの考え

水そうの中の水が、水じょう気となって空気中に出ていったのだと思います。
2つの水そうの水のへり方のちがいから、日なたと日かげで、水そうの水がへる量にちがいがあるのだと思います。

さきさんは、自分の考えが正しいかどうか調べるために、次のような実験をしました。あとの問題に答えましょう。

〔実験〕

- ① 次の図のように、ビーカーに同じ量の水を入れ、アを日なたに、イを日かげに3日間置いた。
- ② 3～4日後に、水の量と温度を記録した。

(3) 別の日、さきさんは、ペットショップに行ったとき、水そうの水温について店員の話聞きました。

さき「水そうの水温は、何℃にしてもいいのですか。」
店員「魚には、種類によって生きるのにちょうどよい水温があります。たとえば、ヤマメのような冷たい水で生活する魚を育てる場合、水そうの水温を、5～15℃に調節する必要があります。」
さき「冷たいですね。」
店員「そうですね。だから、水そうの外側に水てきがつくことがあるので、それをふせぐシートをはったりするんですよ。」
さき「そうか。水そうのまわりの空気中の水じょう気が(㉞) ことによって、水てきになるのですね。」

上の会話の(㉞)にあてはまる言葉を書きましょう。 ㊦

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	27.9%	31.1%	-3.2ポイント	21.0%		☆	
出題のねらい	水槽の外側についた水滴が、結露によってできたことを指摘できる。						
結果	区全体正答率27.9%は、全国平均31.1%を3.2ポイント下回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は21.0%で、全問中最も高い。						
対策	氷水を入れたビーカーの表面には水滴が付き、常温の水を入れたビーカーの表面には付かないことから、空気中の水蒸気についてどのようなことがいえるのか、児童に発表させるとよい。その際、ビーカーの中の水の量が変わっていないことを確認させて、中の水がビーカーの表面に染み出たわけではないことを理解させる必要がある。氷水を入れたビーカーの表面に水滴が付く理由を、自分の言葉でまとめさせることが有効である。						

3 小学校第6学年

(1) 社会

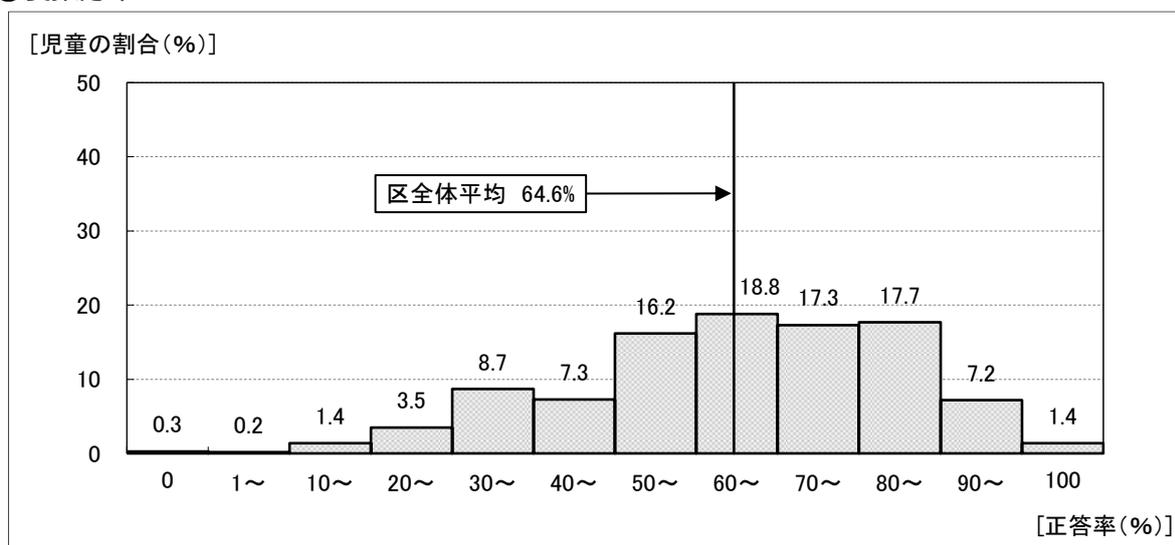
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年	令和元年		
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止	区平均	全国平均	差
64.6	62.8	△1.8	66.1	65.4	△0.7	71.2	69.5	△1.7			68.4	65.3	△3.1

②度数分布



③領域別正答率

	国土の自然などの様子	農業や水産業	工業生産	産業と情報との関わり	国土の自然環境と国民生活
全国平均(%)	62.6	55.5	69.9	65.9	62.3
区全体正答率(%)	64.1	59.4	70.9	65.0	64.3
差(%)	△1.5	△3.9	△1.0	▼0.9	△2.0

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国平均(%)	65.7	58.4	59.6
区全体正答率(%)	67.6	59.9	62.8
差(%)	△1.9	△1.5	△3.2

⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	65.4	56.4
区全体正答率(%)	66.7	59.4
差(%)	△1.3	△3.0

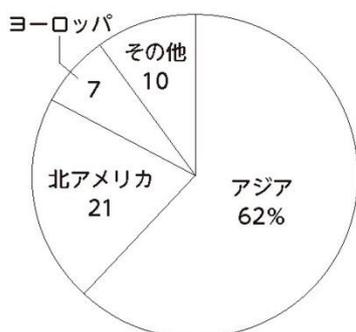
⑥課題の見られた小問

● 5 (2)

5 かずとさんは、日本の自動車工業について調べています。次の問題に答えましょう。

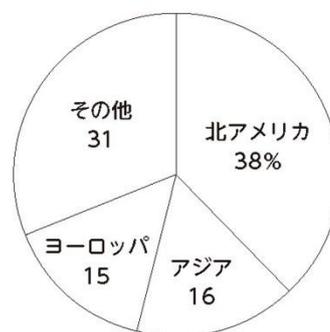
(2) かずとさんは、次の2つの資料を集めてまとめました。2つの資料を読み取って、あのかずとさんのまとめ中の にあてはまる内容を書きましょう。 ⑩

資料A 日本の自動車の世界の地域別現地生産台数の割合



(2022年) (日本自動車工業会)

資料B 日本の自動車の世界の地域別輸出台数の割合



(2022年) (日本自動車工業会)

かずとさんのまとめ

資料A, 資料Bをみると、北アメリカは日本の自動車の現地生産台数の割合が2番目に高く、輸出台数の割合は最も高くなっています。一方、アジアは 。日本の自動車会社が、外国で現地生産をすることは、現地の人の働く場所をつくったり、その国の技術が向上したりすることにもつながります。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	32.5%	26.3%	6.2ポイント	20.0%			☆
出題のねらい	自動車の海外生産について、資料をもとに表現している。						
結果	区全体正答率32.5%は、全国平均26.3%を6.2ポイント上回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は20.0%で、全問中2番目に高い。						
対策	日本の自動車生産の特色について、2つの資料を読み取って答える問題である。アジアとの関係について、どちらか一方の資料の特色しか答えていない誤答、両方の資料から答えているが、輸出台数のグラフの「その他」を2番目と捉え、アジアは3番目とする誤答などが考えられる。グラフの読み取り方、「その他」の表す内容の捉え方を具体的に指導した後、教科書などで、日本の大手の自動車会社について、生産上の特色を振り返らせるとよい。その際、「かずとさんのまとめ」の中の、現地にもたらずメリットだけでなく、デメリットにも触れておきたい。						

● 7 (1)②

7 りくさんたちは、わたしたちの生活と情報のかかわりについて調べて発表することになりました。次の問題に答えましょう。

(1) りくさんは、情報を得る手段^{しゅだん}について、次のように発表しました。あとの問題に答えましょう。



りく

情報を送ったり記録したりする方法をメディアといい、その中でもAテレビやラジオ、新聞など、たくさんの人に一度に伝えるものを **B** といいます。

② りくさんの発表中の **B** にあてはまる言葉を、カタカナで書きましょう。

㊦

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	23.1%	28.4%	-5.3ポイント	13.3%		☆	
出題のねらい	マスメディアについて理解している。						
結果	区全体正答率23.1%は、全国平均28.4%を5.3ポイント下回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は13.3%である。						
対策	「マスメディア」という言葉の理解を問う問題である。「マス」がない「メディア」のみの誤答も見られた。「マス」は「大衆・集団」、「メディア」は「媒体」を意味することを説明して、マスメディアが、社会の全ての人々に対して情報を発信するメディアであることを、そのメリットやデメリット、正しい在り方なども含めて指導したい。情報産業の発展に伴い、情報提供側の伝達手段も受け取る側の入手手段も、現在のインターネットによる「デジタルメディア」のように、今後更に発展する可能性があることにも触れておくとよい。						

(2) 理科

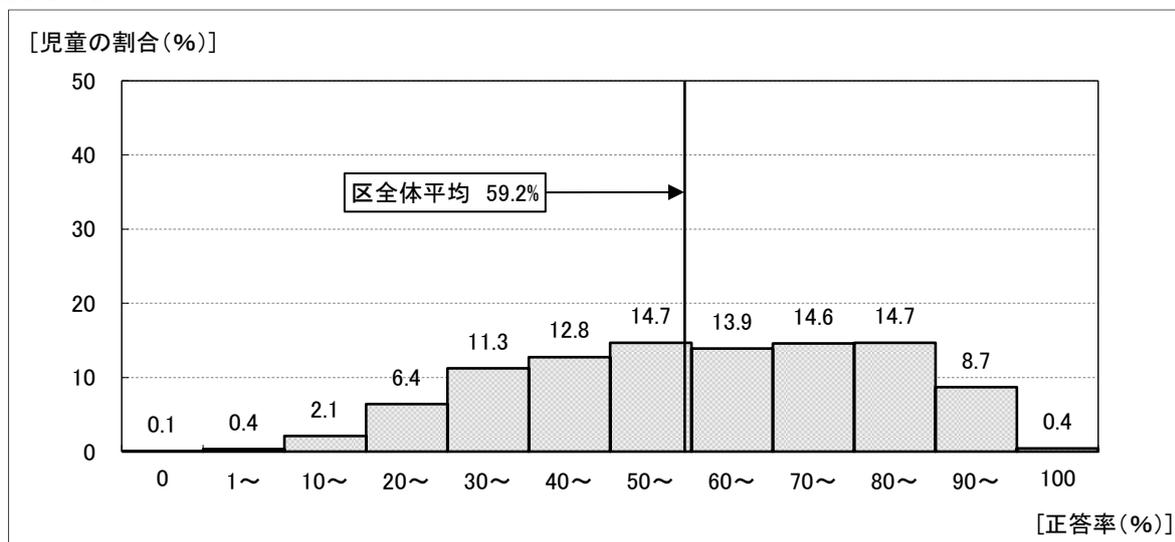
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年	令和元年		
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止	区平均	全国平均	差
59.2	60.3	▼1.1	59.1	61.1	▼2.0	—	—	—	休止	休止	61.8	59.9	△1.9

②度数分布



③領域別正答率

	物質・エネルギー	生命・地球
全国平均(%)	56.2	62.0
区全体正答率(%)	56.9	60.2
差(%)	△0.7	▼1.8

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国平均(%)	68.3	54.1	62.0
区全体正答率(%)	64.5	55.1	61.3
差(%)	▼3.8	△1.0	▼0.7

⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	63.4	54.1
区全体正答率(%)	61.3	54.8
差(%)	▼2.1	△0.7

◎課題の見られた小問

● 4 (1)

4 ゆうじさんは、へちまの実のでき方について調べるため、次の予想を立て、実験をしました。あとの問題に答えましょう。

ゆうじさんの予想

実ができるためには、受粉が必要かどうかを確かめる実験をします。
 実ができるために受粉が必要ならば、へちま①は実ができますが、へちま②は実ができないと思います。

ゆうじさん

[実験と結果]

へちま①	次の日にさきそうなめばなのつぼみを見つけた。	→	花がさいたら、筆で花粉をつけた。	→	すぐにふくろをかぶせた。	→	実ができた。
へちま②	次の日にさきそうなめばなのつぼみを見つけた。	→	花がさいたら、ふくろをかぶせた。	→		→	実ができた。

ゆうじさん 結果は、わたしの予想とちがっていました。実ができるためには受粉が必要ではないのかな。

上の実験では、受粉によって実ができることをきちんと確かめられていないと思います。実験の方法を変えれば正しい結果になると思います。

めぐみさん

(1) めぐみさんの言葉の下線部について、ゆうじさんの実験の方法をどのように変えるとよいですか。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	44.7%	56.0%	-11.3ポイント	18.6%			☆
出題のねらい	受粉が必要かどうかを確かめる実験について、改善の方法を説明できる。						
結果	区全体正答率44.7%は、全国平均56.0%を11.3ポイント下回った。 全問中正答率は5番目に低い。 無解答率は18.6%で、全問中最も高い。						
対策	実ができるために、受粉が必要かどうかを確かめるための方法を考えさせる際には、次の2点に着目させる必要がある。①調べる条件と同じにする条件は何か → 調べる条件は花粉の有無であり、それ以外は同じにする。②花が咲く前から袋をかぶせておくのはなぜか → 開花してからでは、すでに花粉がめしべの先に付いている可能性があるため。なお、アサガオの実験では、つぼみのときにおしべを全て取っておく必要があることにも触れて指導するとよい。						

10 なつみさんは、料理などに使われる塩は、海水からとれることを知り、調べてみました。あとの問題に答えましょう。

(3) なつみさんは、水よう液にとけている物を取り出す方法について、次のように話しています。

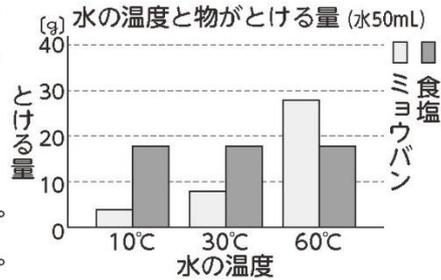


水よう液を熱する以外にも、水よう液を冷やすことで、とけている物を取り出すこともできると学習したよ。
食塩水を冷やしていくと、どうなるのだろう。

なつみさんの問題を解決するために、次の方法で、食塩水を冷やしてみることにしました。

方法

- ・ア 60℃→30℃まで冷やす。
- ・イ 60℃→10℃まで冷やす。



このとき、出てくる食塩の量は、どのようになると考えられますか。上のグラフをもとに、次の1～3から1つ選んで、その番号を書きましよう。また、そのように考えた理由を書きましよう。

- 1 ア、イのどちらの方法も食塩はほとんどとり出せない。
- 2 アの方法のほうが、食塩を多くとり出すことができる。
- 3 イの方法のほうが、食塩を多くとり出すことができる。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	26.1%	23.9%	2.2ポイント	9.1%			☆
出題のねらい	グラフをもとに、食塩水を冷やした際の実験の結果を推測し、その理由を説明できる。						
結果	区全体正答率26.1%は、全国平均23.9%を2.2ポイント上回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は9.1%である。 誤答は、(番号)①と書いているが、(理由)が不十分なものが20.7%見られた。						
対策	本問では、グラフを見ながら考えてもよいが、食塩が水に溶ける量は温度の影響をほとんど受けないという、授業の中で学んだ基本的な知識を文章化すれば正答できる。誤答の主な原因は、記述で正確に答えることに慣れていなかったことにあると考えられる。このような問題で正答する力を付けさせるためには、日頃の授業において、実験を行う前の予想の段階で、児童が自分の考えを文章化してノートに書いたり、発表したりする場面を設けていくことが大切である。						

4 中学校第1学年

(1) 国語

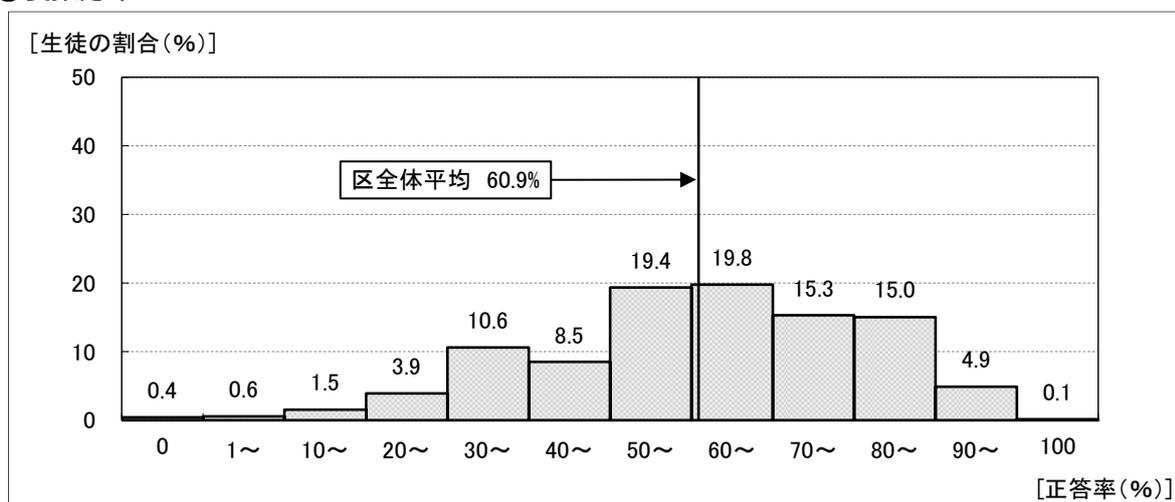
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年	令和元年		
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止	区平均	全国平均	差
60.9	61.3	▼0.4	56.8	59.2	▼2.4	56.3	57.3	▼1.0			68.9	70.4	▼1.5

②度数分布



③領域別正答率

	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
全国平均(%)	61.9	57.6	79.1	67.4	53.4	61.8
区全体正答率(%)	60.6	59.1	75.8	65.0	51.3	65.4
差(%)	▼1.3	△1.5	▼3.3	▼2.4	▼2.1	△3.6

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国平均(%)	62.2	59.2	46.3
区全体正答率(%)	61.3	59.2	43.6
差(%)	▼0.9	0.0	▼2.7

⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	64.9	54.6
区全体正答率(%)	64.4	54.2
差(%)	▼0.5	▼0.4

⑥課題の見られた小問

● 1 (3)

インタビューの様子

1

小田さんは、給食について調べて、学級で発表しようとしています。そこで、学校栄養士の青木さんと、給食調理員の白石さんにインタビューをします。次の「インタビューの様子」の内容を確認しなさい。

(3) 最後の青木さんの発言を聞きながら、小田さんは次のような疑問をもちました。そこでインタビューの続きで、小田さんは青木さんに質問することにしました。小田さんは、青木さんどのように質問するとよいですか。あとの条件1から条件3にしたがって書きなさい。

最後に青木さんが話したことに関して、青木さんはなぜそうしたいのだろうか。

小田さん

- 条件1 小田さんの疑問をもとにして書くこと。
- 条件2 「意見」という言葉を使って書くこと。
- 条件3 実際に質問するように書くこと。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	32.6%	34.9%	-2.3ポイント	27.6%			☆
出題のねらい	意図に応じて、話の内容を捉え、適切な質問をしている。						
結果	区全体正答率32.6%は、全国平均34.9%を2.3ポイント下回った。 全問中正答率は3番目に低い。 無解答率は27.6%である。 誤答は、「意見」という言葉を使って、実際に質問するように書いているが、「なぜ給食調理員の皆さんの意見を聞きたいのか」という内容を書いていないものが25.8%見られた。						
対策	インタビューでは、事前に作ってきたメモに従って質問するだけではなく、インタビューをしている中で出てきた疑問や気になったことについて質問していくようにする。そうすることで、相手から興味深い話を引き出すことができるようになる。本問では、「小田さん」が何を疑問に思ったのかを考える。「小田さん」は、ここまでのインタビューを通して、献立作りは学校栄養士の仕事、給食を実際に作るのが給食調理員の仕事と理解していたため、献立を考えたときに、なぜ彼らが一緒に話し合いをするのかという点に疑問を感じたという点をおさえさせたい。						

● 7 (通し番号 26)

④ 第二段落には、第一段落で書いたことをふまえて、AとBのどちらの意見に賛成か、あなたの立場と、その理由を書くこと。

＜注意事項＞

資料 スマートフォンを利用することで起きた生活の変化 (全校生徒対象/複数回答)

生活の変化	割合 (%)
家族や友人との交流の増加	63
睡眠時間の減少	60
学習の効率化	42
視力の低下	38

B

スマートフォンの使用時間を制限するように呼びかけてよいと思います。

A

スマートフォンの使用時間を制限するように呼びかけるほうがよいと思います。

7 次の資料は、生徒会が行ったアンケート調査の結果です。生徒会では、全校生徒にスマートフォンの使用時間を制限するように呼びかけるかどうかを考えていて、AとBの意見が出されました。これらを読み、あとの＜注意事項＞にしたがって、あなたの考えを書きなさい。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	32.6%	36.8%	-4.2ポイント	20.9%			☆
出題のねらい	自分の考えを明確にして書いている。						
結果	区全体正答率32.6%は、全国平均36.8%を4.2ポイント下回った。 全問中正答率は3番目に低い。 無解答率は20.9%である。 誤答は、自分の立場は書いているが、理由を書いていないものが13.4%見られた。						
対策	第一段落に書いた、資料から読み取ったことを踏まえて、AとBのどちらの意見に賛成か、自分の立場と、その理由を書く問題である。このように自分の考えの理由を書く場合は、根拠となる事柄が適切であるかを検討する必要があるが、討論や意見文などで生徒が挙げる根拠の中には、単に自分の考えを言い換えたものなども見られる。自分の考え(理由)と客観的な事実・資料(根拠)の違いを理解させたい。その上で、適切な根拠とはどのようなものであるのかについて指導しておきたい。						

(2) 社会

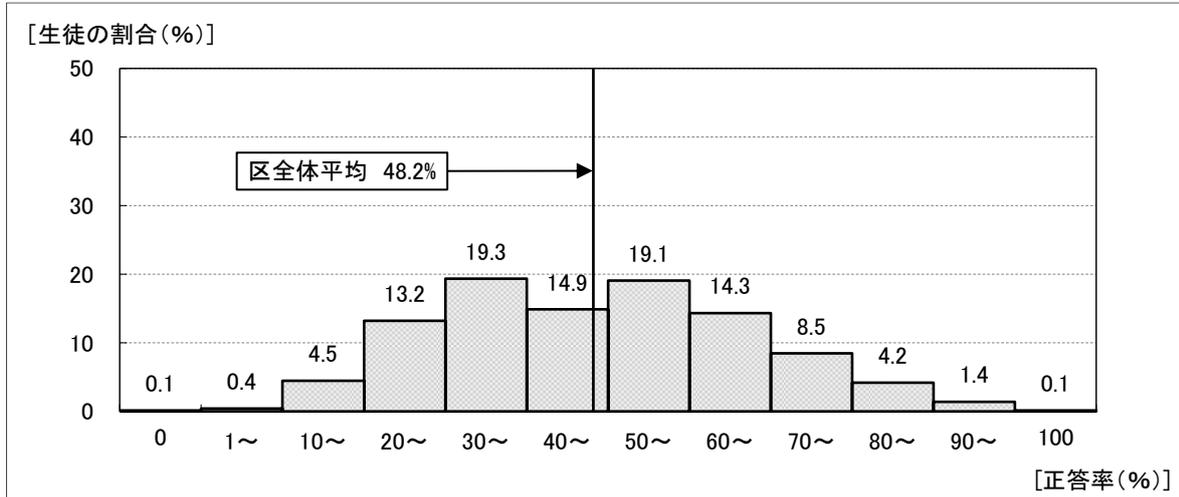
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年	令和元年		
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止	区平均	全国平均	差
48.2	52.4	▼4.2	48.9	53.3	▼4.4	48.5	52.9	▼4.4			62.0	63.6	▼1.6

②度数分布



③領域別正答率

	我が国の政治	我が国の歴史	世界の中の日本の役割
全国平均(%)	61.4	49.4	52.9
区全体正答率(%)	53.2	45.8	51.5
差(%)	▼8.2	▼3.6	▼1.4

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国平均(%)	55.6	42.9	39.4
区全体正答率(%)	50.8	40.5	37.8
差(%)	▼4.8	▼2.4	▼1.6

⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	56.8	39.4
区全体正答率(%)	51.7	37.8
差(%)	▼5.1	▼1.6

◎課題の見られた小問

● 6 (1)

6 次の年表は、昭和時代前半までの主なできごとを示したものです。これを見て、あとの問いに答えなさい。

年表

年	主なできごと
1858	アメリカ合衆国など5か国と修好通商条約を結ぶ……………A
1871	岩倉使節団を欧米諸国に派遣する……………B
1886	ノルマントン号事件が起こる
1894	一部の条約改正に成功する……………C
1914	第一次世界大戦が起こる……………D
1933	国際連盟を脱退する

(1) 次のX～Zの文は、年表中の時期に起きたできごとを示したものです。X～Zの文を解答欄に合わせて、年代の古い順に正しく並べなさい。 ⑩

- X 天皇が国民に与えるという形で、大日本帝国憲法が公布される。
- Y 普通選挙制度が定められ、25才以上のすべての男子に選挙権が認められる。
- Z 6才以上の男女が小学校に通うとする、学校の制度が定められる。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	9.3%	10.8%	-1.5ポイント	2.2%		☆	
出題のねらい	明治時代から大正時代までの歴史の流れについて考察している。						
結果	区全体正答率9.3%は、全国平均10.8%を1.5ポイント下回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は2.2%である。						
対策	小学校第6学年の歴史学習においては、学習の問題を追究・解決する活動を通して、国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産について理解することを目指している。中学校の歴史的分野の学習においては、課題を追究したり解決したりする活動を通して、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特徴を踏まえて理解することを目指している。中学校の学習では、小学校の学習内容を振り返りながら、小学校で学習した人物・文化財・出来事を「歴史の流れ」の中で捉えさせることが大切である。						

9 ゆきやさんたちは、小学校6年の社会科で学んだことを復習し、日本や日本と外国との関係について、くわしく考えてみることにしました。次の問いに答えなさい。

- (2) 次の資料工は、テレビのニュース番組で放送された話題の一部です。この番組を見たあやめさんは、資料工の下線部の意味がわからなかったため、手がかりになる情報をインターネットで調べ、資料オの記事を見つけました。資料オにふれて、資料工に出てくる「インドネシア人の観光客」が楽しみにしていたこととは、何をすることだったのか書きなさい。

資料工 あやめさんがニュース番組で見た話題

最近、外国から日本を訪れる観光客が、急速に増えています。そこで、日本にある店の中には、たくさんの外国人観光客に利用してもらうための取り組みとして、「ハラル(ハラール)」の認証を受けるところが増えました。

イスラム教を信仰しているというインドネシア人の観光客は、「日本への旅行は2度目ですが、1度目のときは、希望に合う店で『ハラル』の認証を受けているところがありませんでした。今回は認証の店を見つけることができたので、ようやく楽しみにしていたことができました。」と、うれしそうに話していました。

(実際に放送されたニュース番組の内容の一部をまとめたもの)

※ 認証…正しく行われていると、専門家が認めること。

※ インドネシア…アジア州にある、イスラム教を信仰する人の数が世界で最も多いとされる国。

資料オ あやめさんがインターネットで見つけた記事

イスラム教は、世界の約4分の1の人が信仰している宗教です。この宗教を信仰する人々は、豚肉を食べません。

イスラム教では、豚肉を食べることや、お酒を飲むことが禁じられています。

このような、イスラム教のきまりやしきたりに沿っていることを、「ハラル(ハラール)」といいます。インドネシアには、食品が「ハラル」であることを専門家が検査して、認証する制度があります。日本でも、イスラム教とつながりが深い人たちによって、「ハラル」の認証を行うしくみがつくられています。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	15.6%	17.7%	-2.1ポイント	27.4%			☆
出題のねらい	外国の人々の生活の様子について、日本の文化や習慣との違いを捉え、複数の資料をもとに考察し、表現している。						
結果	区全体正答率15.6%は、全国平均17.7%を2.1ポイント下回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は27.4%で、全問中2番目に高い。						
対策	小学校第6学年の社会科では、グローバル化する世界と日本の役割について学習した。地図帳や地球儀、各種の資料で調べて必要な情報を集め、それを読み取る中で、日本と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活が多様であること、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解させたい。また、外国の人々の生活の様子などに着目して、日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考えさせていくことも重要である。						

(3) 数学

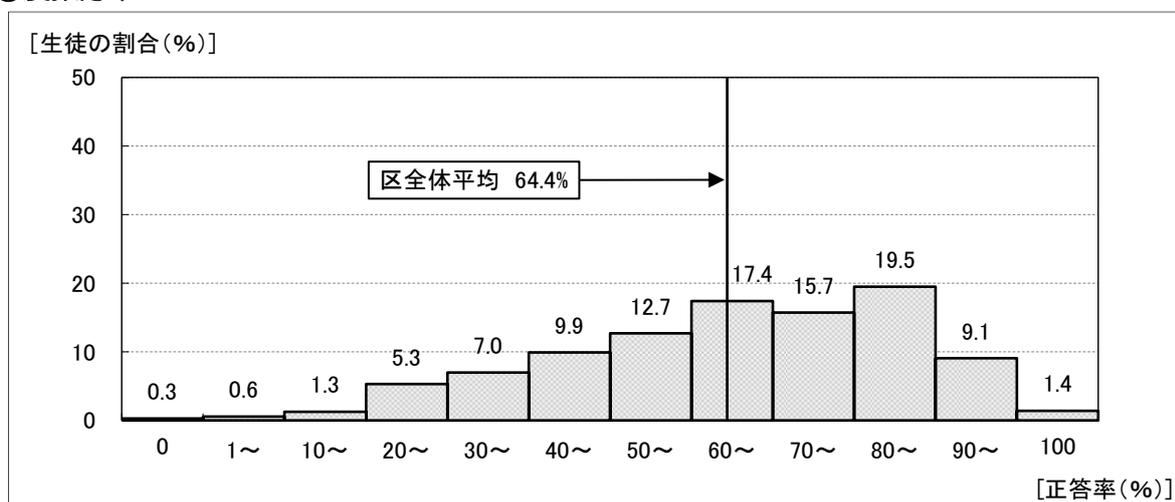
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年	令和元年		
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止	区平均	全国平均	差
64.4	64.4	0.0	65.9	65.8	△0.1	69.1	69.2	▼0.1			72.0	71.9	△0.1

②度数分布



③領域別正答率

	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
全国平均(%)	69.9	69.4	57.0	60.8
区全体正答率(%)	69.5	68.0	56.6	63.1
差(%)	▼0.4	▼1.4	▼0.4	△2.3

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国平均(%)	69.6	52.9	54.9
区全体正答率(%)	69.9	52.5	55.6
差(%)	△0.3	▼0.4	△0.7

⑤基礎・活用別正答率

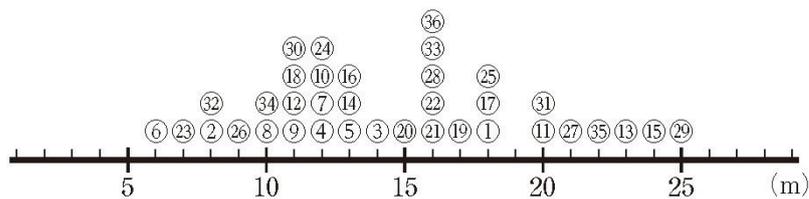
	基礎	活用
全国平均(%)	67.5	52.1
区全体正答率(%)	67.5	52.2
差(%)	0.0	△0.1

◎課題の見られた小問

●19 (1)

19 香葉さんのクラスの生徒36人の、ハンドボール投げの記録と1日の平均運動時間を調べました。

下の図は、香葉さんのクラスのハンドボール投げの記録を、生徒の出席番号ごとにドットプロットに表したものです。あとの問いに答えなさい。



(1) 上のドットプロットから、香葉さんのクラスのハンドボール投げの記録の中央値を求めなさい。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	30.2%	30.3%	-0.1ポイント	6.5%		☆	
出題のねらい	ドットプロットから、中央値を読み取ることができる。						
結果	区全体正答率30.2%は、全国平均30.3%を0.1ポイント下回った。 全問中正答率は3番目に低い。 無解答率は6.5%である。						
対策	本問では、まず、中央値や最頻値といった代表値の意味と必要性を捉えさせる指導が必要である。中央値に関しては、全てのデータを値の大きさの順に並べた際の中央の値であること、データの個数が奇数個と偶数個の場合で求め方が異なることなどを、しっかりと理解させたい。最頻値に関しては、データの中で最も多く現れた値であることを確認させ、数直線の数値を読み間違えないように注意させたい。これらと併せて、ドットプロットへの表し方や、ドットプロットからのデータの読み取りの習熟を図ることも重要である。						

20 「自然エネルギー」とは、太陽や地熱、風といった自然現象によって得られるエネルギーのことです。自然エネルギーは「再生可能エネルギー」とも呼ばれます。世界が目指す持続可能な開発目標(SDGs)として「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」という目標があることを学習した康介さんは、日本の自然エネルギーについて調べました。

康介さんが調べたこと [経済産業省ホームページより作成]

グラフ1 発電量の割合(2021年度)

電気の量(発電量)は「kWh(キロワットアワー)」という単位で表すよ。

康介

グラフ2 発電量をもとにした自然エネルギーの割合の移り変わり

表1 自然エネルギーの発電量と、そこに含まれるバイオエネルギーの発電量

	自然エネルギー (億kWh)	バイオエネルギー (億kWh)
2010年度	1100	150
2020年度	2000	290

※バイオマスを使ったエネルギーのことを、バイオエネルギーといいます。バイオマスとは、動植物由来する資源のことです。

(3) 表1を見て、康介さんは次のように言いました。

表1を見ると、自然エネルギーのうち「バイオエネルギー」の発電量は、2010年度から2020年度にかけておよそ2倍になっています。だから、2010年度から2020年度にかけての、自然エネルギーをもとにした、「バイオエネルギー」の割合もおよそ2倍になっているといえます。

康介

康介さんの言っていることは、正しいですか、正しくないですか。次の1、2から1つ選んで、その番号を書きなさい。また、その番号を選んだ理由を説明しなさい。

- 1 正しい。
- 2 正しくない。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	9.7%	13.7%	-4.0ポイント	12.1%			☆
出題のねらい	もとにする量の大きさが違うとき比べる量の大小と割合の大小は一致しないことを、具体的に説明することができる。						
結果	区全体正答率9.7%は、全国平均13.7%を4.0ポイント下回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は12.1%で、全問中3番目に高い。						
対策	誤答の主な原因としては、割合について習熟していないこと、割合については理解しているが、どのように説明したらよいか分からないことなどが考えられる。表1から年度ごとのバイオエネルギーの割合を計算し、割合は2倍になっていないことを説明する方法と、バイオエネルギーの発電量がおよそ2倍になっているが、自然エネルギーの発電量もおよそ2倍になっていることから、割合は2倍になっていないことを説明する方法があることを理解させる。「説明しなさい」＝「難しい」と考える生徒の苦手意識を取り除く指導も大切である。						

(4) 理科

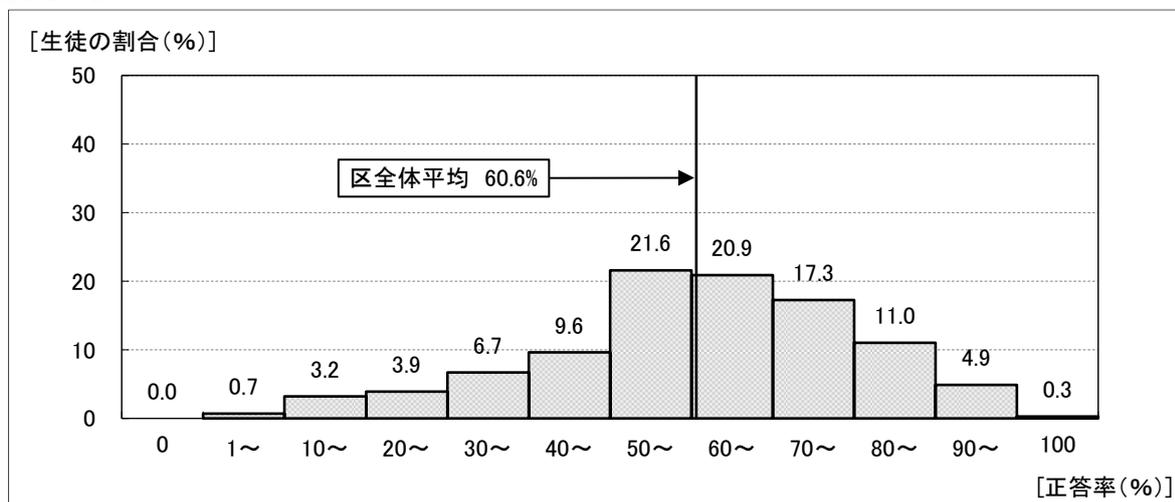
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年	令和元年		
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止	区平均	全国平均	差
60.6	67.0	▼6.4	56.0	62.3	▼6.3	56.8	62.3	▼5.5			57.1	61.4	▼4.3

②度数分布



③領域別正答率

	物質・エネルギー	生命・地球
全国平均(%)	61.6	70.3
区全体正答率(%)	55.0	64.0
差(%)	▼6.6	▼6.3

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国平均(%)	67.0	66.9	69.0
区全体正答率(%)	58.7	63.4	63.3
差(%)	▼8.3	▼3.5	▼5.7

⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	69.5	61.6
区全体正答率(%)	62.4	56.8
差(%)	▼7.1	▼4.8

◎課題の見られた小問

● 4 (3)

4 理奈さんと徹さんは、植物のからだを通る水について、次のように話し合っています。

理奈さん：植物の根からとり入れられた水は、葉まで運ばれたあと、どうなるのかな。

徹さんの予想：葉まで運ばれた水は、葉から出ていくのではないかな。

徹さんの予想が正しいかどうかを確認するために、次のような実験を行いました。あとの問いに答えなさい。

【実験】

- ① 気温の高い晴れた日に、はちに植えられた同じくらいの大きさの2つのホウセンカを並べた。
- ② 次の図のように、葉のついたホウセンカ(A)と、葉をすべてとり去ったホウセンカ(B)に、ポリエチレンのふくろをそれぞれかぶせた。

ホウセンカA



ポリエチレンのふくろ

ホウセンカB



- ③ 20分後、それぞれのふくろの内側のようすを観察した。

(3) 実験を行ったところ、徹さんの予想が正しいことがわかりました。次の文は、徹さんが実験の結果からわかったことと授業で学んだことをまとめたものです。(ア)～(ウ)にあてはまる言葉は、それぞれ何ですか。

植物の根からとり入れられた水は、植物のからだのおもに(ア)にある穴から、(イ)となって出ていく。このことを(ウ)という。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	19.2%	30.0%	-10.8ポイント	11.0%		☆	
出題のねらい	蒸散について理解している。						
結果	区全体正答率19.2%は、全国平均30.0%を10.8ポイント下回った。 全問中正答率は4番目に低い。 無解答率は11.0%である。						
対策	植物の葉をちぎって、裏側の薄い皮をはがし、水蒸気が出ていく穴(気孔)を顕微鏡で観察させる。その際、表側の薄い皮も観察することができるのであれば、表側と裏側の気孔の数を比較させ、一般に葉の裏側の方が気孔の数が多ことを生徒に発見させたい。場合によっては、事前に教師がプレパラートを準備しておき、検鏡だけさせてもよい。これらを踏まえ、植物の体の中の水が、水蒸気になって気孔から出ていくことを、科学的な用語である「蒸散」を使用して説明できるようにさせる必要がある。						

● 11 (3)

11 菜穂さんと康介さんは、環境におよぼすいさぎよさを少なくする「電気自動車」について興味をもち、一般的なガソリン車と電気自動車とのちがいについて調べ、次のようにまとめました。あとの問いに答えなさい。

まとめ ガソリン車と電気自動車とのちがい

ガソリン車

- エンジンでガソリンを燃やしたときに力を出し、タイヤを動かす運動に変える。
- エンジンの内部でガソリンを燃やすため、二酸化炭素を出す。
- 出される二酸化炭素の量が多くなると、環境に悪い影響をおよぼすと考えられている。

ガソリン車



二酸化炭素を出す。

電気自動車

- じゅう電池にためられた電気でモーターを動かす、タイヤを動かす運動に変える。
- ガソリンを使わないため、走るときに二酸化炭素を出さず、環境におよぼすいさぎよさが少ない。
- 電気自動車は、走るときに電気を使い続けるだけでなく、走るための電気をつくりだすしくみも持っている。

電気自動車

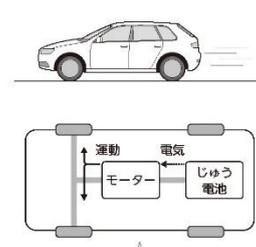


二酸化炭素を出さない。

(3) 2人は、17ページのまとめの下線部の「走るための電気をつくりだすしくみ」について興味をもち、そのことについて調べたことを次のように話しています。

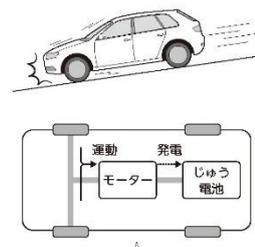
菜穂さん「電気自動車は、どのようにして電気をつくりだしているのかな。」
 康介さん「下り坂を走るときやブレーキをかけたときに、電気自動車が走るときに使われているモーターが、発電機としてはたらくみたいだよ。」

走るとき



走るときに電気を
利用している。

ブレーキをかけたとき



モーターが発電機
としてはたらく。

菜穂さん「18ページの図2の車を走らせるときに、図1の手回し発電機を使っただけど、これに似ているね。」
 康介さん「このしくみは、モーターが使われている電車や自転車などでも、利用されているみたいだね。」

一般的に電気自動車は、ガソリン車と比べてどのような点が優れていますか。上の図から読みとれることを、17ページのまとめも参考にして、「モーター」「電気」「運動」という言葉を使って簡潔に書きなさい。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	14.6%	17.5%	-2.9ポイント	31.6%			☆
出題のねらい	電気自動車がモーターを活用する利点について、ガソリン車と比較して説明できる。						
結果	区全体正答率14.6%は、全国平均17.5%を2.9ポイント下回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は31.6%で、全問中2番目に高い。 正答のうち、電気自動車の利点について、正しく説明しているが、ガソリン車との比較については説明していないものが、4.7%見られた。						
対策	本問の図から、電気自動車とガソリン車の仕組みを理解できない生徒や、両者について断片的な知識だけしか有していない生徒は、解答に戸惑う。誤答の生徒には、本問で示された電気自動車とガソリン車の仕組みについて、文章に整理した形で示したい。また、本問と関連して、ガソリン車のブレーキ操作時にどのようなことが起こるのかを説明することも有効である。長い文章を読み取る自由記述問題であるため、文章の読み取りから解答の記述までの手順を示した上で、その手順に沿って一つ一つを生徒に考えさせるとよい。						

(5) 英語〔A〕

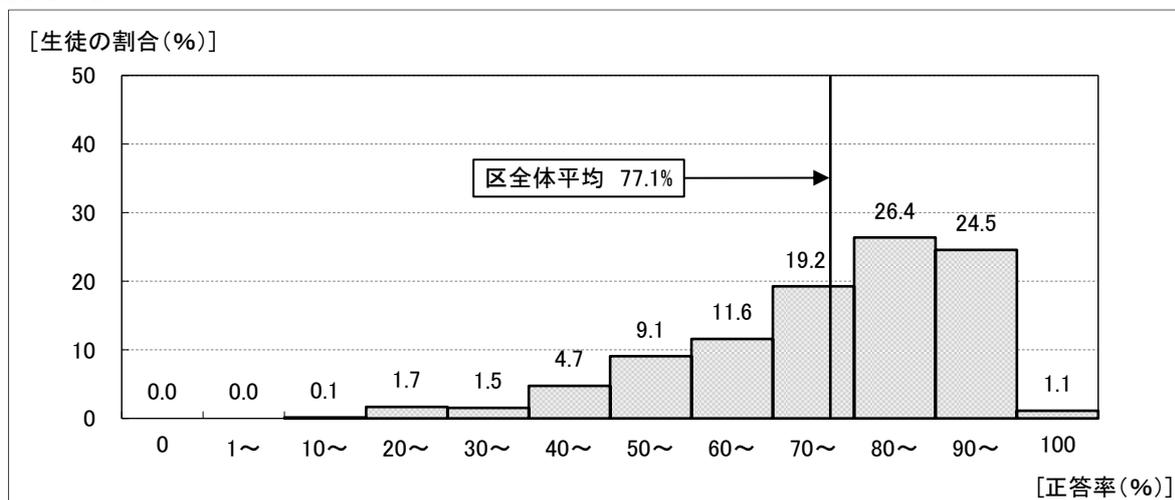
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年	令和元年		
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止	区平均	全国平均	差
77.1	76.8	△0.3	82.8	82.7	△0.1	82.3	79.7	△2.6			—	—	—

②度数分布



③領域別正答率

	聞くこと	読むこと	書くこと
全国平均(%)	74.0	83.3	75.3
区全体正答率(%)	75.4	83.0	74.7
差(%)	△1.4	▼0.3	▼0.6

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国平均(%)	76.6	77.3	85.1
区全体正答率(%)	77.2	76.9	81.9
差(%)	△0.6	▼0.4	▼3.2

⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	76.3	79.2
区全体正答率(%)	77.4	75.5
差(%)	△1.1	▼3.7

◎課題の見られた小問

● 4 (4)

4

次の絵に最も合う英語を、これから言う1～3から1つずつ選びなさい。

⑰

(4)



- 1 }
2 } (1～3の内容は放送されます。)
3 }

- (4) 1 You can't cook here.
2 You can't swim here.
3 You can enjoy camping here.

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	22.0%	25.1%	-3.1ポイント	0.7%	☆		
出題のねらい	身近で簡単な事柄についての英文を聞き、その内容を理解している。(できることとできないこと)						
結果	区全体正答率22.0%は、全国平均25.1%を3.1ポイント下回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は0.7%である。 誤答は、選択肢2(42.4%)と選択肢3(34.9%)ともに、正答率を上回った。						
対策	動作動詞については、1日の生活を表現する単元で扱われることが多い。まず、自分の生活リズムに組み込まれた動作の表現について、確実な定着を図るとよい。ただし、それだけで十分ではなく、視野を広げて、そこにない動作を含めた、さまざまな生活の様子を英語で表現する方法を理解させることも必要である。また、助動詞については、canとcan notだけで理解していると、短縮形(can't)が出てきたときに聞き分けられない可能性があるため、日頃からcanとcan'tの聞き分けについても指導しておくことが大切である。						

● 14 (通し番号 33)

14 なおみは英語の授業で、クラスの友達にインタビューをして、それをもとに友達の紹介文を書くことになりました。あとの【紹介文】は、なおみが次のインタビューシートからみんなに伝えたい情報を選んで書いたものです。【紹介文】の2か所の に共通して入る言葉を、下の から選んで書きましょう。【紹介文】の に入る言葉は、それぞれインタビューシートの中から選んで書きましょう。

Interview Sheet

名前：Akina (女子) 

出身地：Iwate

誕生日：May 14

好きな色：green

得意なこと：running

将来の夢：florist 

【紹介文】



This is Akina.

is from .

I You He She We

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	56.2%	53.3%	2.9ポイント	5.9%		☆	
出題のねらい	インタビューシートから必要な情報を読み取り、紹介文の形式に合わせて書いている。(3人称と出身地)						
結果	区全体正答率56.2%は、全国平均53.3%を2.9ポイント上回った。 全問中正答率は3番目に低い。 無解答率は5.9%である。						
対策	友達の紹介文を書くという場面の状況が理解できれば、主語にI, you, weは入らないことが分かる。3人称については、日頃のやり取りから意識的に使用し、意味理解を十分にさせておくことが必要である。fromについても、外国語の授業に限らず、自己紹介を行ったり聞いたりする経験をさせるとよい。出身を表現するものだと理解できるようになると、自己紹介の幅も広がる。なお、Iwateを書き写す際にが大文字になることに注意させたい。どのような場合に大文字になるのか、日頃から意識して書くことに取り組ませることが求められる。						

5 中学校第2学年

(1) 国語

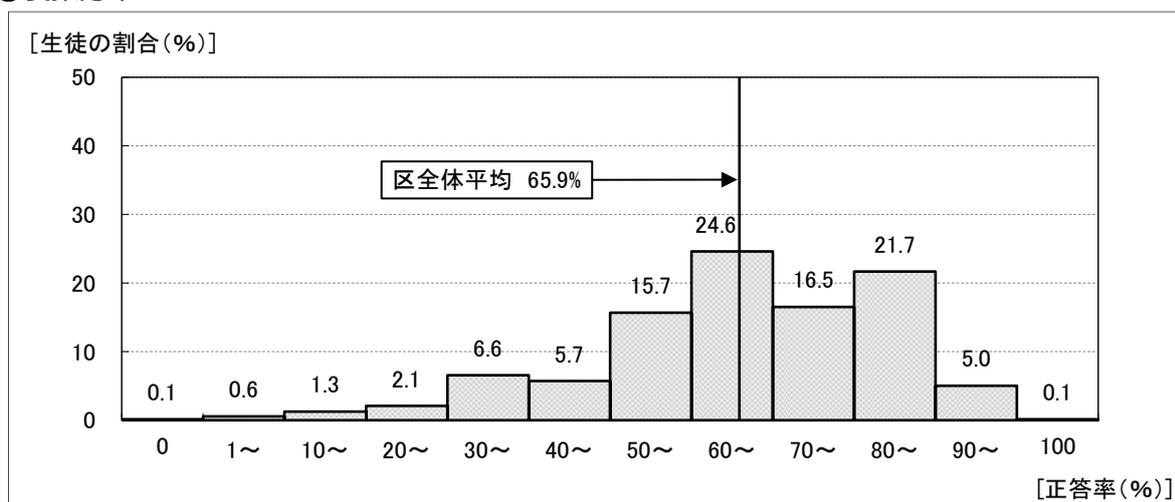
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年	令和元年		
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止	区平均	全国平均	差
65.9	65.1	△0.8	61.5	63.9	▼2.4	65.9	66.7	▼0.8			65.5	66.4	▼0.9

②度数分布



③領域別正答率

	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
全国平均(%)	71.3	67.8	88.7	54.8	62.5	63.7
区全体正答率(%)	71.7	67.8	86.2	56.1	61.5	66.4
差(%)	△0.4	0.0	▼2.5	△1.3	▼1.0	△2.7

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国平均(%)	72.2	60.1	47.6
区全体正答率(%)	72.2	61.3	48.0
差(%)	0.0	△1.2	△0.4

⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	70.3	55.2
区全体正答率(%)	70.9	56.3
差(%)	△0.6	△1.1

⑥課題の見られた小問

● 3 (3)

3

次の問いに答えなさい。

(3) 同じ意味を表す部首に属している漢字の組み合わせとして、最も適切なものを、次から一つ選びなさい。

4	3	2	1
派	恩	板	住
点	往	坂	会

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	18.2%	16.7%	1.5ポイント	1.3%	☆		
出題のねらい	漢字の部首について理解している。						
結果	区全体正答率18.2%は、全国平均16.7%を1.5ポイント上回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は1.3%である。 誤答は、選択肢2（64.8%）が最も多く、正答率を3倍以上上回った。						
対策	漢字の部首については、小学校で学習してきている。それを踏まえて、中学校でも、漢字辞典を使った学習などを通して指導していくようにしたい。その際、単に部首を覚えさせるのではなく、意味を考えさせたり、画数を確かめさせたりするなどの工夫が必要である。						

【構成メモ】

A ○ラッピング電車とは何か
・車体にフィルムを貼った電車

B ○ラッピング電車の歴史
・昔：ペンキで塗装
○ラッピング電車の利点と効果
・商品の広告のラッピング

木村さん

最初に、ラッピング電車とは何かを話します。
資料1を見てください。ラッピング電車とは、車体を特別なデザインにするために、フィルムを貼った電車のことです。

次に、ラッピング電車の歴史を話します。昔は、車体をペンキで塗装していました。しかし、フィルムを車体に貼る方法が開発され、ラッピング電車が誕生しました。フィルムを貼る方法は、ペンキと比べて、デザインの変更がしやすいのです。

続いて、ラッピング電車の利点を話します。商品の広告をラッピングした場合、広告が電車の外側に大きく示されるので、多くの人の目に触れるという利点があります。〈★〉



資料1

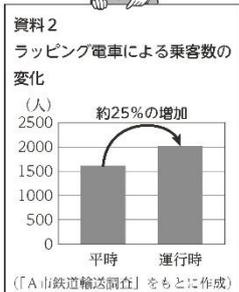
青山さん

ア ほうが、ラッピング電車の利点を納得しやすいと思います。

↓

木村さん

また、アニメなどのキャラクターの絵をラッピングした場合、観光客の増加も期待できます。観光客を集めるためにラッピング電車を行っている鉄道会社は増えています。**資料2**を見てください。その地域を舞台としたアニメのラッピング電車を運行した際に、観光客が増え、1日の乗客数が平時よりも約25%増加したそうです。ラッピング電車は、観光客を集める効果があるのです。青山さん、ラッピング電車の利点と効果について伝わりましたか。



資料2
ラッピング電車による乗客数の変化

(人)

時期	乗客数(人)
平時	1500
運行時	2000

約25%の増加

(「A市鉄道輸送調査」をもとに作成)

青山さん

はい。イ ことがよく分かりました。

(3) 【場面②】で、青山さんは、木村さんの話を聞いて理解したことを話しています。青山さんの発言の「イ」に当てはまる言葉を、次の**条件1**と**条件2**にしたがって書きなさい。

条件1 ラッピング電車には、どのような利点と効果があるかを明確にして書くこと。

条件2 二十五字以上、五十字以内で書くこと。

【場面①】

木村さんは、ラッピング電車について、調べたことを学級でスピーチすることになりました。そこで、木村さんは、友達に青山さんの前でリハーサルをしています。次の**【場面①】**と**【場面②】**は、そのリハーサルの様子です。また、**【構成メモ】**は、木村さんが事前に作成したスピーチの構成メモの一部です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【場面②】

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	26.4%	23.6%	2.8ポイント	17.5%			☆
出題のねらい	話の内容を捉え、自分の考えをまとめている。						
結果	区全体正答率26.4%は、全国平均23.6%を2.8ポイント上回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は17.5%で、全問中2番目に高い。 誤答は、「観光客を集めるという効果がある」という内容を、25字～50字で書いているが、「多くの人の目に触れるという利点がある」という内容を書いていないもの(43.9%)が多く、正答率を上回った。						
対策	本問では、「条件1」より、ラッピング電車の「利点」と「効果」について明確に書くことが求められている。空欄「イ」が【場面②】にあることから、この部分から考えようとする生徒が多いであろう。しかし、【場面②】には「効果」については書かれているが、「利点」については書かれていない。「利点」について述べられているのは【場面①】であることに気が付くことが重要である。問題を解くとき、どうしても直接対象となる部分だけを見て考えようとする傾向が見られるが、全体を考える対象として解いていくことを意識させることが重要である。						

(2) 社会〔地理〕〔歴史〕

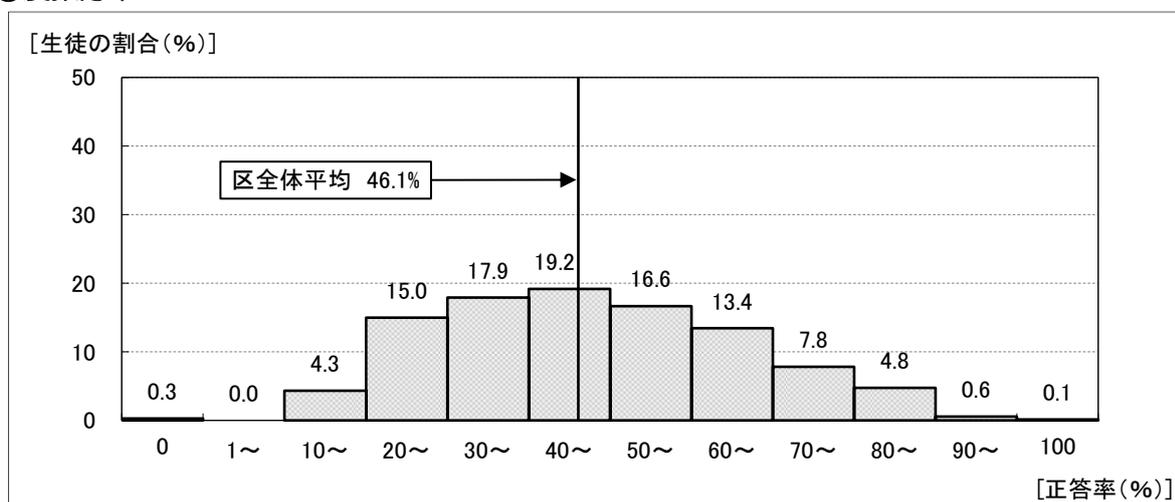
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年	令和元年		
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止	区平均	全国平均	差
46.1	50.0	▼3.9	44.7	51.2	▼6.5	52.5	56.4	▼3.9			62.3	65.0	▼2.7

②度数分布



③領域別正答率

	地理	歴史
全国平均(%)	48.2	51.7
区全体正答率(%)	43.7	48.5
差(%)	▼4.5	▼3.2

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国平均(%)	54.4	44.2	39.7
区全体正答率(%)	48.7	42.6	37.5
差(%)	▼5.7	▼1.6	▼2.2

⑤基礎・活用別正答率

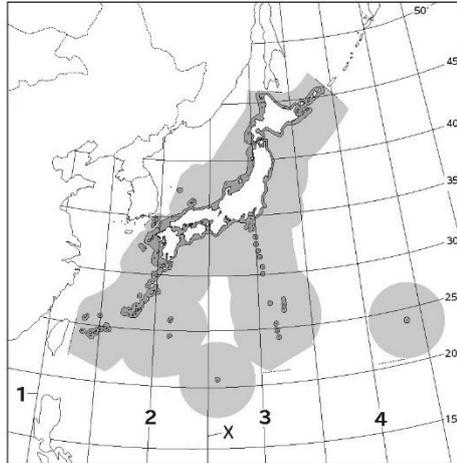
	基礎	活用
全国平均(%)	55.1	39.7
区全体正答率(%)	50.4	37.5
差(%)	▼4.7	▼2.2

◎課題の見られた小問

●2 (1)②

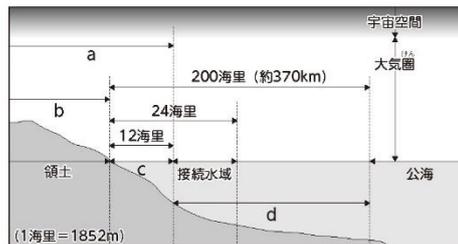
2 日本の姿について、次の問いに答えなさい。

(1) 右の資料アを見て、次の問いに答えなさい。



② 次の資料イ中の a～dのうち、dは資料ア中の [] を表しています。領空と領海にあてはまるものの組み合わせとして正しいものを、あとの1～6から1つ選びなさい。

資料イ 領土・領海・領空の区分



- | | | | | | |
|---|------|--------|---|------|--------|
| 1 | 領空…a | 領海…c | 2 | 領空…a | 領海…d |
| 3 | 領空…a | 領海…c+d | 4 | 領空…b | 領海…c |
| 5 | 領空…b | 領海…d | 6 | 領空…b | 領海…c+d |

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	21.3%	26.3%	-5.0ポイント	0.1%	☆		
出題のねらい	領海と領空について理解している。						
結果	区全体正答率21.3%は、全国平均26.3%を5.0ポイント下回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は0.1%である。 誤答は、選択肢3 (32.6%) が最も多く、正答率を上回った。						
対策	国の領域については、領土・領海の上空が領空であるという基本をまずおさえさせる。その上で、日本では、領海が領土の沿岸から12海里までの水域であることをおさえさせる。さらに、日本は、領海の外側で沿岸から200海里 (約370km) までの水域を、排他的経済水域として設定していることを理解させたい。						

8 次の文章は、ゆいさんと先生が、世界と日本の国々について話し合った会話の一部です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

先生：今日は地図帳や資料を使って、日本と国土面積が同じくらいの国を、**A** 6つの州ごとに探してみましょう。

ゆい：日本の国土面積は約38万km²ですね。**B** アジア州ではベトナムやマレーシア、ヨーロッパ州ではドイツ、アフリカ州ではコンゴ共和国やジンバブエ、南アメリカ州ではパラグアイが、日本の国土面積と同じくらいの広さのようです。

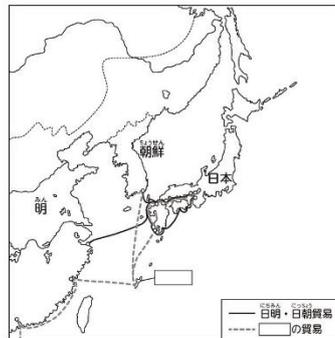
先生：北アメリカ州、オセアニア州の国々ではどうでしょうか。

ゆい：北アメリカ州、オセアニア州には、日本の国土面積と同じくらいの広さの国はないようです。また、カナダ、アメリカ合衆国やオーストラリアの面積は、日本の国土の20倍以上の広さがあります。

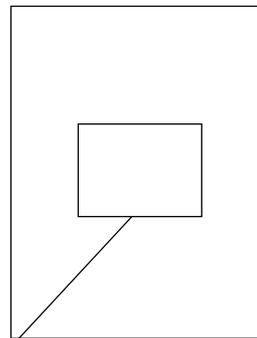
先生：アジア州にも中国や**C** インドなど、国土面積が世界10位以内の国があります。

(2) 会話文中の下線部Bのアジアについて、次の資料ウ、エをもとに、資料ウ中とあとの銘文中の□に共通してあてはまる国名を、当時の名称で書きなさい。

資料ウ 室町時代の日本と東アジアの国との主な交易路



資料エ 首里城正殿にかけられていた「万国津梁の鐘」



銘文

□国は南海の恵まれた地域にあり、朝鮮の優れた文化を集め、中国とは、ほおの骨と歯ぐきのように重要な関係にあり、日本とは、唇と歯のように密接な関係にある。□国はこの二つの国の間にある理想的な島である。船を通して万国のかけ橋となり、国内には各国の産物や宝物が満ちあふれている。

(部分要約)

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	22.5%	32.3%	-9.8ポイント	33.8%		☆	
出題のねらい	東アジアとの交流についての理解をもとに、資料を読み取っている。						
結果	区全体正答率22.5%は、全国平均32.3%を9.8ポイント下回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は33.8%で、全問中2番目に高い。						
対策	室町時代では、日明貿易や琉球王国の国際的な役割などを基に、東アジア世界と密接な関わりが見られたことをおさえさせる必要がある。また、琉球王国が、日本や明、朝鮮、東南アジア諸国との産物のやり取りをする、中継貿易に従事していたことについても理解させたい。社会科の授業では、資料から情報を読み取る技能を身に付けることが重要なので、複数の情報を見比べたり結び付けたりすることを、日頃の授業の中で、繰り返し実践していくことが大切である。						

(3) 数学

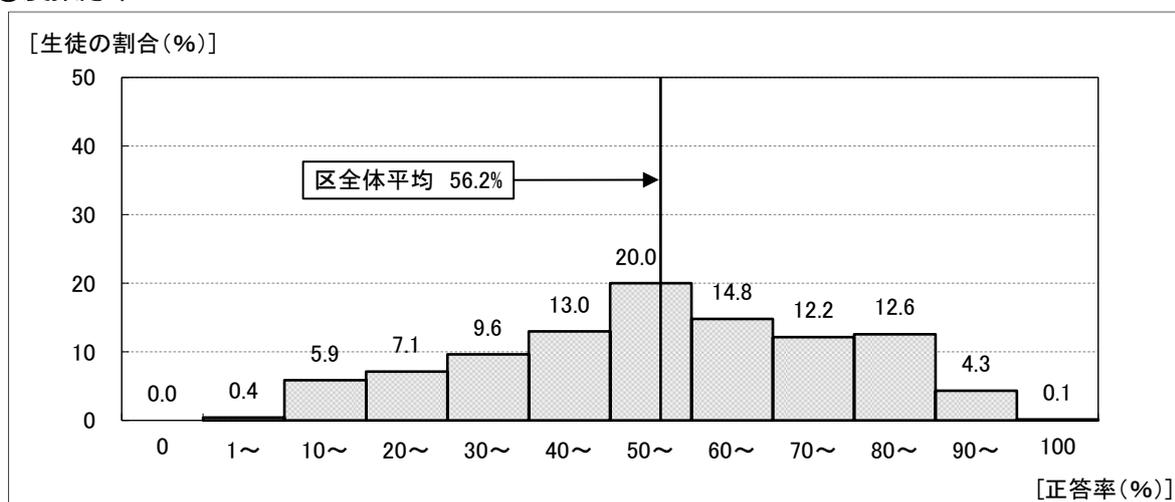
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年	令和元年		
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止	区平均	全国平均	差
56.2	54.7	△1.5	52.3	53.4	▼1.1	59.1	56.6	△2.5			56.9	53.7	△3.2

②度数分布



③領域別正答率

	数と式	図形	関数	データの活用
全国平均(%)	58.9	58.6	45.6	49.9
区全体正答率(%)	61.8	59.4	44.8	51.5
差(%)	△2.9	△0.8	▼0.8	△1.6

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国平均(%)	58.9	36.5	45.7
区全体正答率(%)	60.9	35.9	45.2
差(%)	△2.0	▼0.6	▼0.5

⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	58.2	43.9
区全体正答率(%)	60.4	43.6
差(%)	△2.2	▼0.3

⑥課題の見られた小問

● 7 (通し番号 11)

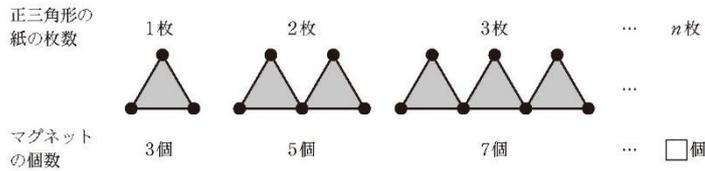
7 妹と兄は、同じ中学校に通っています。ある朝、妹は兄より3分先に家を出発しましたが、学校に着く前に兄に追いつかれました。妹は分速60m、兄は分速80mで同じ道を歩いたとすると、妹が家を出発してから兄に追いつかれるまでの時間は何分ですか。

妹が家を出発してから x 分後に、兄に追いつかれたとして方程式をつくりなさい。ただし、つくった方程式を解く必要はありません。 ⑩

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	6.6%	11.6%	-5.0ポイント	29.3%		☆	
出題のねらい	与えられた文章題に対して、適切な1元1次方程式を立式することができる。						
結果	区全体正答率6.6%は、全国平均11.6%を5ポイント下回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は29.3%で、全問中2番目に高い。						
対策	本問では、初めに速さ・時間・道のりの関係について復習させる。その上で、妹が兄に追いつかれたときに2人の歩いた道のりが等しくなり、(妹の歩いた道のり) = (兄の歩いた道のり)と表されることを確認する。妹は兄より3分先に家を出発しているため、兄の歩いた時間は、 $(x-3)$ 分と表される。よって、 $60x=80(x-3)$ と立式できることを理解させたい。立式するときには、何を x と置き、何についての方程式を立てるのか、そして一つ一つの数や文字、文字式が何を表しているのか、単位はそろっているかなどを確認するように指導することが求められる。						

18 次の図1のように、合同な正三角形の紙を並べ、頂点をマグネットでとめて模様をつくりまします。 n 枚の正三角形の紙を並べて模様をつくるのに必要なマグネットの個数を考えまします。

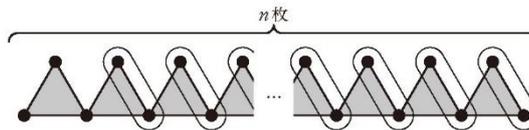
図1



このとき、次の問いに答えなさい。

- (3) 次の図3のように囲み方を変えてみると、 n 枚の正三角形の紙を並べて模様をつくるのに必要なマグネットの個数は、 $3+2(n-1)$ という式で表すことができます。この式になる理由について、下の説明を完成しなさい。

図3



説明

マグネットを図3のように囲むと、1つの囲みの中にマグネットが2個ある。

したがって、 n 枚の正三角形の紙を並べて模様をつくるのに必要なマグネットの個数を表す式は、 $3+2(n-1)$ になる。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	9.5%	12.7%	-3.2ポイント	40.6%			☆
出題のねらい	正三角形の紙を n 枚並べてできる模様に必要なマグネットの個数を示された式で求めることができる理由を数学的に説明することができる。						
結果	区全体正答率9.5%は、全国平均12.7%を3.2ポイント下回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は40.6%で、全問中最も高い。 誤答は、「 $2(n-1)$ 」の表す内容と「3」の表す内容のどちらか一方のみを書いているもの(10.6%)が多く、正答率を上回った。						
対策	誤答の主な原因として、図3から、マグネットの個数が $3+2(n-1)$ という式で表されることが理解できないこと、理解はできるが、どのように説明したらよいか分からないことなどが考えられる。図3について、(2)の図2や説明を参考にしながら考えさせるとよい。1つの囲みにマグネット2個が入っている図形が $(n-1)$ 個あることから、囲まれているマグネットの個数は $2(n-1)$ 個になる。左端に囲まれていないマグネットが3個あるから、必要なマグネットの個数は、 $2(n-1)$ 個より3個多くなることを理解させて、記述させることが大切である。						

(4) 理科

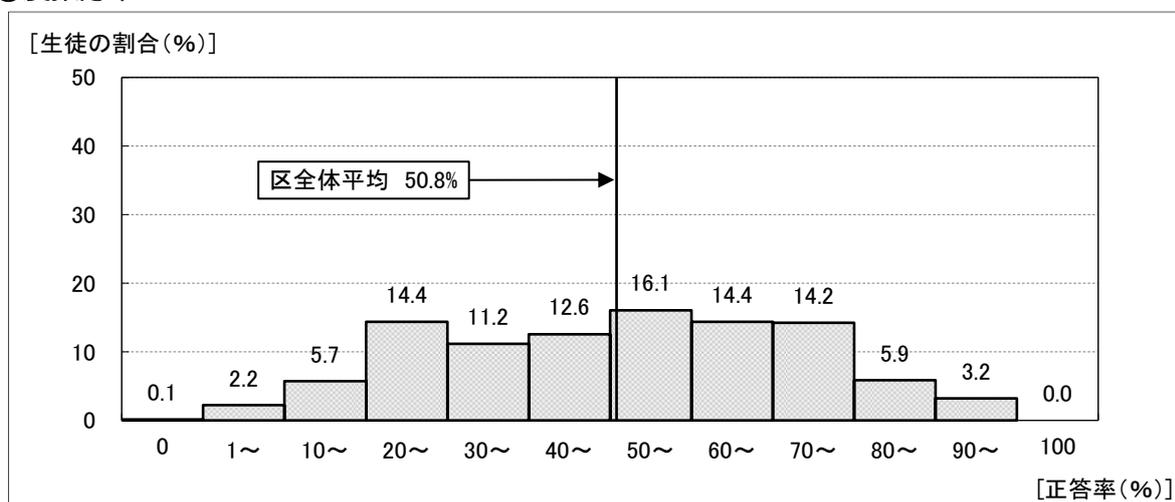
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年	令和元年		
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止	区平均	全国平均	差
50.8	56.0	▼5.2	48.0	54.9	▼6.9	47.7	54.0	▼6.3			57.8	58.6	▼0.8

②度数分布



③領域別正答率

	エネルギー	粒子	生命	地球
全国平均(%)	56.7	51.2	65.1	50.4
区全体正答率(%)	54.5	47.4	54.6	46.4
差(%)	▼2.2	▼3.8	▼10.5	▼4.0

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国平均(%)	66.8	42.4	46.8
区全体正答率(%)	60.3	38.8	47.2
差(%)	▼6.5	▼3.6	△0.4

⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	63.9	39.6
区全体正答率(%)	58.2	35.4
差(%)	▼5.7	▼4.2

◎課題の見られた小問

●5(2)

5

陽菜^{ひな}さんは、家族で海水浴に行きました。泳いでいるときに、口に入った海水がともしょっぱかったので、海水の塩分の濃度^{のうど}について興味をもちました。そこで、海水を学校の実験室に持っていき、先生と次のような実験を行いました。あとの問いに答えなさい。ただし、海水には、塩化ナトリウムのほかに、複数の物質がとけていますが、ここでは、海水には塩化ナトリウムのみがとけているものとしてします。

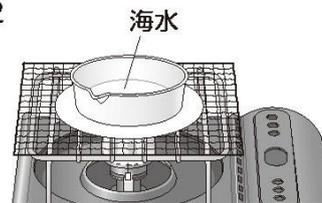
[実験]

- ① 図1のように、砂などをとり除くために海水をろ過した。
- ② 図2のように、ろ過した海水を加熱し、水を蒸発させて、塩化ナトリウムをとり出した。

図1



図2



- (2) 海水は、水の中に塩化ナトリウムがとけています。この水のように、物質をとかしている液体を何といいますか。

16

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	14.2%	27.3%	-13.1ポイント	15.6%		☆	
出題のねらい	溶媒について理解している。						
結果	区全体正答率14.2%は、全国平均27.3%を13.1ポイント下回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は15.6%である。						
対策	水の中に塩化ナトリウムがとけている海水の場合、塩化ナトリウムのようにとけている物質を溶質、水のように溶質をとかす液体を溶媒、溶質が溶媒にとけた液全体を溶液という。溶媒という言葉になじみがない生徒も多いと思われる。溶質、溶媒、溶液の関係性は水溶液の基礎であるので、具体例を出しながら生徒にわかりやすく指導したい。						

12 絵美さんは、水族館で見た「ウミヘビ」について興味をもち、科学的に探究した内容をレポートにまとめました。あとの問いに答えなさい。



絵美さん

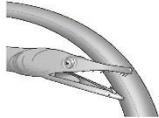
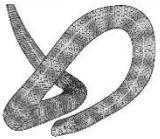
ウミヘビって、どの動物のなかまに分類されるのかな。水族館で見た「ダイナンウミヘビ」と「エラブウミヘビ」の特徴を調べて考えてみよう。

レポート

【疑問】
ウミヘビは、動物のどのなかまに分類されるのだろうか。

【課題】
水族館で見た「ダイナンウミヘビ」と「エラブウミヘビ」の特徴を調べて、分類していく。

【調べたこと】

調べたこと	ダイナンウミヘビ	エラブウミヘビ
見た目		
背骨の有無	背骨がある。	背骨がある。
大きさ	120cm～200cm	70cm～150cm
なかまのふやし方	水中で卵を産む。	海水面よりも上にある陸上の岩場や穴などに卵を産む。
生活をする場所	海	海や陸
呼吸のしかた	えら	肺
その他の特徴	ヒレがあり、毒はないが、鋭い歯をもち、かみつかれる可能性がある。	非常に大人しい性格だが、毒性はつよい。体の表面は、うごこでおおわれている。

【考察】
.....

(2) レポートの「なかまのふやし方」について、絵美さんは、次のように話しています。



絵美さん

ダイナンウミヘビもエラブウミヘビもどちらも卵を産むね。卵を産む場所によって、卵の特徴に違いがないのかな。

絵美さんの話とレポートから、「エラブウミヘビ」の卵には、「ダイナンウミヘビ」の卵と比べて、どのような特徴があると考えられますか。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	24.3%	36.4%	-12.1ポイント	21.6%		☆	
出題のねらい	レポートから、ダイナンウミヘビとエラブウミヘビの卵の特徴の違いを推測できる。						
結果	区全体正答率24.3%は、全国平均36.4%を12.1ポイント下回った。 全問中正答率は3番目に低い。 無解答率は21.6%で、全問中3番目に高い。						
対策	本問では、ダイナンウミヘビやエラブウミヘビを知らない場合、難しそうであると戸惑う生徒がいることが考えられる。そのような生徒には、卵を産む場所から卵の特徴を考える問題であることを確認させたい。魚類、両生類、は虫類、鳥類は、いずれも卵で仲間を増やす。教科書などで紹介されている動物を例に挙げ、卵を産む場所により殻がどのように違っているのかを考えさせて、陸上で卵を産む生物の卵は、乾燥に耐える丈夫な殻に覆われていることを理解させたい。						

(5) 英語〔A〕

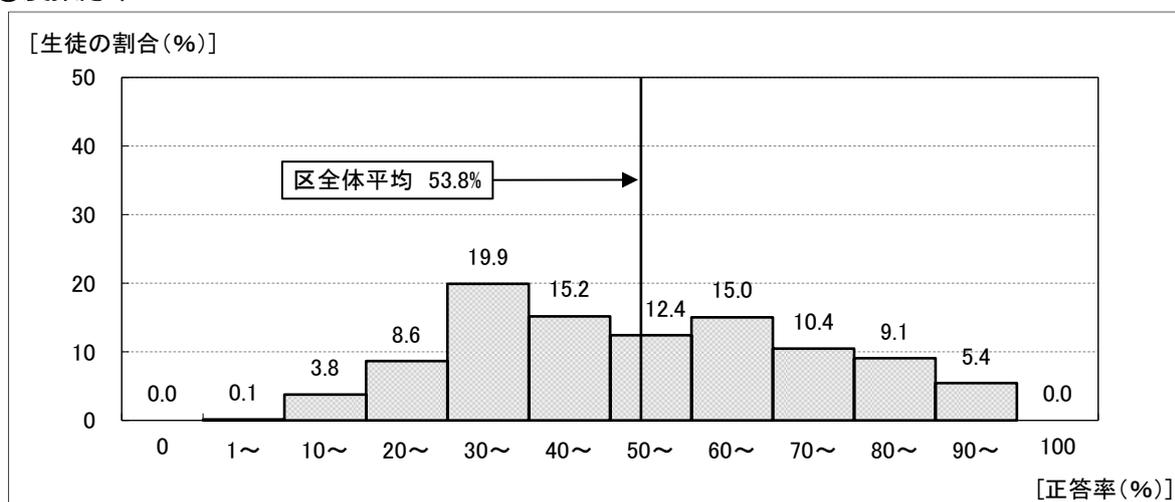
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年	令和元年		
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止	区平均	全国平均	差
53.8	52.7	△1.1	46.3	46.1	△0.2	56.2	55.9	△0.3			61.0	61.5	▼0.5

②度数分布



③領域別正答率

	聞くこと	読むこと	書くこと
全国平均(%)	66.3	58.9	31.7
区全体正答率(%)	67.0	58.5	35.6
差(%)	△0.7	▼0.4	△3.9

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国平均(%)	59.9	44.0	35.0
区全体正答率(%)	59.6	46.9	39.4
差(%)	▼0.3	△2.9	△4.4

⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	56.0	45.9
区全体正答率(%)	56.1	49.3
差(%)	△0.1	△3.4

⑥課題の見られた小問

● 7 (2)

- (2) 中学生のジロウは、同級生のビルと2人で、平日の放課後に市民プールへ遊びに行くつもりです。次は、ビルがもってきた、プール(swimming pool)の利用案内の英語版です。中学生の2人が何時までプールを利用できるかを知るためには、この中の1~4のどの部分を読めばよいですか。最も適切なものを1つ選びなさい。⑩

Asahi Swimming Pool

Welcome to Asahi Swimming Pool. We have a 25-*meter swimming pool and a small one for *elementary school students. We have a swimming school, too. Let's practice and enjoy swimming at our swimming pool!

*Opening Hours:
 *From Monday to Friday: 10:00 a.m. – 8:00 p.m.
 On Saturday and Sunday: 10:00 a.m. – 7:00 p.m.
 *Fee: 400 yen

【Swimming school】 (on weekends)

For elementary school students	10:00 a.m. – 11:30 a.m.
For junior high school students	1:00 p.m. – 2:30 p.m.
For *adults	3:00 p.m. – 4:30 p.m.

★ After 6:00 p.m., elementary school and junior high school students can use our swimming pool only with adults.
 ★ You can't eat or drink in the swimming pool.
 ★ You can't take pictures.

(注) *meter メートル *elementary school 小学校 *opening hours 営業時間
 *from ~ to ... ~から...まで *fee 料金 *adult 大人

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	29.2%	27.0%	2.2ポイント	0.4%	☆		
出題のねらい	プールの利用案内を読み、必要な情報がどの部分にあるかを把握して、適切な箇所を選んでいく。						
結果	区全体正答率29.2%は、全国平均27.0%を2.2ポイント上回った。 全問中正答率は4番目に低い。 無解答率は0.4%である。 誤答は、選択肢3(49.4%)が最も多く、正答率を上回った。						
対策	授業において教科書で教えるときに大切なこととして、まず自分の力で読ませてみるということが挙げられる。多少分からない単語があっても、意味を推測しながら読み進めることが必要である。その際、「〇〇を示している箇所に下線を引いてみよう」といった活動を取り入れることによって、自分で読み進める力を身に付けさせることができる。その後、細かく解説して、自分の読解と比較させることが大切である。						

● 10 (2)

10 次の(1)と(2)の対話が成り立つように、それぞれ()に入る適切な英文を3語以上の1文で書きなさい。 ㊦

(2) 〈教室で〉

Ted: Is this your pencil?

Rie: No, it's not mine.

Ted: ()?

Rie: It's Mike's.

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	21.6%	24.9%	-3.3ポイント	34.0%			☆
出題のねらい	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。(whoseを用いて誰のものかたずねる)						
結果	区全体正答率21.6%は、全国平均24.9%を3.3ポイント下回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は34.0%で、全問中3番目に高い。 正答のうち、軽微な誤りや2か所以上のつづりの誤りがあるものが5.0%見られた。						
対策	空欄の直前の文にある“it's not mine”という部分や、空欄の直後にある“it's Mike's.”の一文から推測して、「誰のものか」を尋ねるためにwhoseという疑問詞を使うことに気付くこと、疑問詞whoseの後ろは疑問文の形となることを文法的に把握していることなどが重要である。また、what, which, whoseは、直後に名詞をとることができる疑問詞であることを、まとめの際にあわせて確認させることも大切である。						

6 中学校第3学年

(1) 社会〔地理〕〔歴史〕

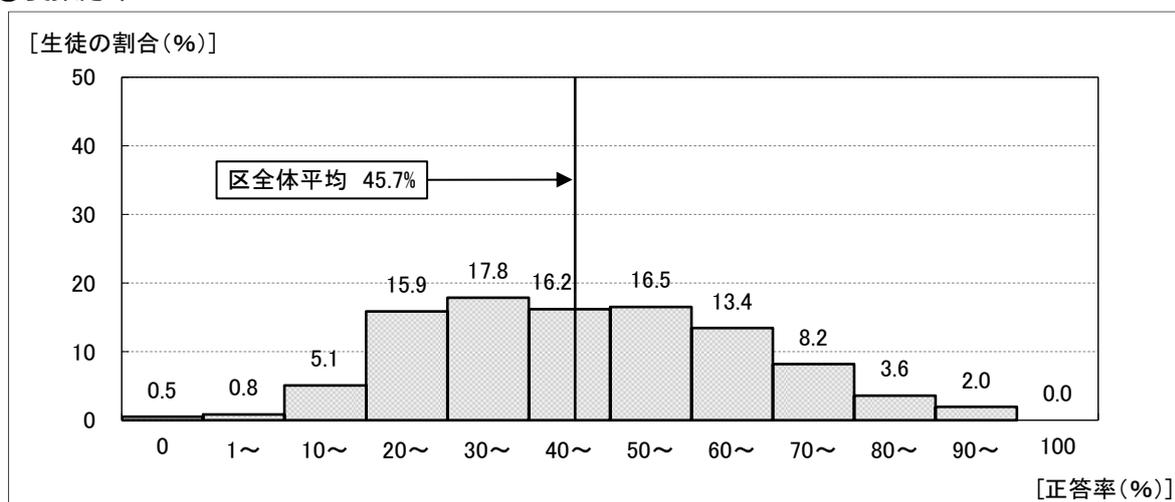
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年	令和元年		
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止	区平均	全国平均	差
45.7	53.0	▼7.3	50.8	54.5	▼3.7	52.1	55.0	▼2.9			54.7	56.3	▼1.6

②度数分布



③領域別正答率

	地理	歴史
全国平均(%)	55.4	50.5
区全体正答率(%)	48.5	42.9
差(%)	▼6.9	▼7.6

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国平均(%)	53.8	52.0	43.1
区全体正答率(%)	44.9	46.6	36.8
差(%)	▼8.9	▼5.4	▼6.3

⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	57.2	43.1
区全体正答率(%)	49.5	36.8
差(%)	▼7.7	▼6.3

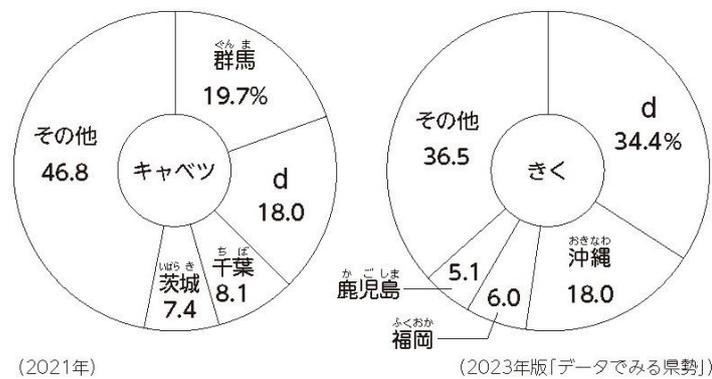
◎課題の見られた小問

●2 (4)

2 あきらさんの班では、日本の諸地域について学習しました。次の問いに答えなさい。

(4) 次の資料ウは、中部地方で生産が盛んな2つの農産物の都道府県別生産割合を示したものです。資料ウ中のdに共通してあてはまる県を、あとの1～4から1つ選びなさい。

資料ウ



- 1 愛知県 2 長野県 3 静岡県 4 岐阜県

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	26.4%	21.0%	5.4ポイント	1.1%	☆		
出題のねらい	中部地方の農業の特色について理解している。						
結果	区全体正答率26.4%は、全国平均21.0%を5.4ポイント上回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は1.1%である。 誤答は、選択肢2（41.2%）が多く、正答率を上回った。						
対策	「日本の諸地域」の学習では、地域の特色を捉える5つの視点から、7つに区分された地域や、それらを統合したり、細分したりした地域の特色を学習する。どの地域についても、はじめに、自然環境や人口、産業の特色を大観させる学習を行い、それぞれの地域的特色をしっかりと理解させる必要がある。その際、小学校の社会科で学習した各都道府県の位置と名称について必ず確認させたい。また、各地方の地形や気候の特色、その地方に属する都道府県ごとの、農林水産業や鉱工業などの特色を、統計資料を活用しておさえさせることも重要である。						

(2) 理科

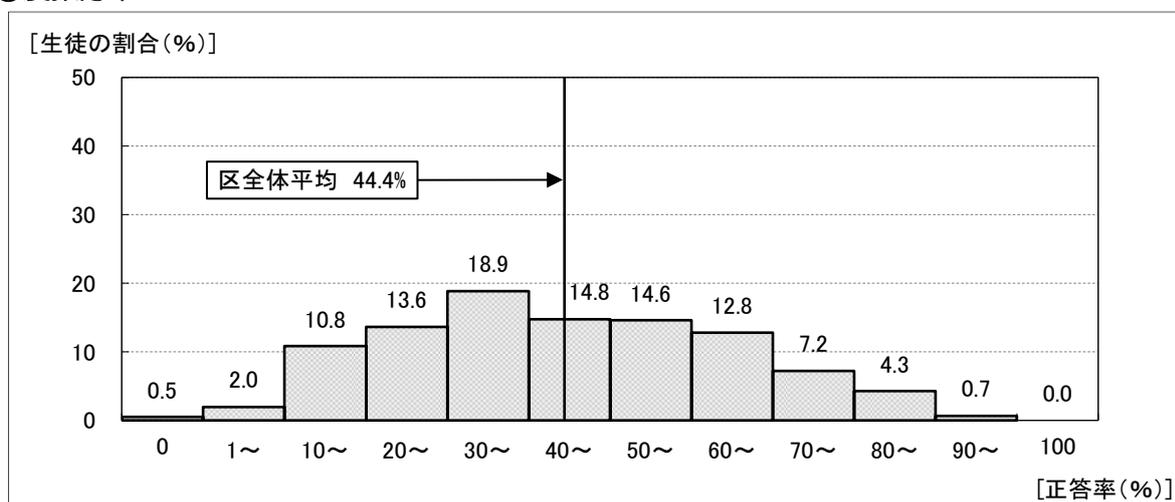
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年	令和元年		
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止	区平均	全国平均	差
44.4	50.5	▼6.1	43.8	48.6	▼4.8	—	—	—			53.9	55.9	▼2.0

②度数分布



③領域別正答率

	エネルギー	粒子	生命	地球
全国平均(%)	47.9	51.2	57.9	43.0
区全体正答率(%)	44.0	43.2	51.5	37.2
差(%)	▼3.9	▼8.0	▼6.4	▼5.8

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国平均(%)	54.8	44.6	42.1
区全体正答率(%)	46.5	41.5	39.0
差(%)	▼8.3	▼3.1	▼3.1

⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	53.4	44.7
区全体正答率(%)	46.3	40.5
差(%)	▼7.1	▼4.2

⑥課題の見られた小問

● 3 (1)

3 恵さんと徹さんは、化学変化と質量の関係について調べるため、課題を設定し、実験を行いました。あとの問いに答えなさい。

〔課題〕

炭酸水素ナトリウムと塩酸の化学変化を通して、「質量保存の法則」が成り立つかどうかを調べる。

〔実験〕

- ① 図1のように、炭酸水素ナトリウム1.5gと、うすい塩酸5cm³を別々のプラスチックのカップに入れ、いっしょに電子てんびんにのせ、反応前の全体の質量をはかった。
- ② 図2のように、炭酸水素ナトリウムにうすい塩酸を静かに加えて十分に反応させ、反応のようすを観察した。
- ③ 反応が終わったら、図3のように、電子てんびんにのせ、反応後の全体の質量をはかった。

図1



図2



図3



〔結果〕

表

	全体の質量
反応前	48.00g
反応後	47.30g

〔考察〕

.....

(1) 実験で使用した、炭酸水素ナトリウムの化学式を書きなさい。

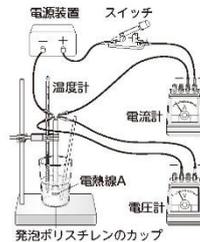
⑦

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	25.1%	25.8%	-0.7ポイント	24.1%		☆	
出題のねらい	炭酸水素ナトリウムの化学式を理解している。						
結果	区全体正答率25.1%は、全国平均25.8%を0.7ポイント下回った。 全問中正答率は3番目に低い。 無解答率は24.1%で、全問中2番目に高い。						
対策	炭酸水素ナトリウムは化学式でNaHCO ₃ と表されるが、使われるアルファベットも多く、理解が難しい生徒が多くいると思われる。いきなり炭酸水素ナトリウムの化学式を指導するのではなく、まずはナトリウム原子がNa、水素原子がH、炭酸（二酸化炭素）がCO ₂ と表されるという基本から着実に指導を行っていくことが大切である。						

10 誠さんは、電熱線の発熱量を調べるために、次のような実験を行いました。あとの問いに答えなさい。

【実験】

- ① 発泡ポリスチレンのカップに一定量の水を入れ、電熱線Aを水の中に入れて、室温と水温が等しくなるまで放置した。
- ② 右の図のように、電熱線A、電源装置、スイッチ、電流計、電圧計をつなぎ、スイッチを入れ、6.0Vの電圧を加えた。
- ③ 1分ごとに4分間、水温を測定した。
- ④ 電熱線Aのかわりに電熱線Bを入れて、同様に①～③を行った。



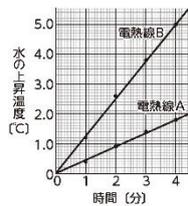
【結果】

測定した結果を、次のように表とグラフにまとめた。

表

電圧[V]	電熱線A					電熱線B				
		6.0					6.0			
電流[A]	0.5					1.5				
時間[分]	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
水の上昇温度[℃]	0	0.4	0.9	1.4	1.8	0	1.2	2.6	3.8	5.0

時間と上昇温度の関係のグラフ



(3) 誠さんは、電熱線Aと電熱線Bの2つの電熱線を使って、さらに実験をしようと考えています。



電熱線Aと電熱線Bのつなぎ方を変えると、水の上昇温度の大きさが変わりそうだね。直列につないだ場合と、並列につないだ場合では、どちらの方が水の上昇温度が大きいのかな。

一定時間、同じ電圧を加えたとき、電熱線Aと電熱線Bを直列につないだ場合と、並列につないだ場合では、どちらの方が水の上昇温度が大きいのと考えられますか。解答用紙の(直列・並列)のどちらかを○で囲みなさい。また、そのように考えた理由を、簡潔に書きなさい。ただし、電熱線Aと電熱線Bのつなぎ方以外は、すべて同じ条件とします。

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	7.9%	11.9%	-4.0ポイント	15.9%			☆
出題のねらい	並列でつないだ方が、電熱線による水の上昇温度が大きくなることを説明できる。						
結果	区全体正答率7.9%は、全国平均11.9%を4.0ポイント下回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は15.9%である。 誤答は、(つなぎ方)は並列に○をつけているが、(理由)に誤りがあるもの(22.0%)が多く、正答率を上回った。						
対策	電池を直列と並列につないで電球をつけると、並列より直列につないだ方が明るく点灯する。この経験に影響を受けるのか、直列つなぎは電気エネルギーを出すものとする生徒がいる。誤答の生徒には、電流の発熱は電力が関係し、電力は電流×電圧で求められることを確認させたい。また、問題文からどのような回路を問うているのかがつかめない生徒もいる。電熱線A・Bを直列、並列にし、同じ電圧をかける回路であることを指摘したい。各回路の電流の強さを確認させると、電力の様子が分かるので、生徒の理解が深まる。						

(3) 英語〔A〕

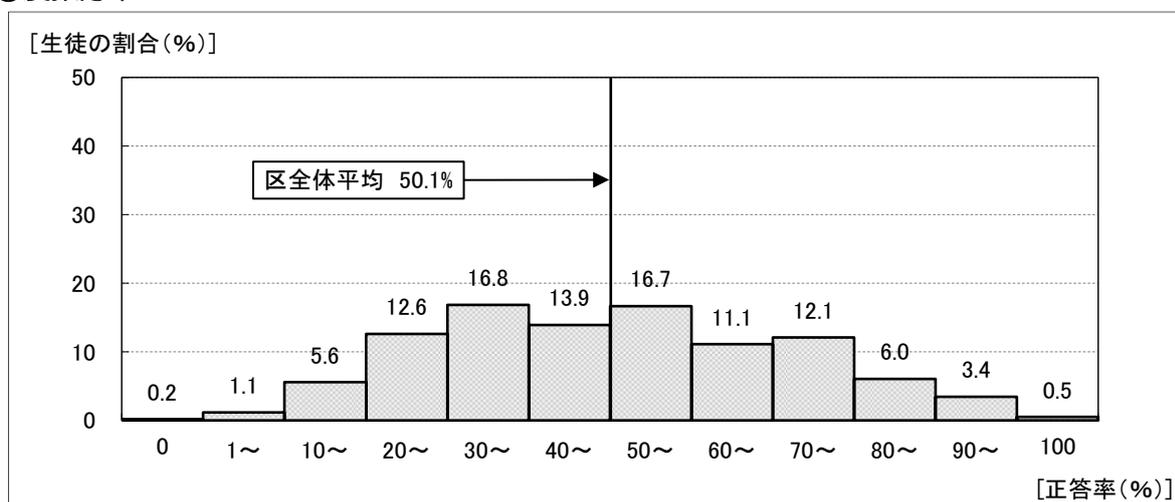
△：区平均が全国平均を上回っている

▼：区平均が全国平均を下回っている

①全国比較

令和6年			令和5年			令和4年			令和3年	令和2年	令和元年		
区全体平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	区平均	全国平均	差	休止	休止	区平均	全国平均	差
50.1	50.9	▼0.8	—	—	—	56.1	54.1	△2.0			—	—	—

②度数分布



③領域別正答率

	聞くこと	読むこと	書くこと
全国平均(%)	53.3	59.5	34.9
区全体正答率(%)	53.4	57.1	36.0
差(%)	△0.1	▼2.4	△1.1

④観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国平均(%)	64.1	33.8	20.0
区全体正答率(%)	62.5	34.2	22.0
差(%)	▼1.6	△0.4	△2.0

⑤基礎・活用別正答率

	基礎	活用
全国平均(%)	58.0	37.3
区全体正答率(%)	56.8	37.4
差(%)	▼1.2	△0.1

⑥課題の見られた小問

● 8 (4)

8 次は、留学生のステイブ(Steve)がクラスメートのリョウタ(Ryota)に送ったメールと、それに対するリョウタの返信です。よく読んで、あとの問いに答えなさい。

From:	Steve
To:	Ryota
Subject:	About the school festival

Hi, Ryota,
 We are going to make one big *artwork for the school festival, right? The festival is next month, so I was thinking about it. Now, I have an idea for it. How about using *trash like *plastic bottles to make an artwork? There is a lot of trash around us. My grandfather lives in a small town by the sea, and I often go there. I like watching the beautiful sea there, but I always (ア) a lot of trash on the *beach. I want to *save such beautiful nature. So, I want to use such trash for the artwork and give the *opportunity to people to think about the *environmental problems. I want to tell everyone in our class about my idea. What do you think about it?
 Steve

From:	Ryota
To:	Steve
Subject:	Re: About the school festival

Hi, Steve,
 I read your e-mail.
 That's a great idea. I think that it will give messages to people and they will think more about environmental problems. I read about the environmental problems in a book. It says that animals are getting sick because of a lot of trash. Why don't we use trash and make a big *sculpture of an animal? To make the big artwork, we need a lot of trash. I think we can get a lot of trash if our classmates *pick it up together. Let's tell them about your idea next week. I hope they will understand your idea and bring some trash for the sculpture.
 Ryota

(注) *artwork 芸術作品 *trash ごみ *plastic bottle ペットボトル *beach 浜辺
 *save ~を守る *opportunity 機会 *environmental 環境の *sculpture 像
 *pick ~ up ~を拾い上げる

(4) 次は、リョウタからのメールに対して、ステイブが返信したメールです。本文の内容に合うように、に入る適切な英語2語を、ステイブあるいはリョウタのメールの中から抜き出して書きなさい。

From:	Steve
To:	Ryota
Subject:	Re:Re: About the school festival

Hi, Ryota,
 Your idea is great! It will give the strong message to people, and they will think that they must save for animals. To *collect a lot of trash is not easy, but *I'm sure we can do it.
 Steve

(注) *collect ~を集める *I'm sure ~ きっと～だ

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	13.2%	16.0%	-2.8ポイント	35.5%		☆	
出題のねらい	メールを読み、その概要を捉えて英文を完成させている。						
結果	区全体正答率13.2%は、全国平均16.0%を2.8ポイント下回った。 全問中正答率は2番目に低い。 無解答率は35.5%で、全問中4番目に高い。						
対策	授業においてメールや手紙文を扱うときに、返信のメールや返事の手紙を書かせるなどのライティング活動を取り入れる。その際、適切な英文を書くためには、元のメールや手紙の内容を正確に理解している必要がある。英文全体の内容を理解する手段として、各段落の中で何回も登場する語を探したり、各段落の大体の内容を英語の短い文で表したりして、その段落で最も言いたいことを探し当てていくことも有効である。						

● 10 (1)

10 次の(1)と(2)の対話が成り立つように、それぞれ()に入る適切な英文を3語以上の1文で書きなさい。 ㊦

(1) 〈教室で〉

Kate: Are you on the baseball team?

Hiroki: Yes. I really enjoy it.

Kate: That's good. ()?

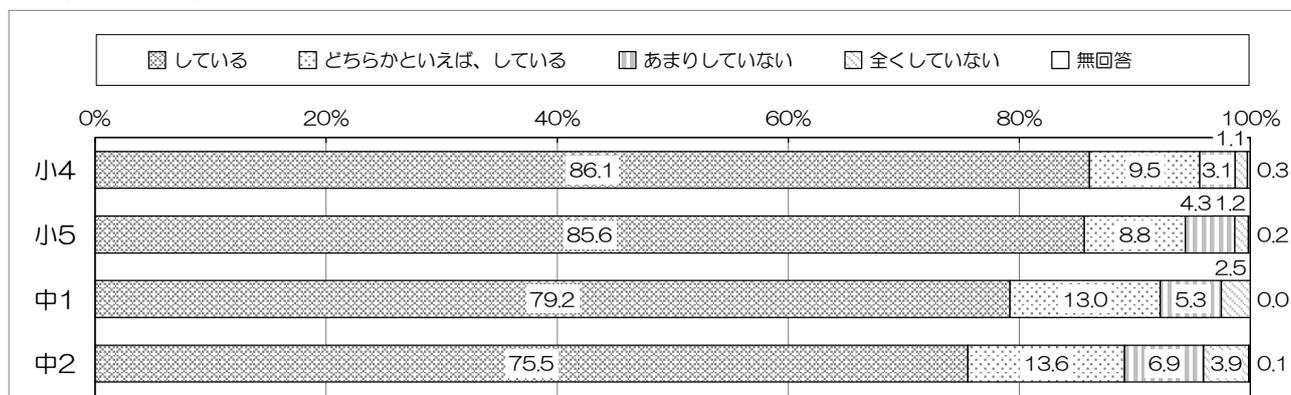
Hiroki: Twenty members. Everyone is very kind to me.

	区全体	全国平均	全国平均との差	無解答率	選択式	短答式	記述式
正答率	7.4%	10.7%	-3.3ポイント	29.1%			☆
出題のねらい	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。(部員数をたずねる)						
結果	区全体正答率7.4%は、全国平均10.7%を3.3ポイント下回った。 全問中正答率は最も低い。 無解答率は29.1%である。 誤答は、How manyを用いた疑問文を書いているが、語数不足や文構造の誤り等で正答条件を満たしていないもの(44.1%)が最も多く、全体の4割を超えている。						
対策	“Twenty members.”の一文から内容を推測して、「何人いるのか」を尋ねるためにhow manyを使うことに気付くこと、how manyの後ろは疑問文の形となることを文法的に把握していることなどが重要である。また、対話文では、対話全体の流れをつかむことが大切である。授業においては、オリジナルのスキットを作らせることで対話の流れを考えさせたり、教科書にある対話文の一部を空欄にして、そこに入る内容を推測させたりすることが有効である。						

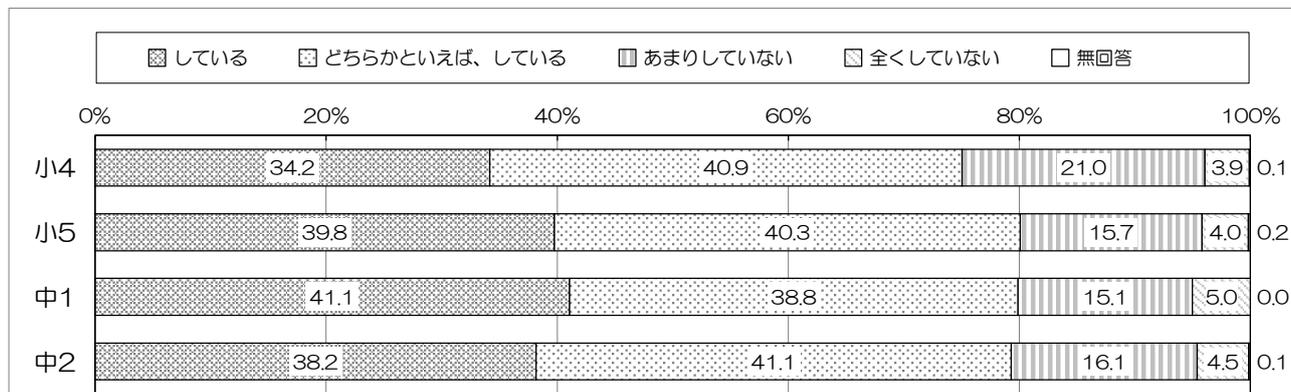
第2章 児童・生徒の生活・学習実態（アンケート調査）

1 基本的な生活習慣等

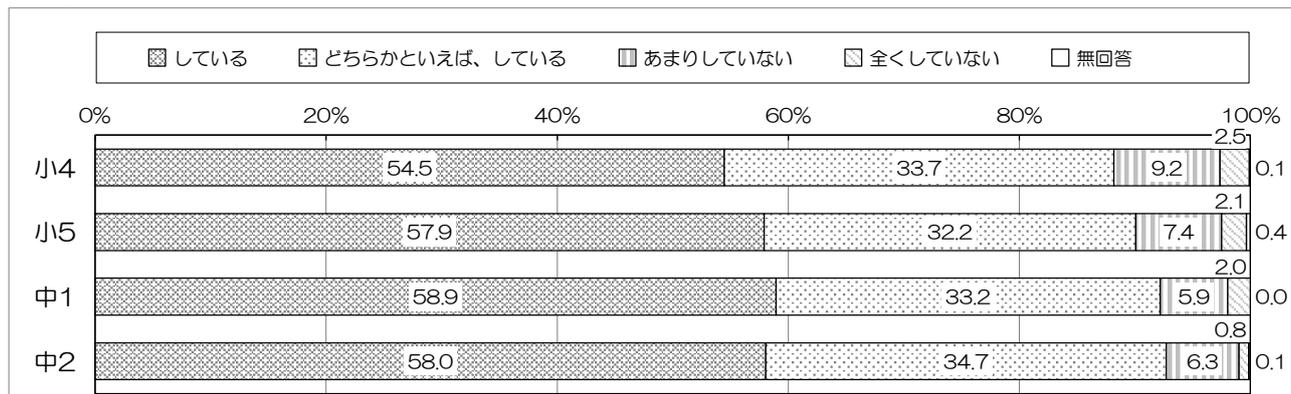
(1) 朝食を毎日食べている。



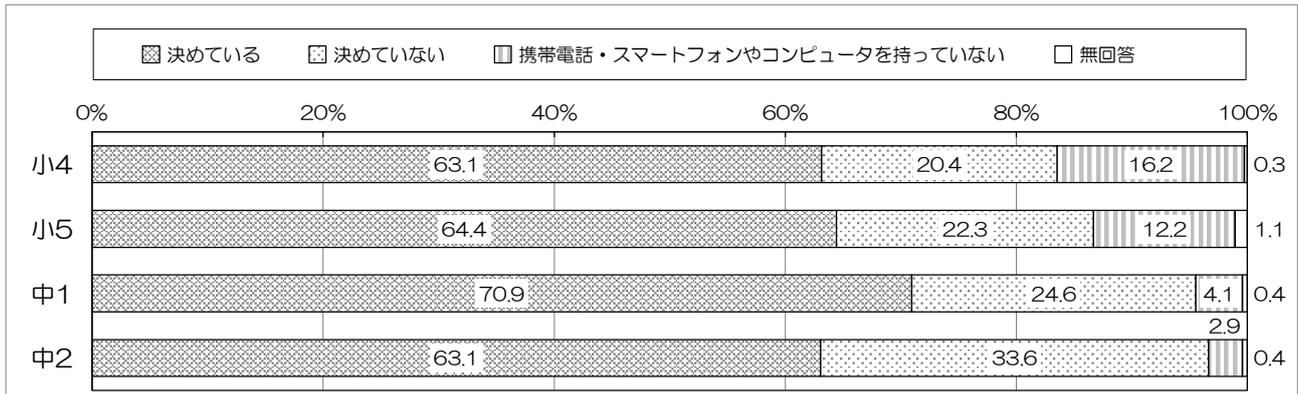
(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。



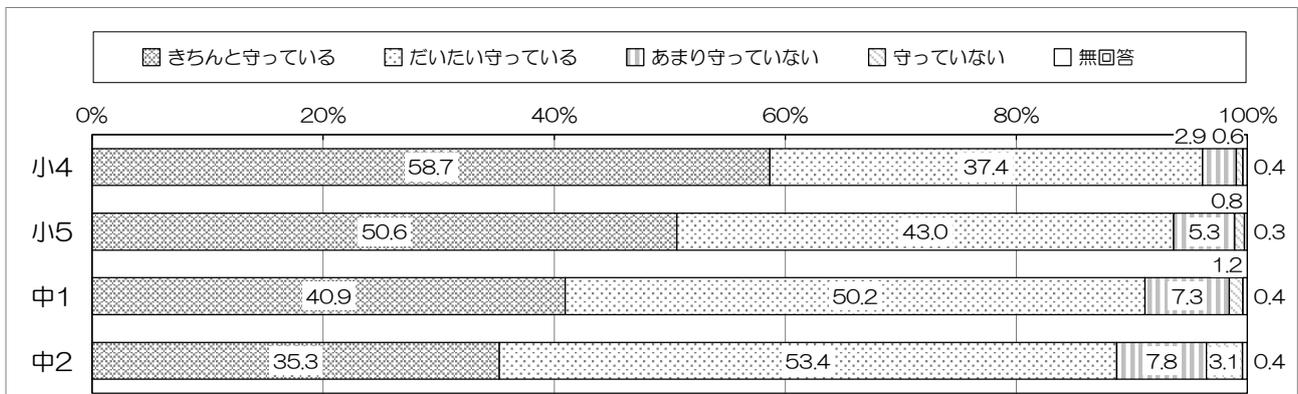
(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きている。



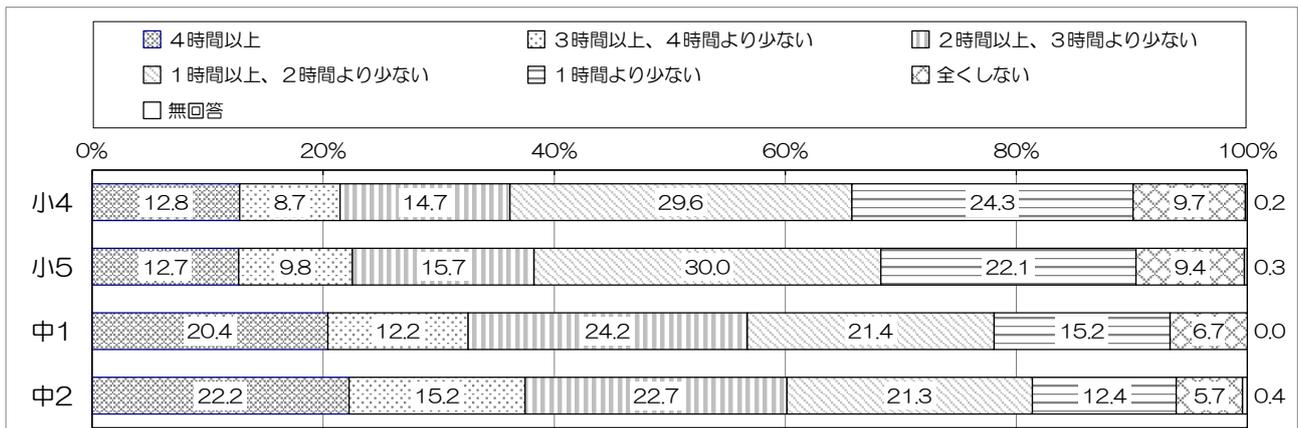
(4) 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束を決めていますか。



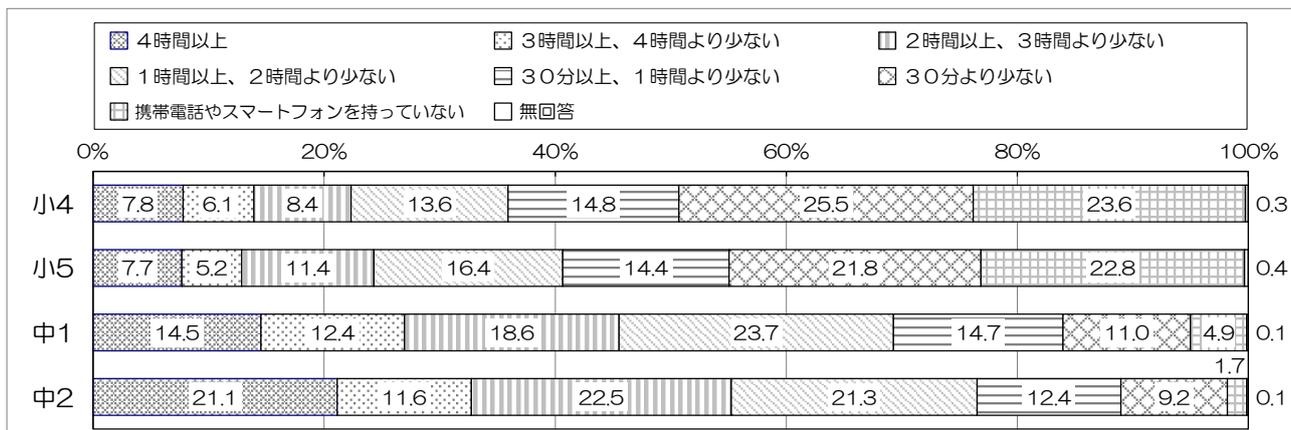
(5) 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。



(6) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。）をしますか。

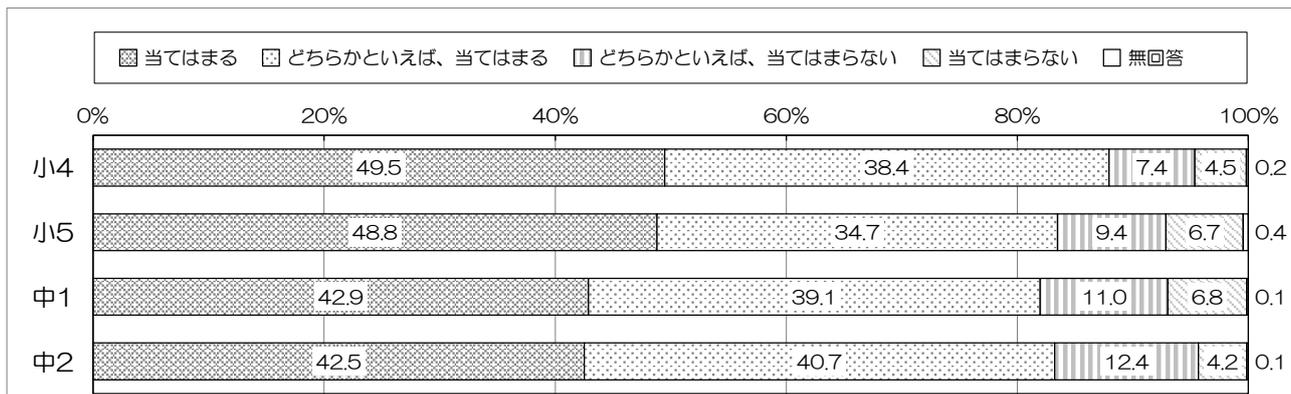


(7) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除きます）。

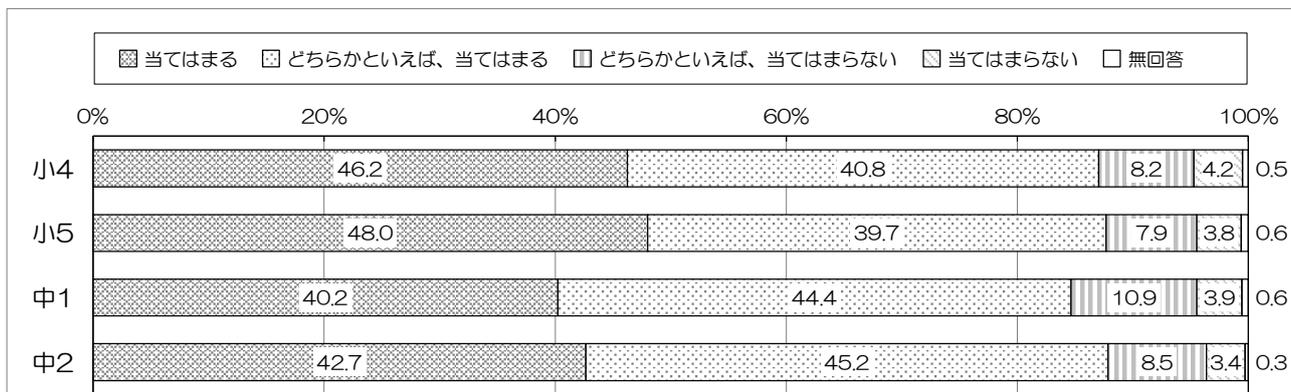


2 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

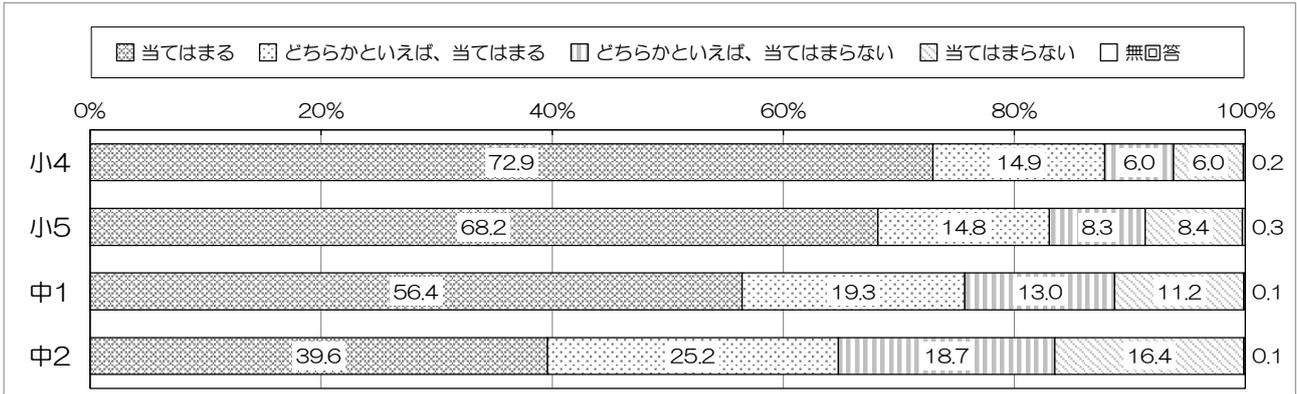
(8) 自分には、よいところがあると思う。



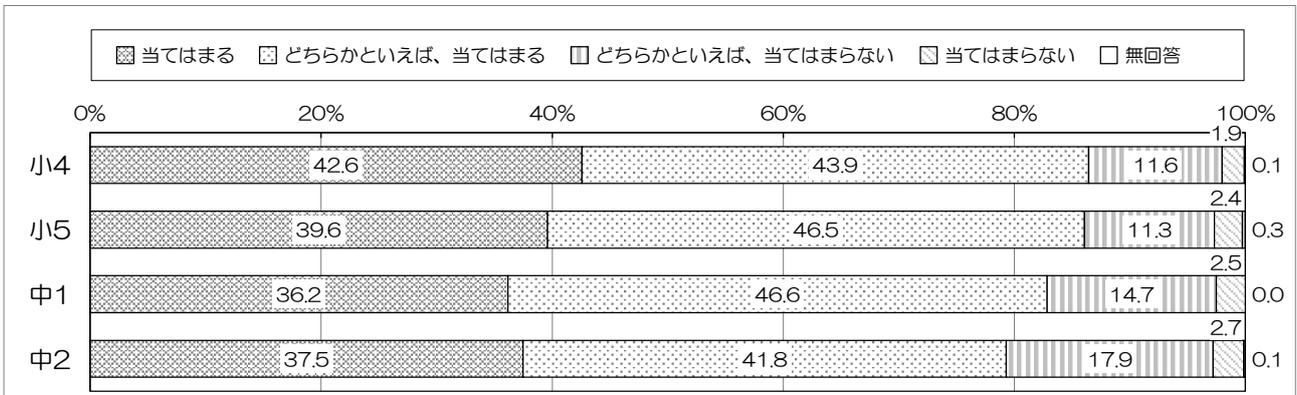
(9) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。



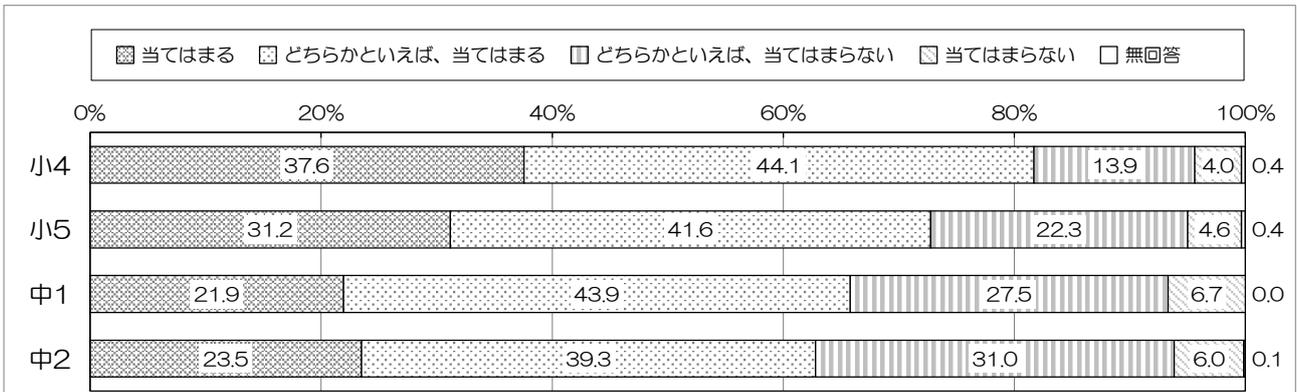
(10) 将来の夢や目標を持っている。



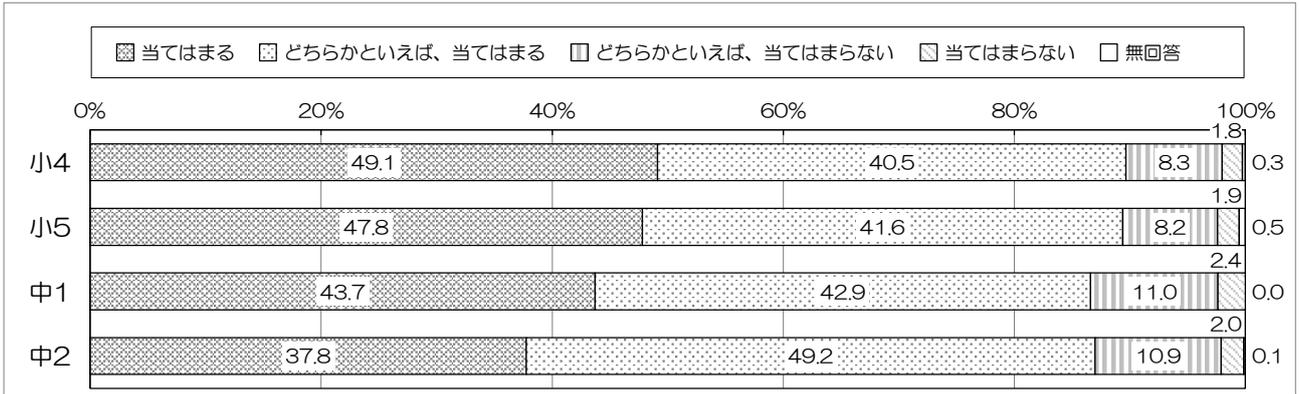
(11) 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。



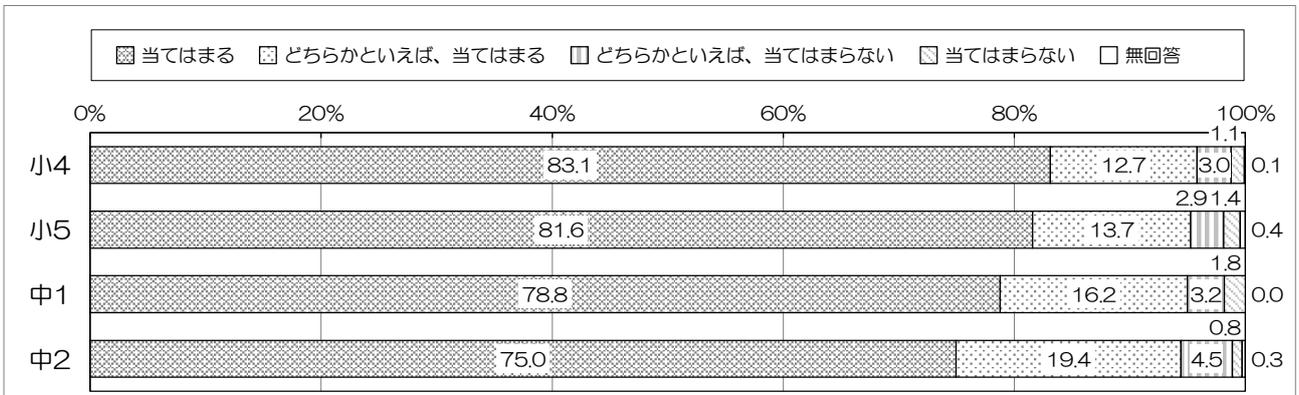
(12) 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。



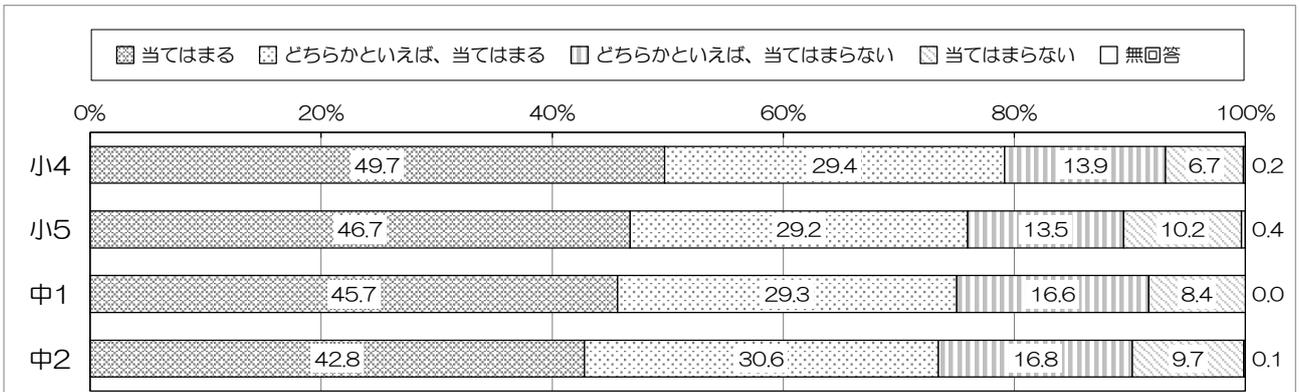
(13) 人が困っているときは、すすんで助けている。



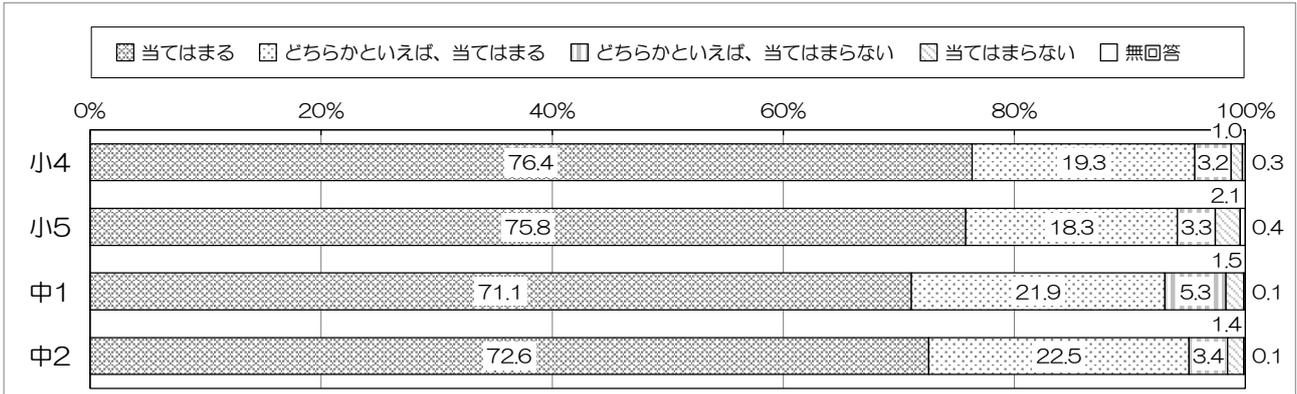
(14) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。



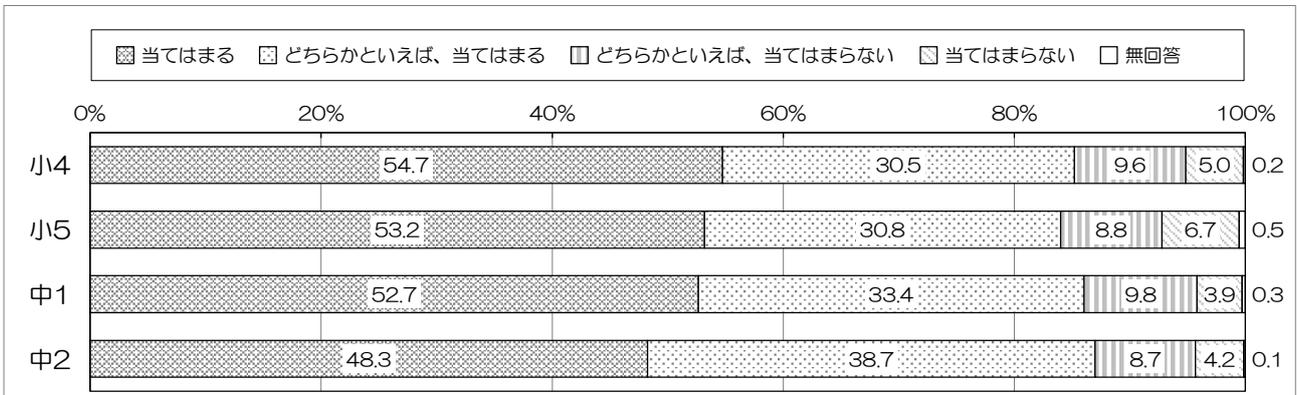
(15) 困りごとや不安がある時に、信頼できる大人に相談できる。



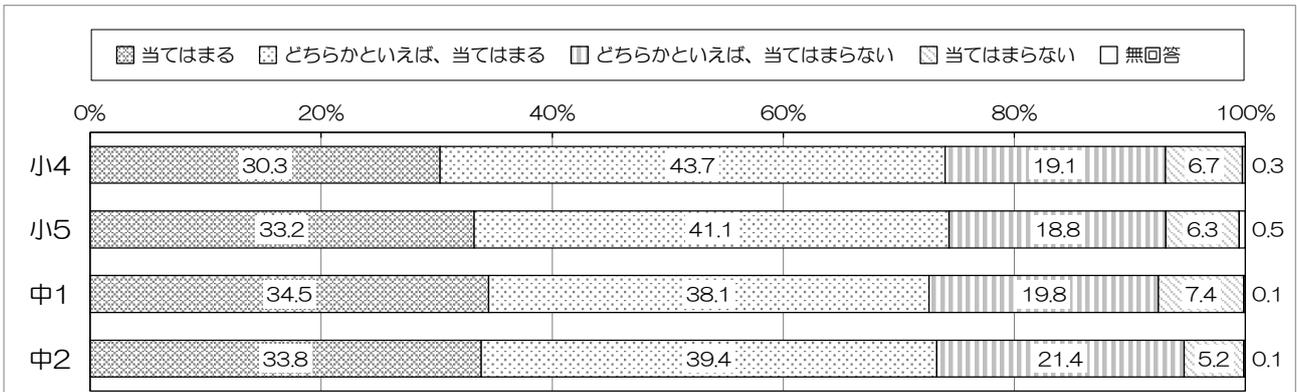
(16) 人の役に立つ人間になりたいと思う。



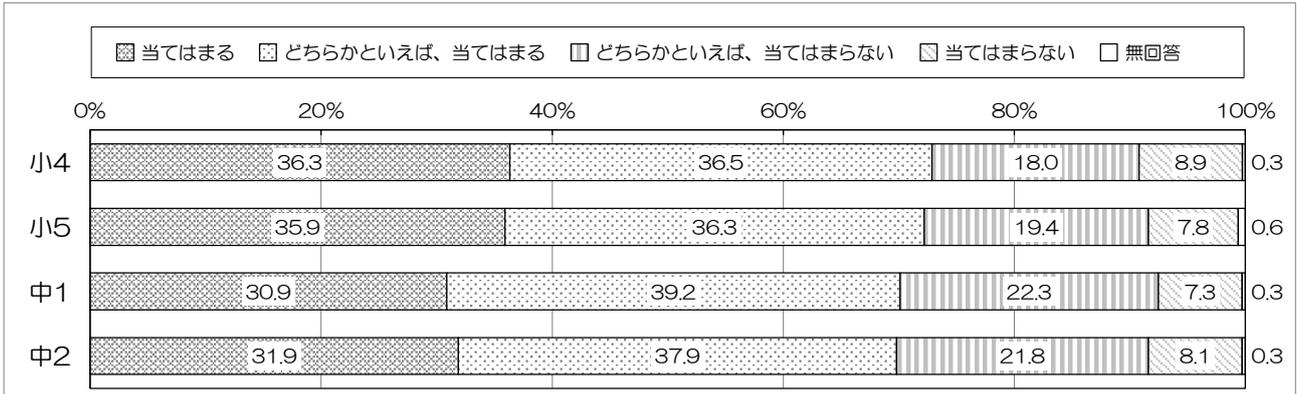
(17) 学校に行くのは楽しいと思う。



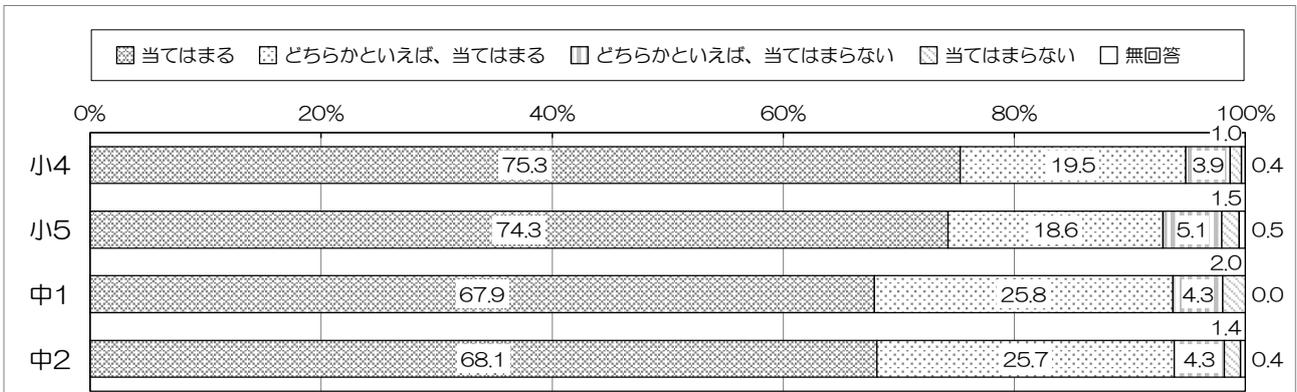
(18) 自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる。



(19) 自分と違う意見について考えるのは楽しい。

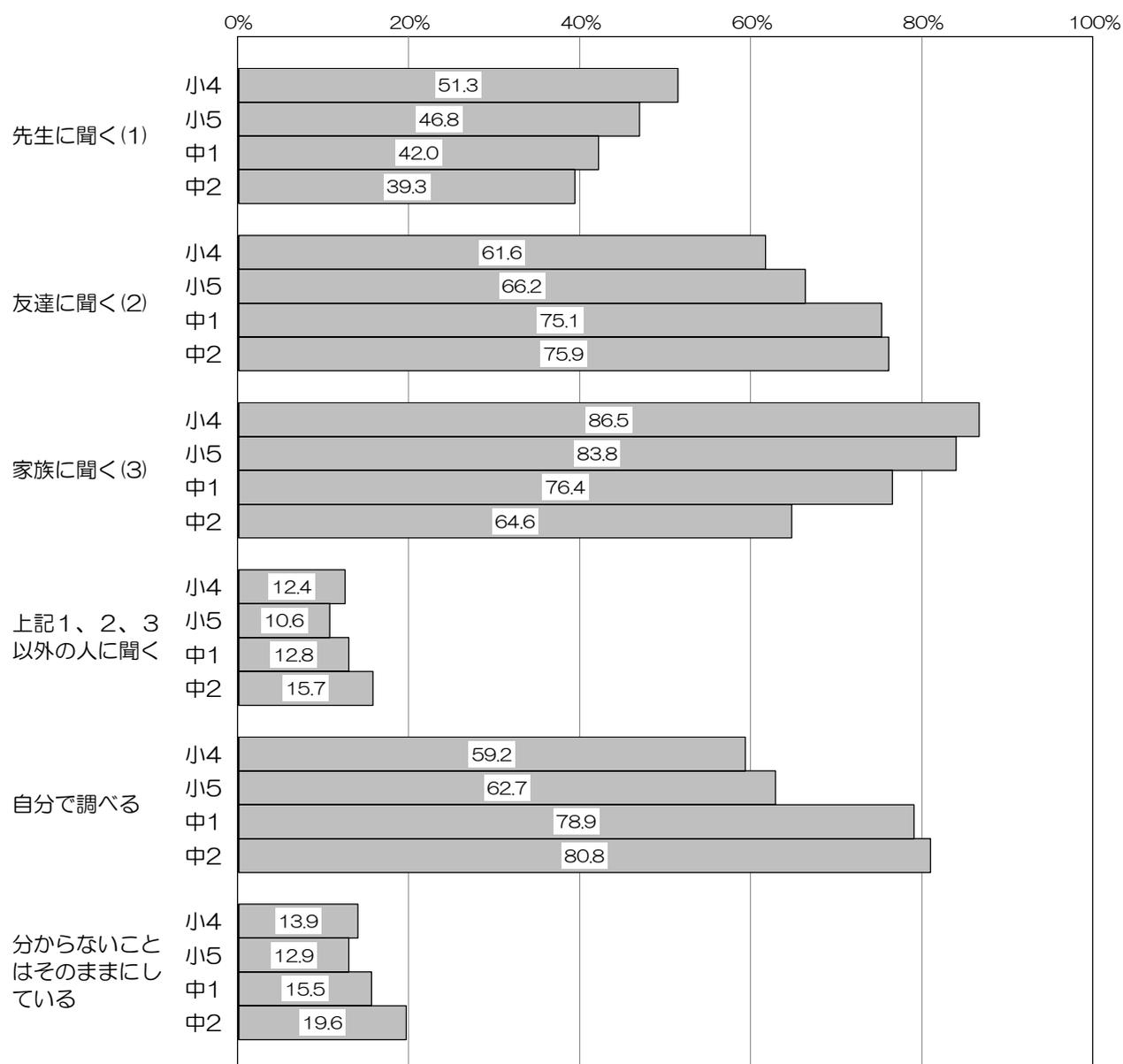


(20) 友達と協力するのは楽しい。

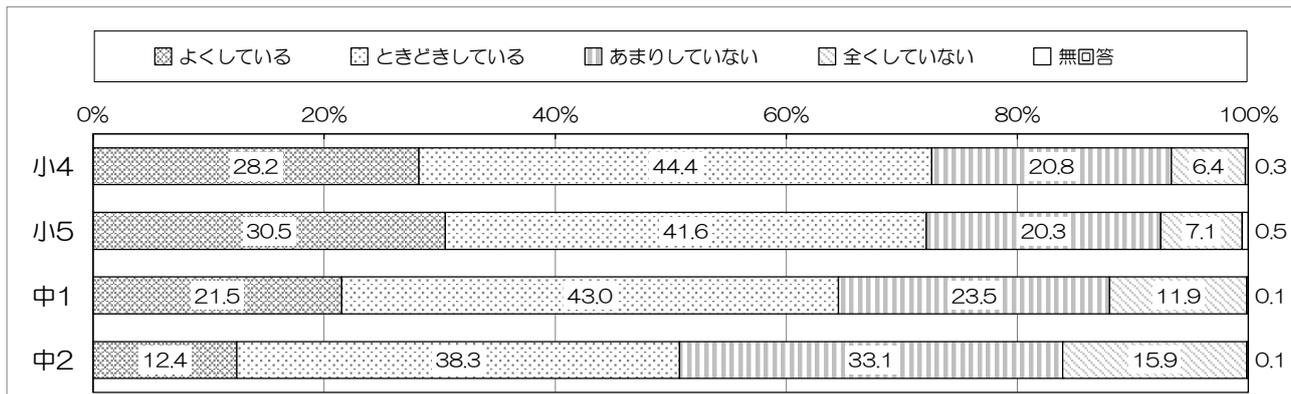


3 学習習慣、学習環境等

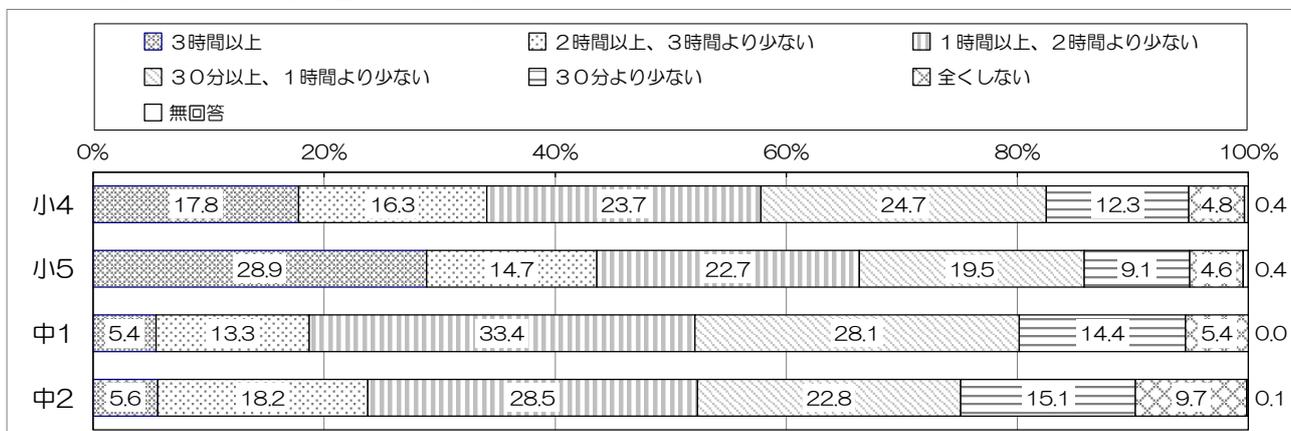
(21) 家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか。当てはまるものを全て選んでください。



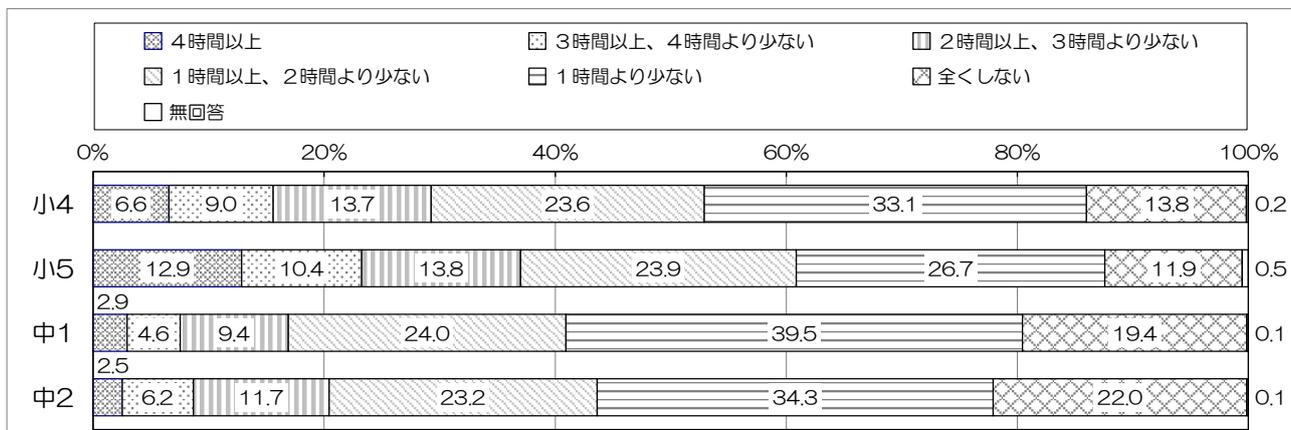
(22) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含みます）。



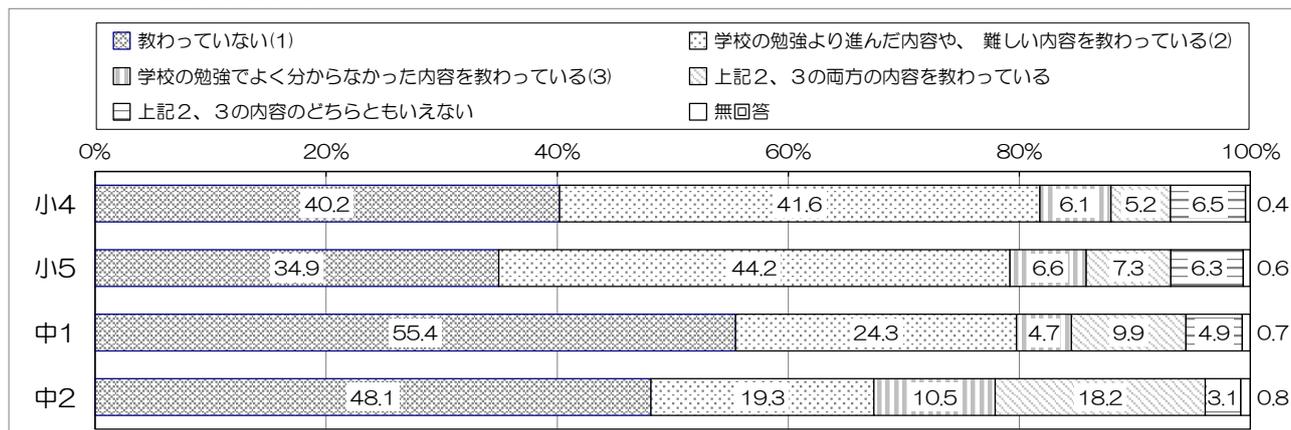
(23) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます）。



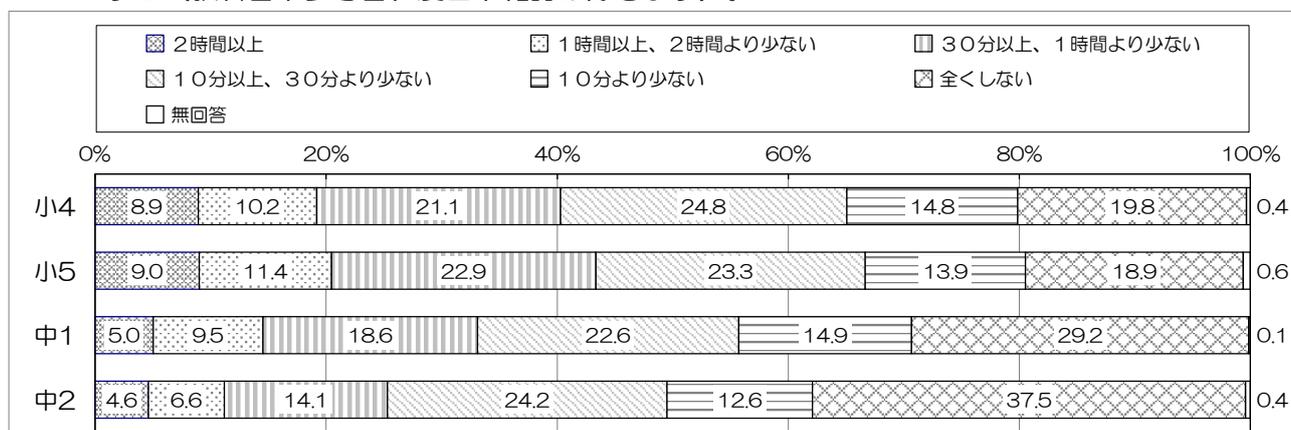
(24) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます）。



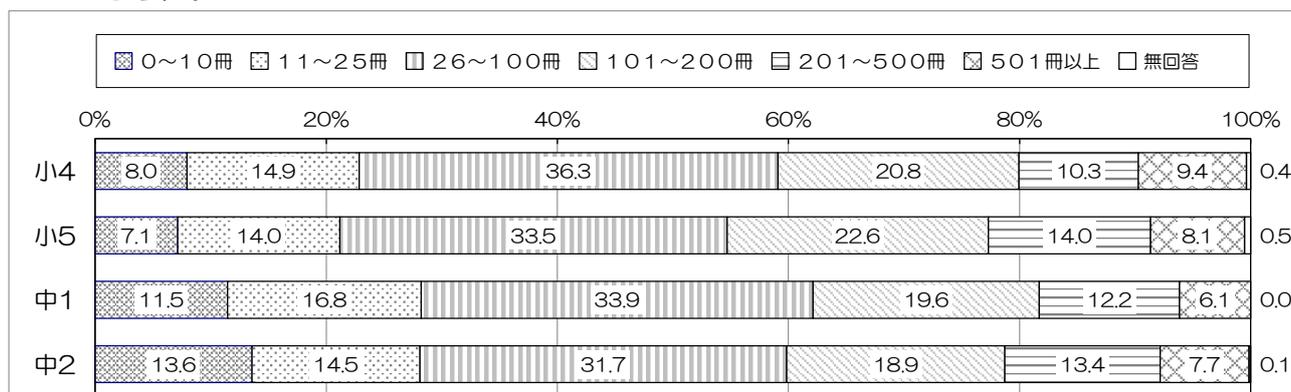
(25) 学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（インターネットを通じて教わっている場合も含まれます）。



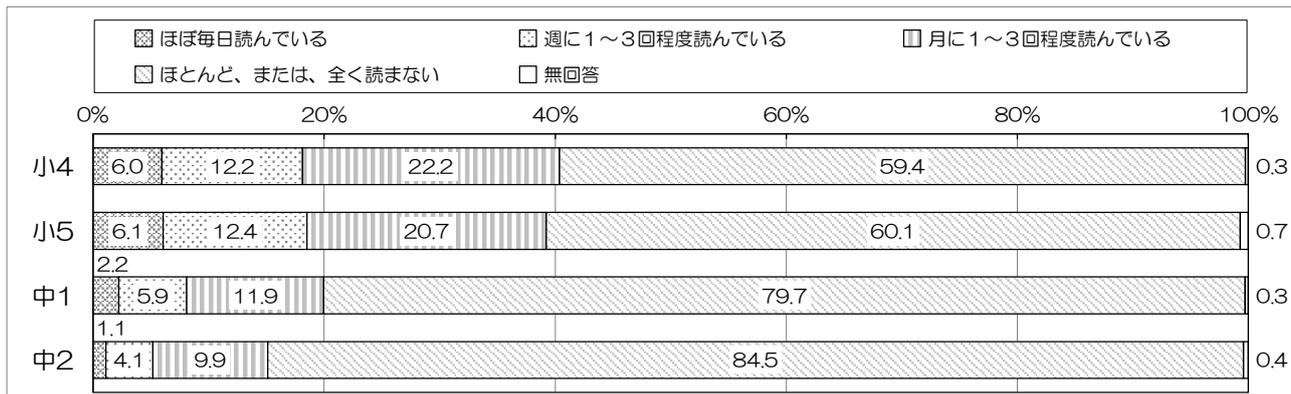
(26) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）。



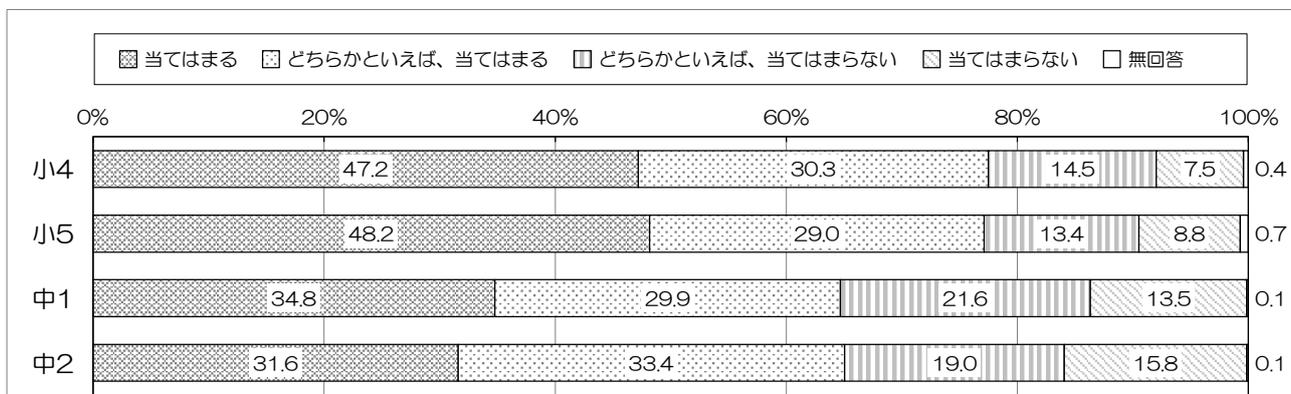
(27) あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌・一般の雑誌、新聞、教科書は除きます）。



(28) 新聞を読んでいますか（学校で読む場合を含みます）。

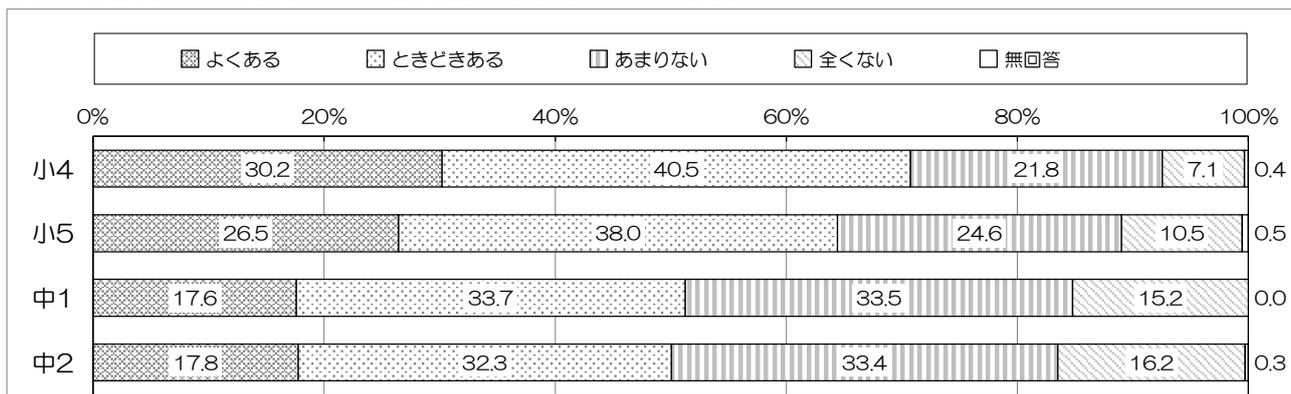


(29) 読書は好きですか。

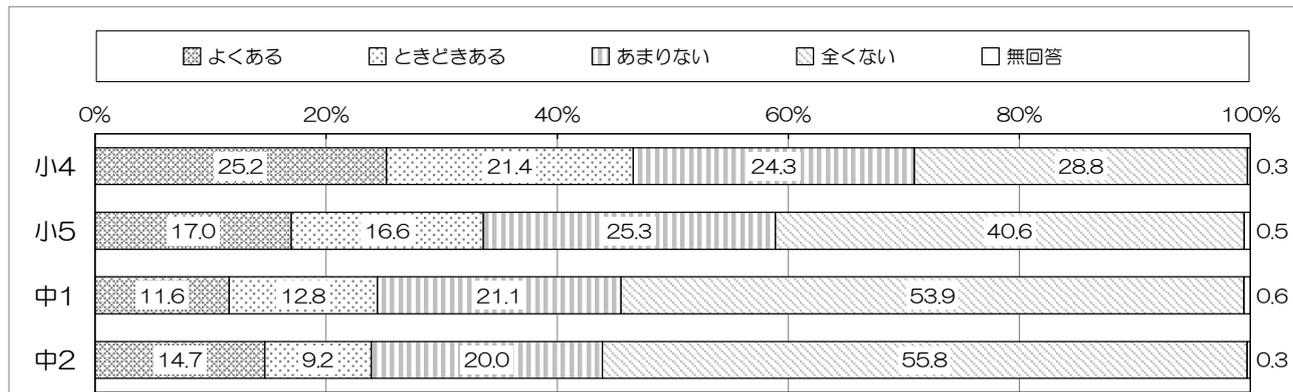


4 地域や社会に関わる活動の状況等

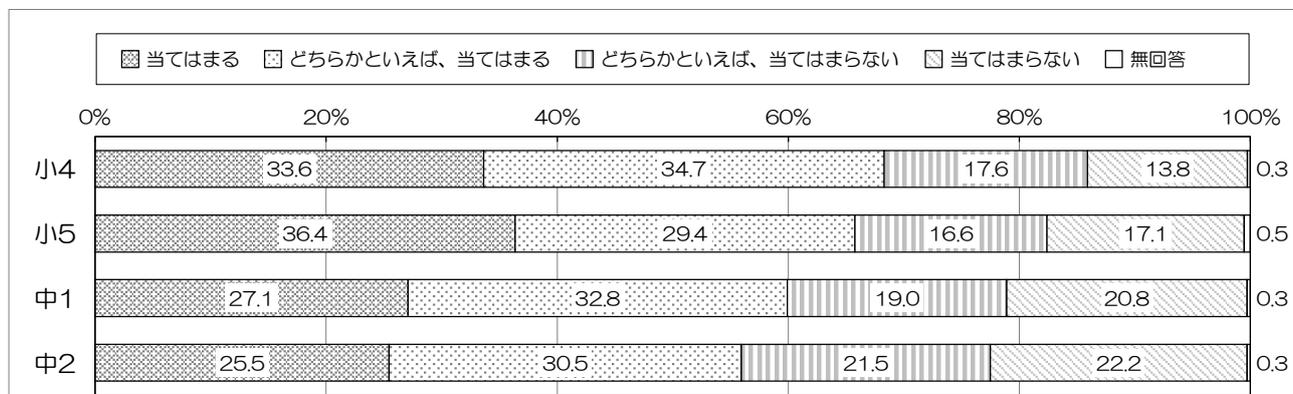
(30) 自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある。



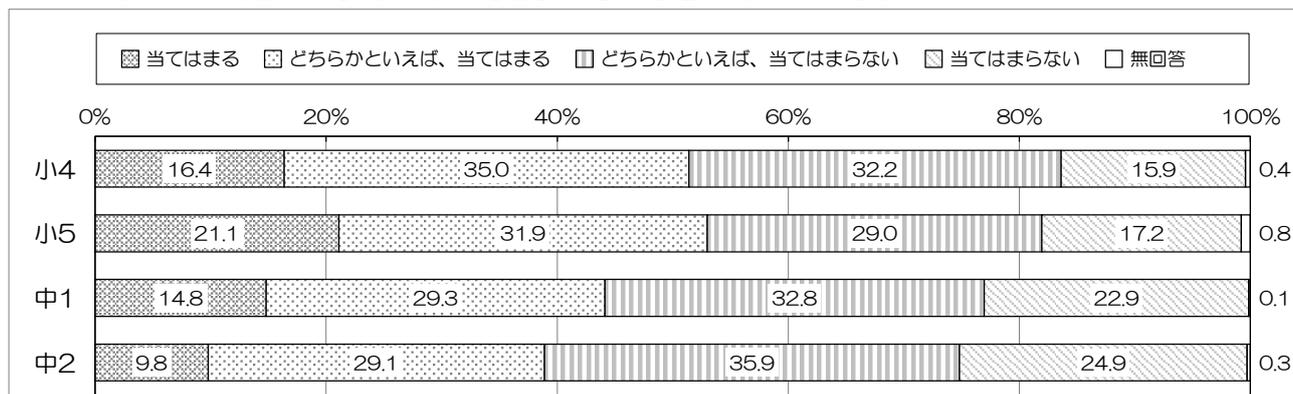
(31) 地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある（習い事の先生は除く）。



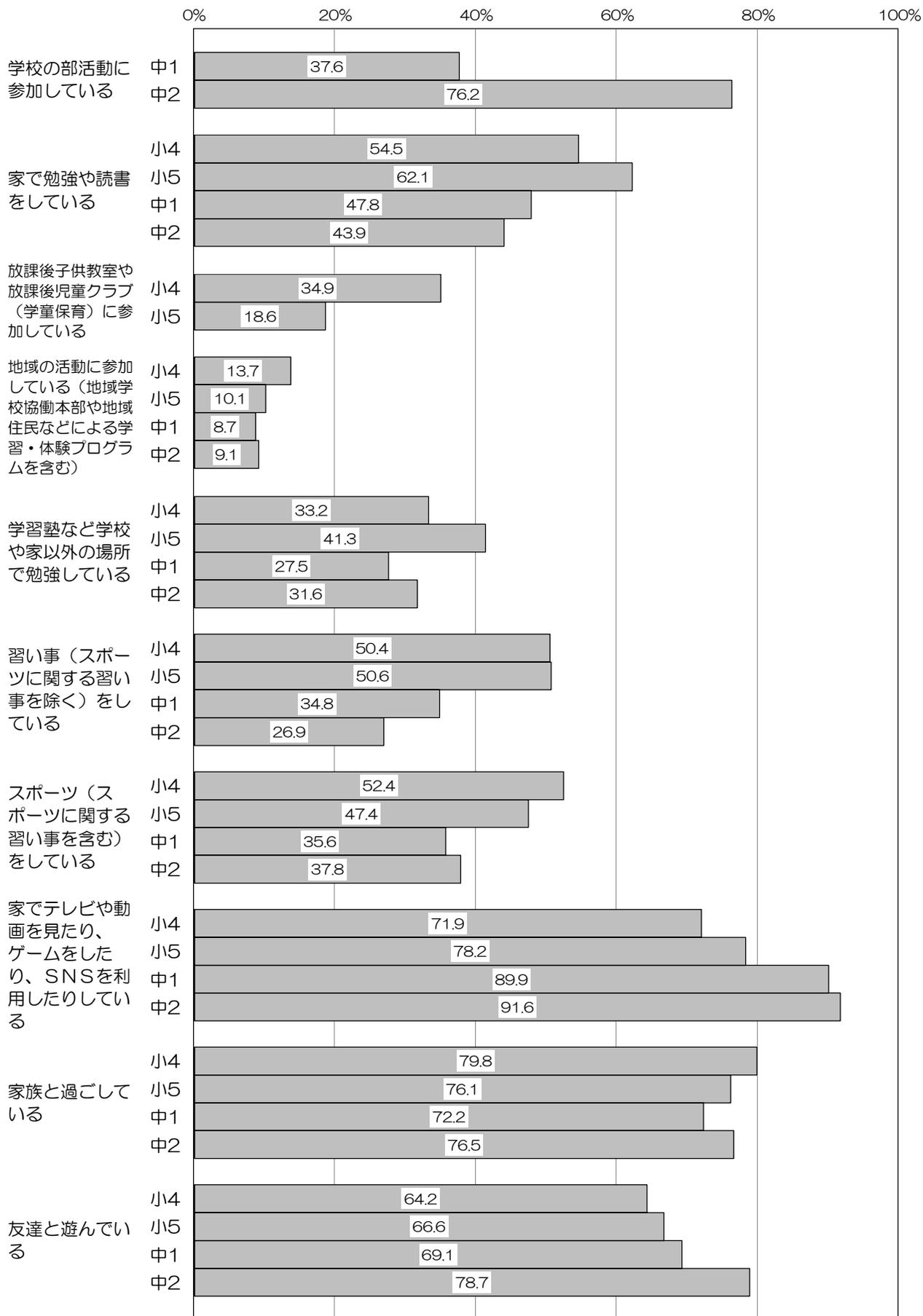
(32) 今住んでいる地域の行事に参加している。



(33) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。

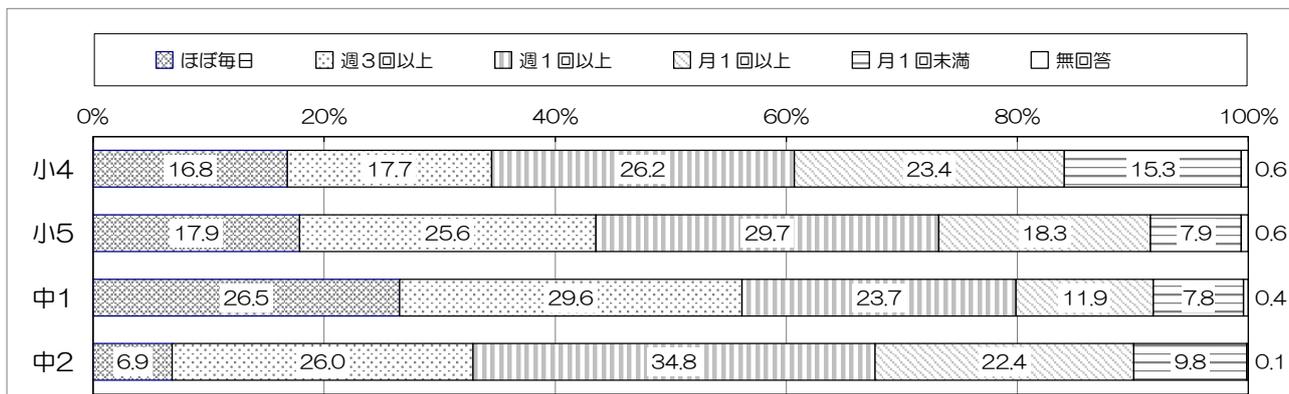


(34) 放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか。

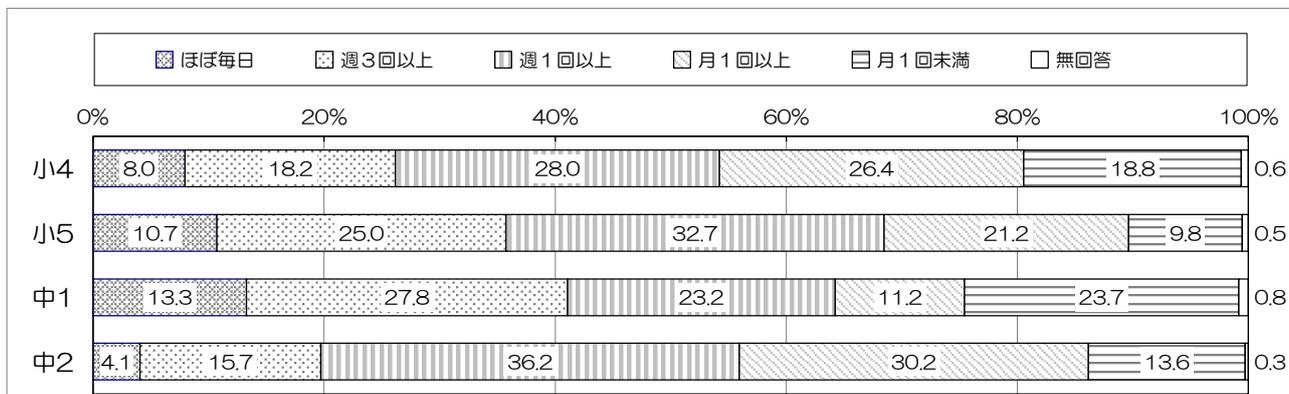


5 ICTを活用した学習状況

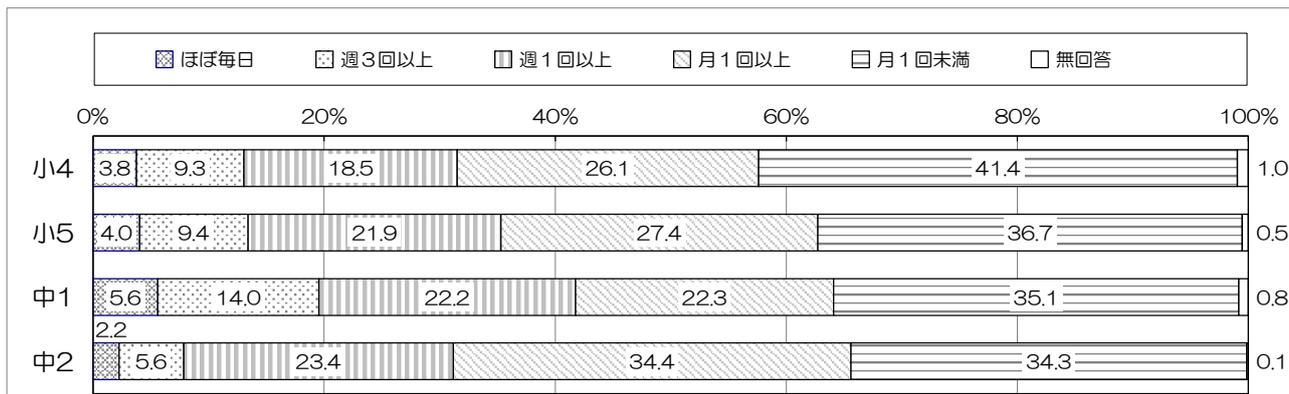
(35) 昨年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。



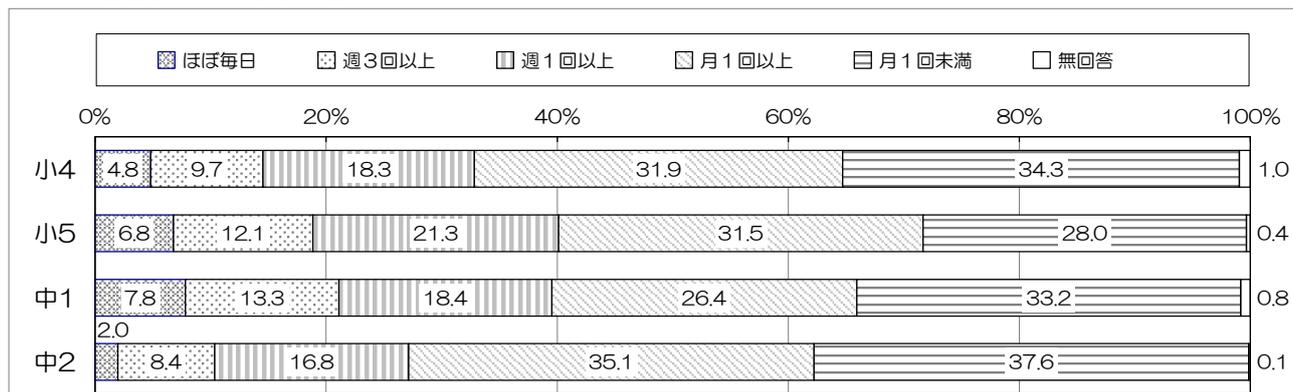
(36) 学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など）。



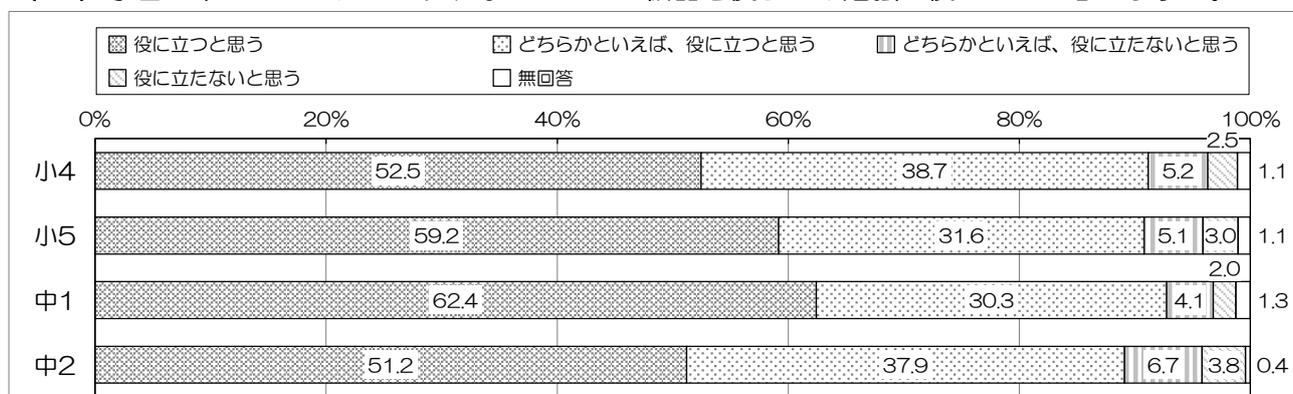
(37) 学校で、学級の友達・生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。



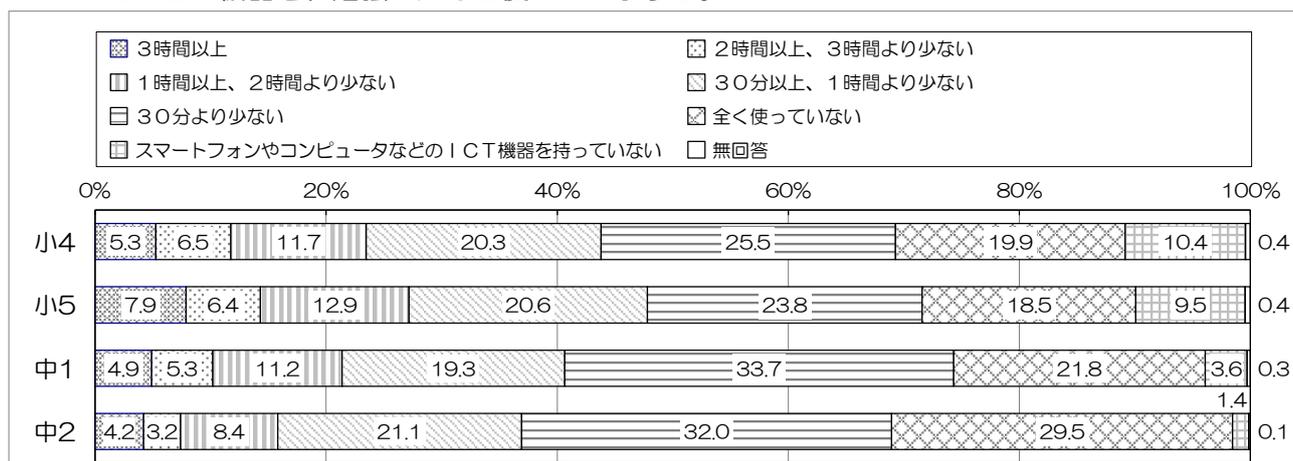
(38) 学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。



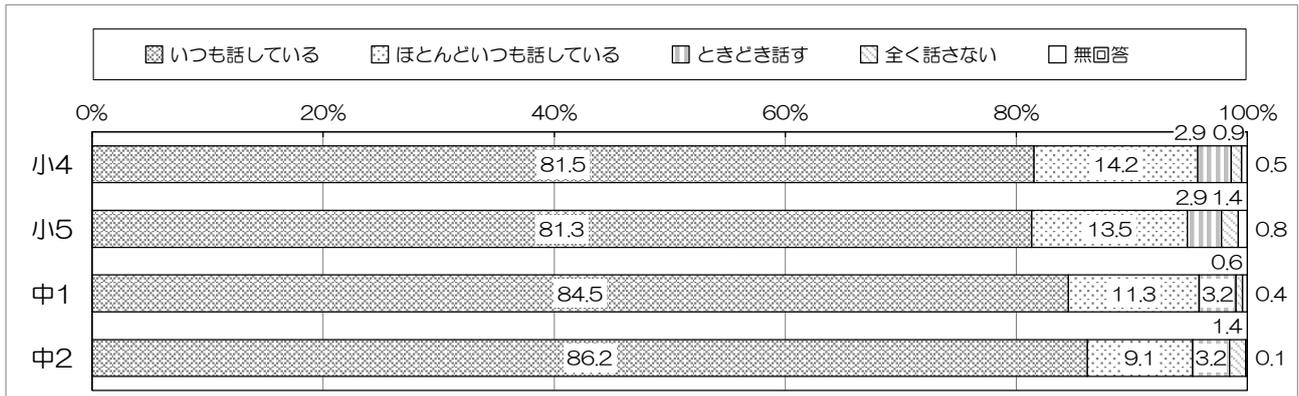
(39) 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。



(40) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。

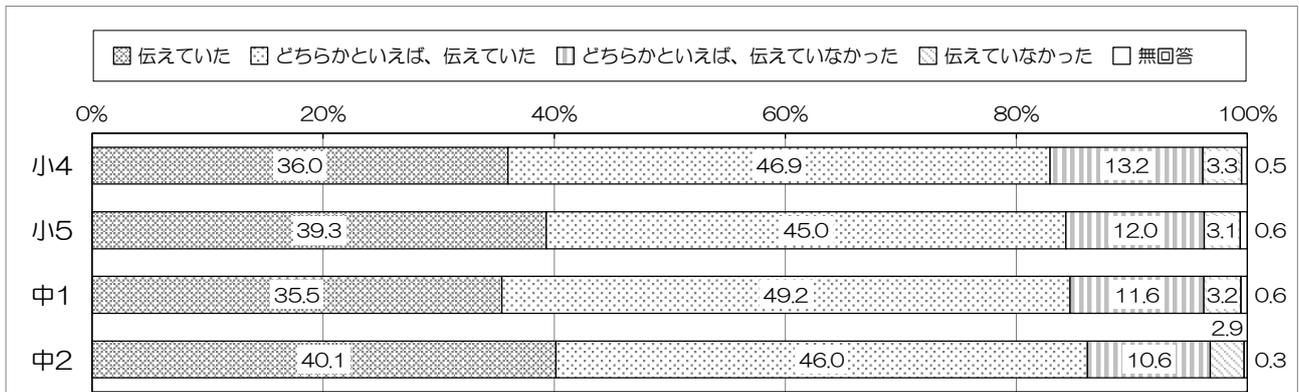


(41) あなたは、家でどれくらい日本語を話しますか。

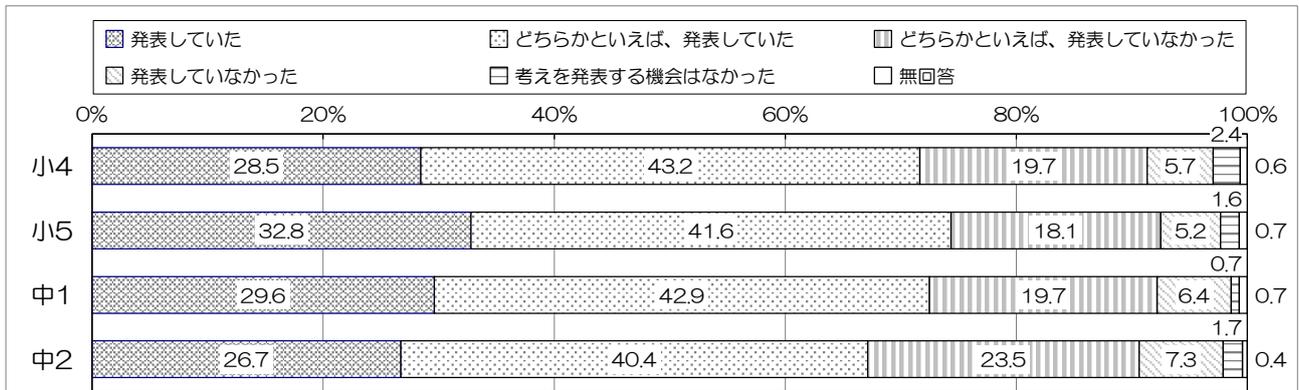


6 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

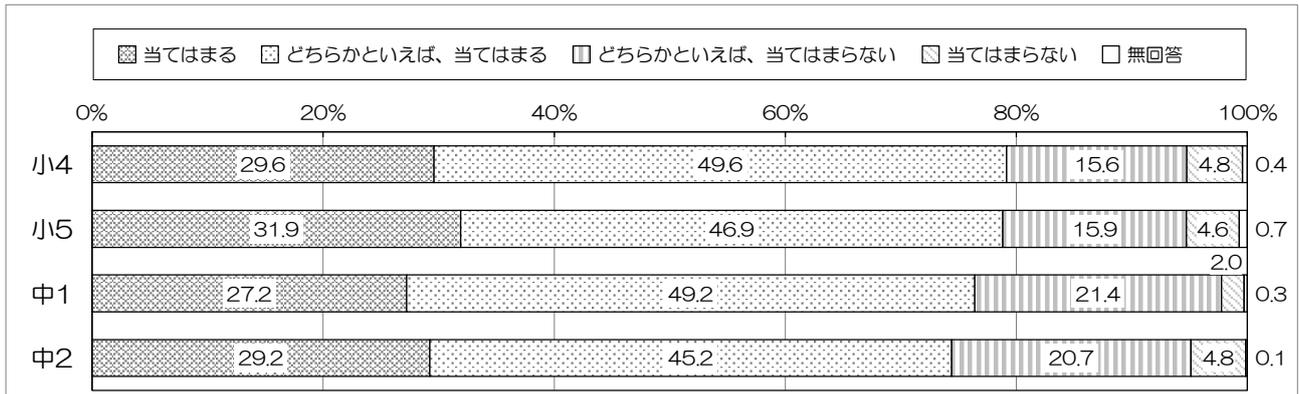
(42) 学級の友達・生徒との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか。



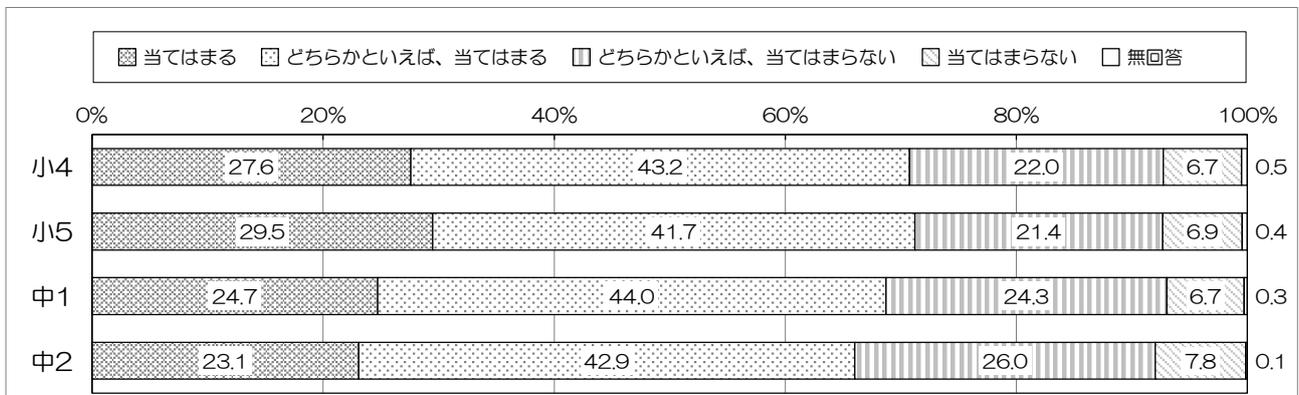
(43) 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。



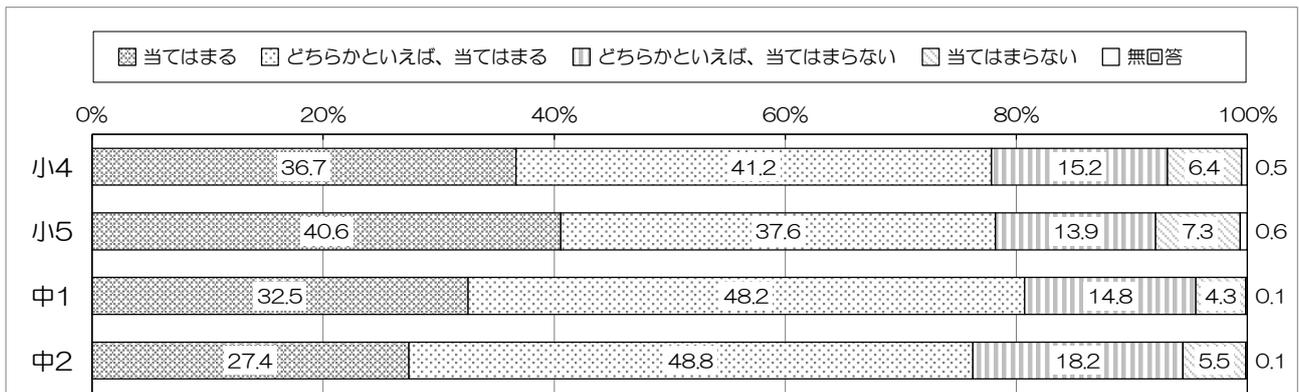
(44) 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。



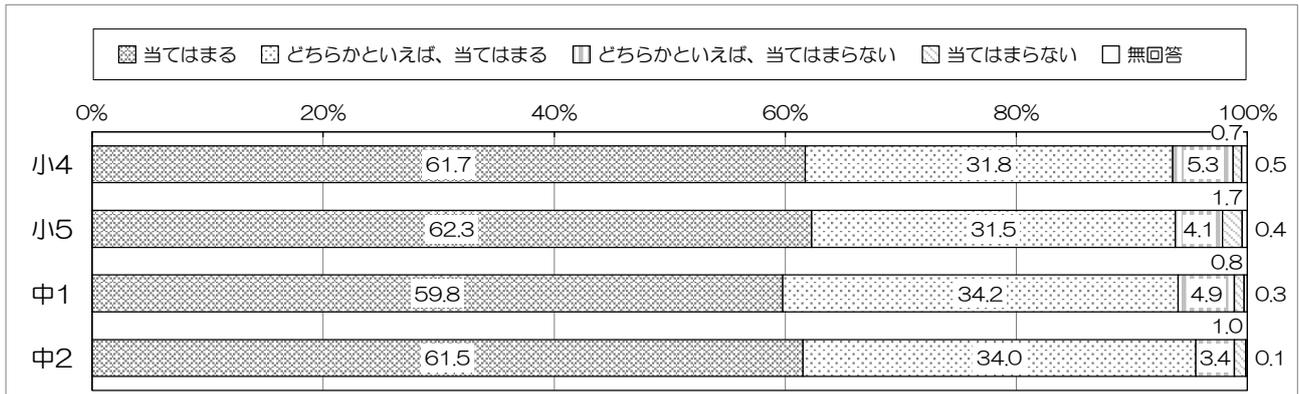
(45) 授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていた。



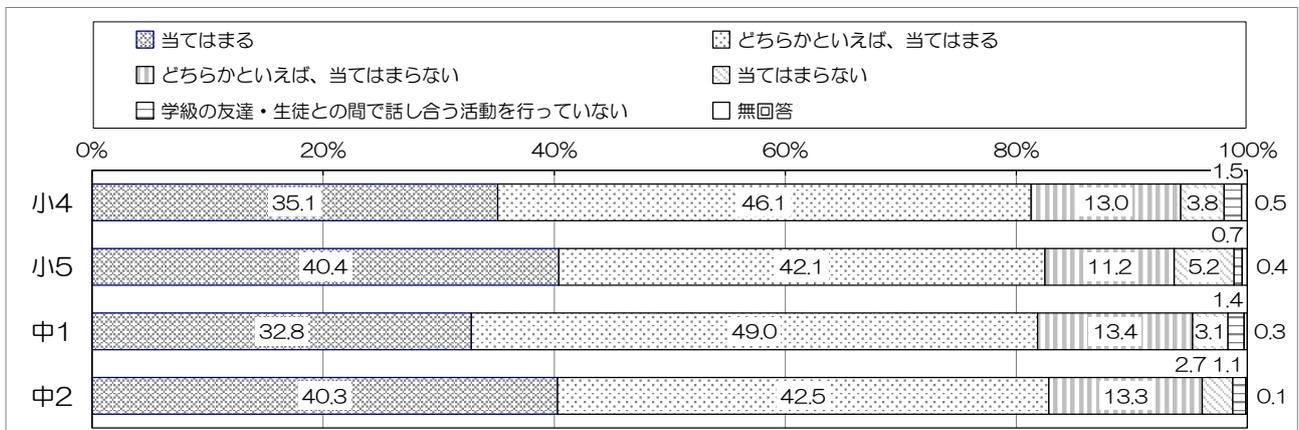
(46) 授業は、自分にあつた教え方、教材、学習時間などになっていた。



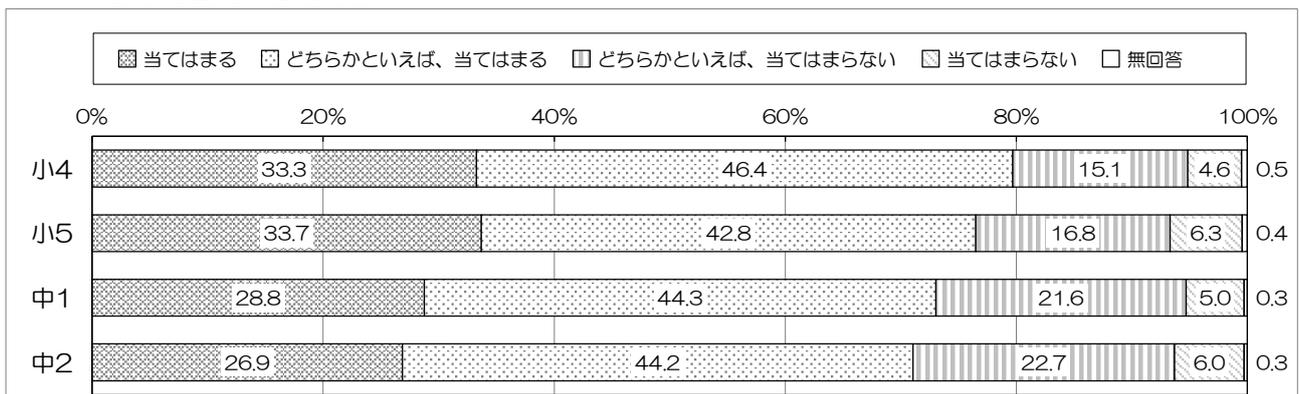
(47) 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。



(48) 学級の友達・生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。

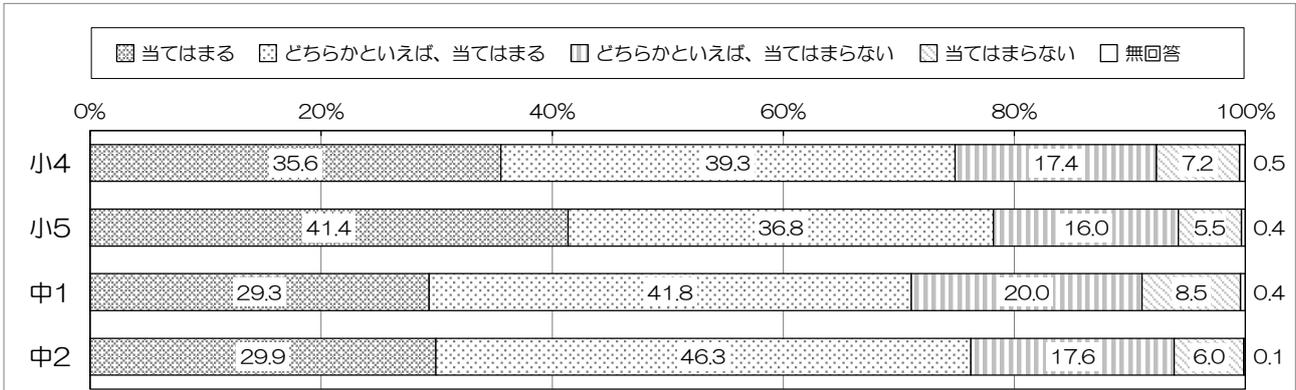


(49) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか。

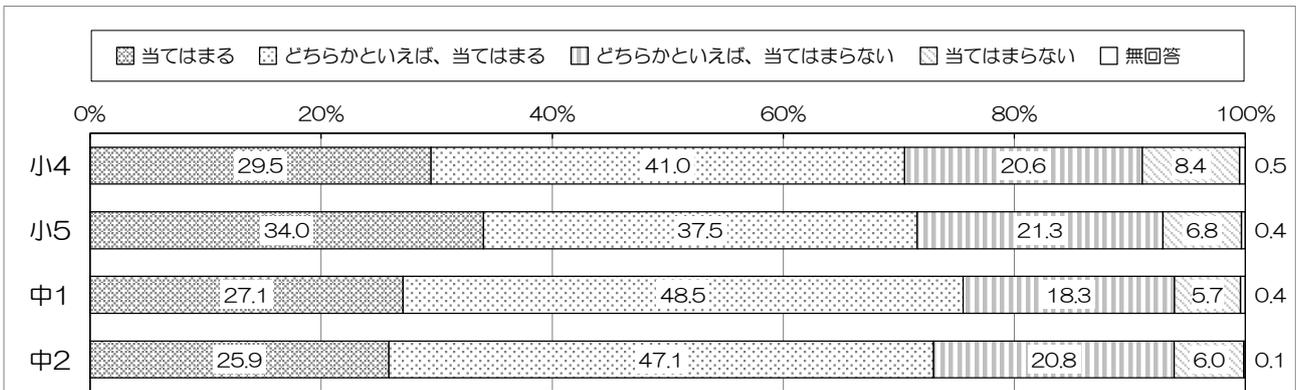


7 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳

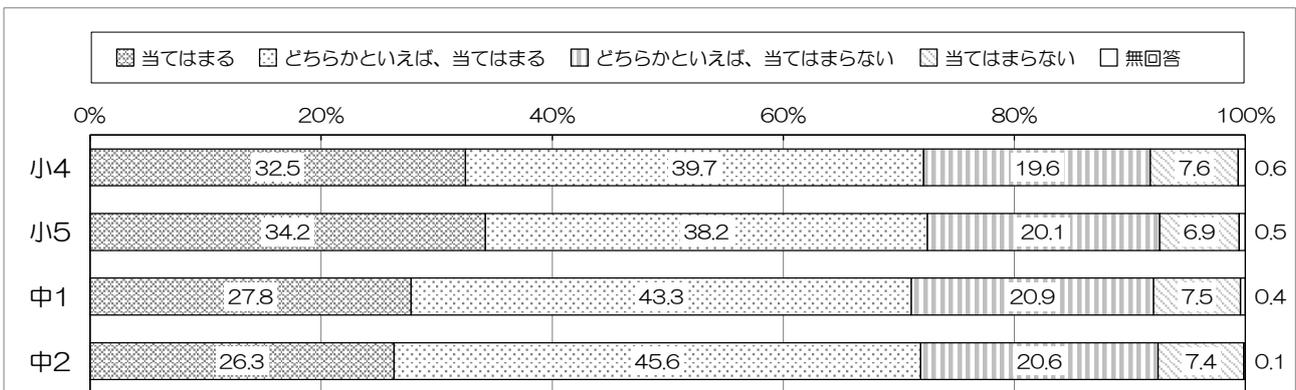
(50) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。



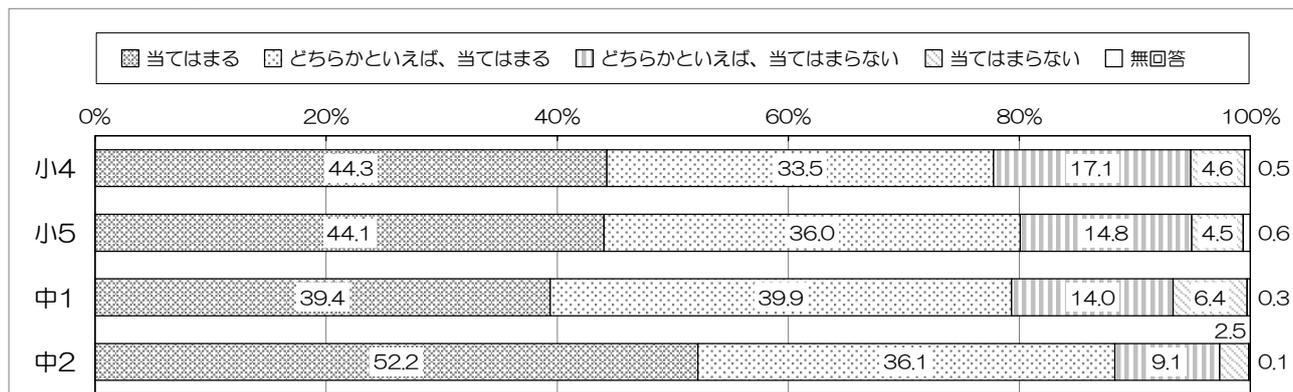
(51) あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会・学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。



(52) 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。

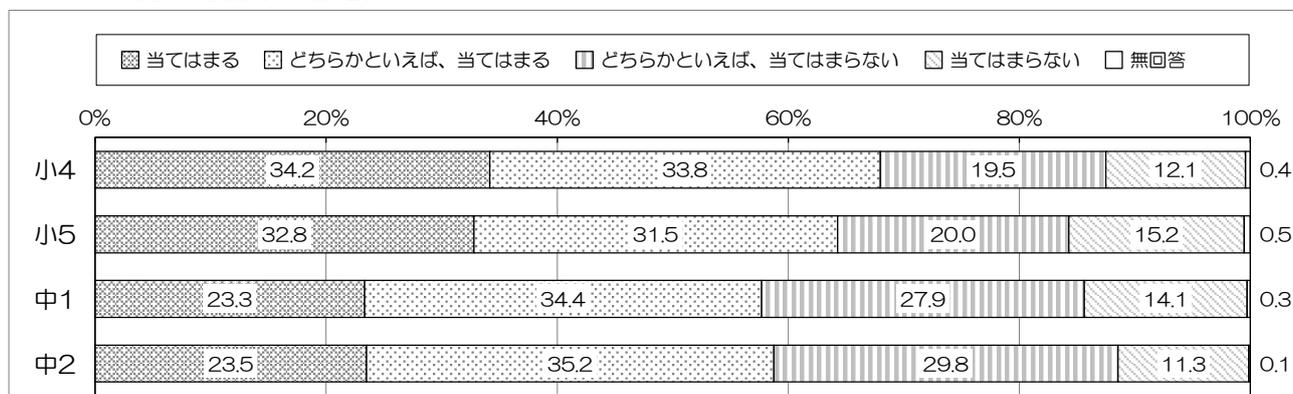


(53) 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

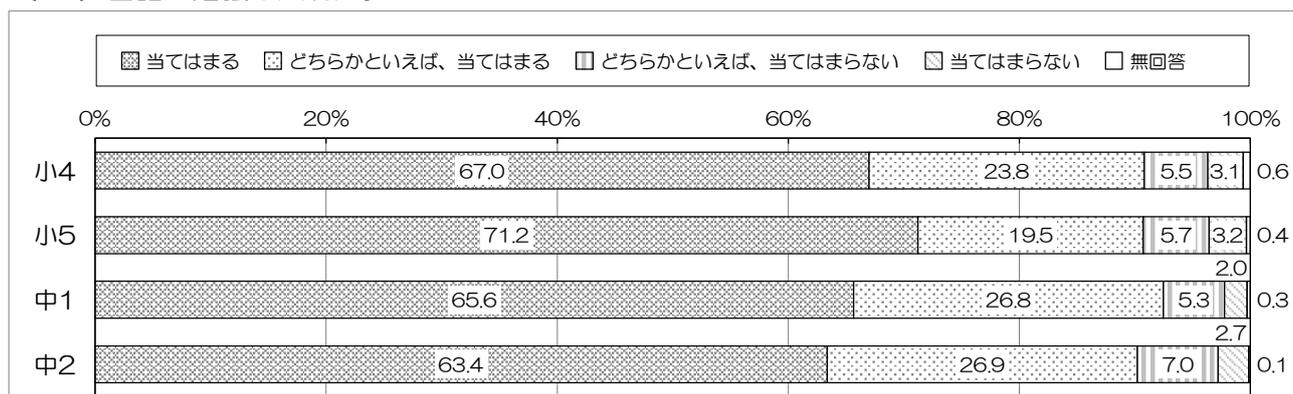


8 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）

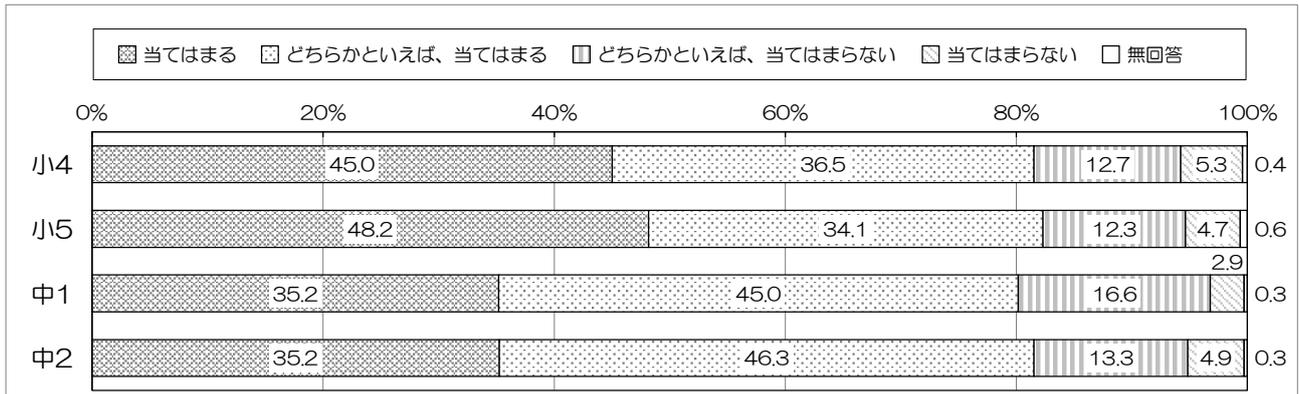
(54) 国語の勉強は好きだ。



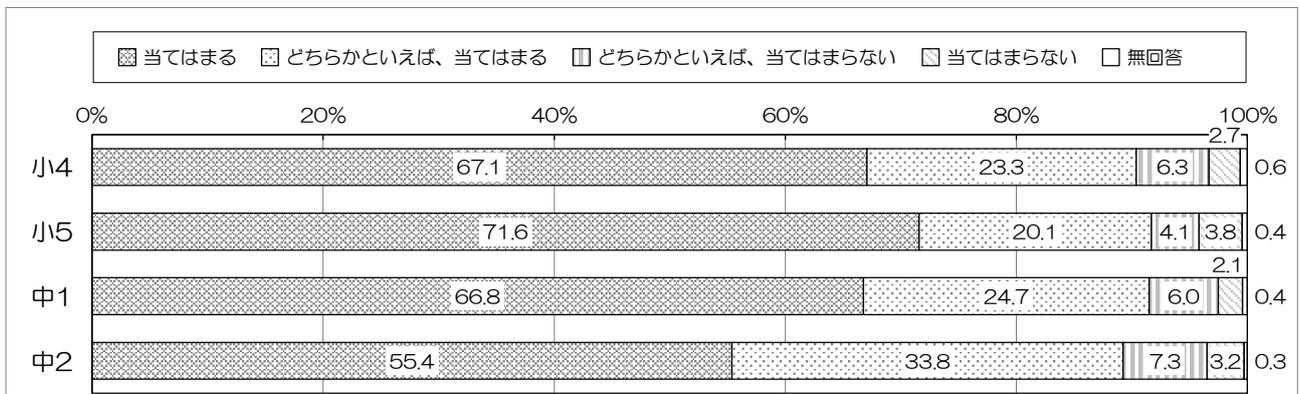
(55) 国語の勉強は大切だ。



(56) 国語の授業の内容はよく分かる。

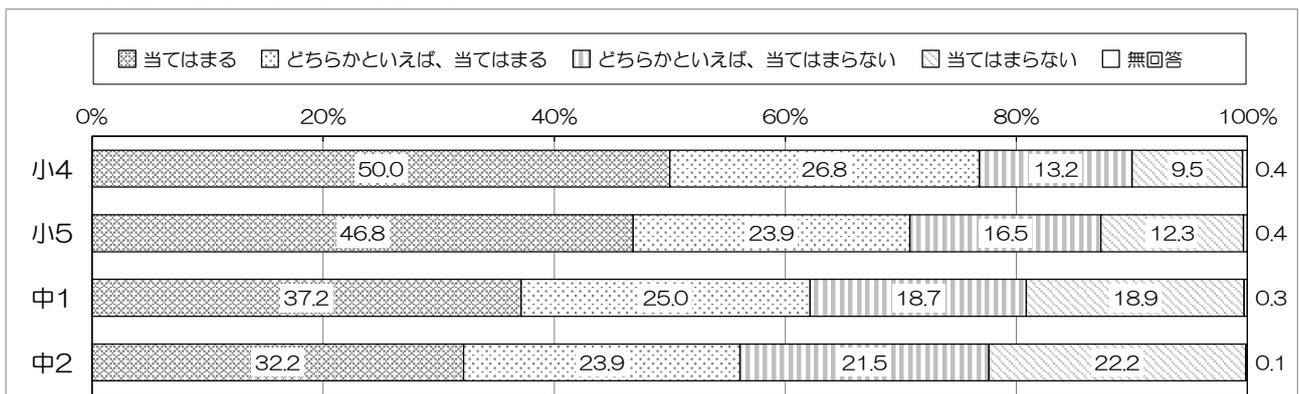


(57) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。

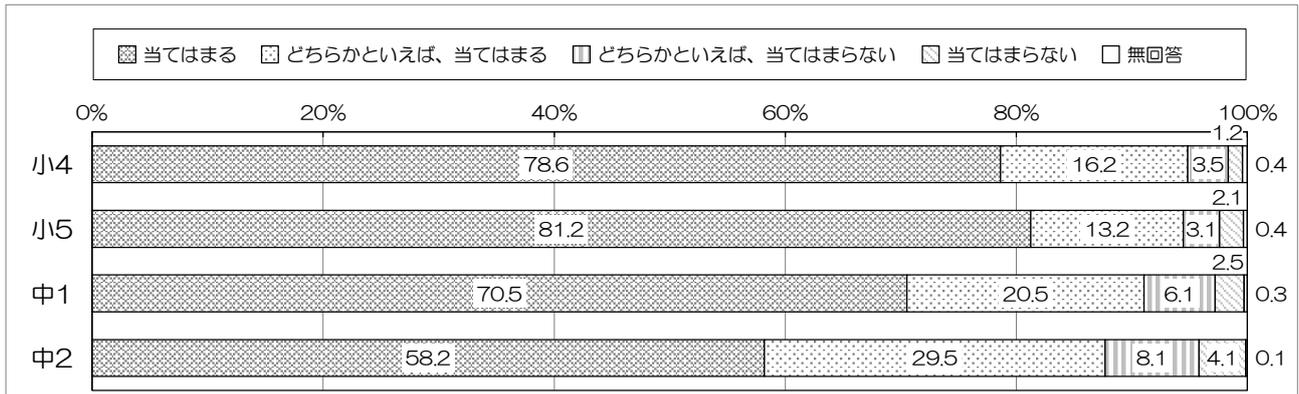


9 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）

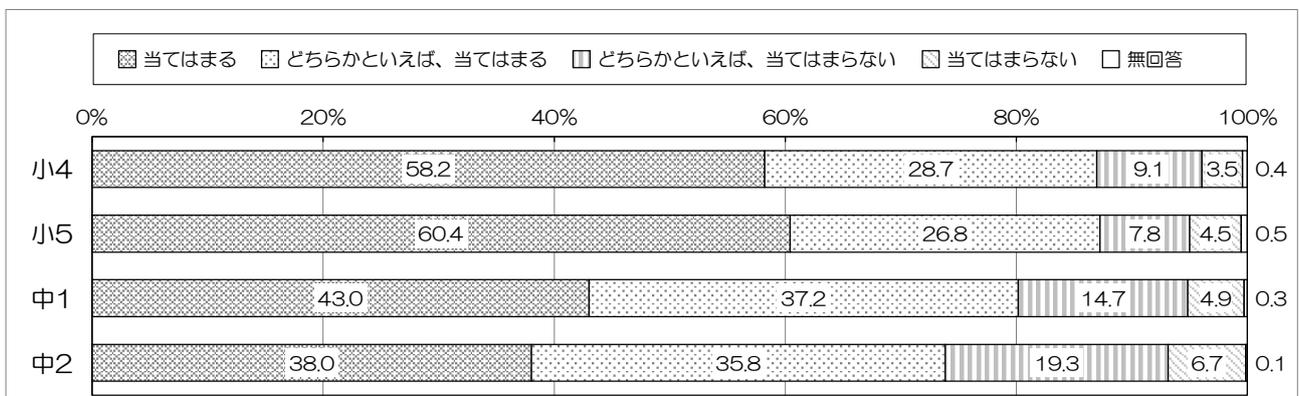
(58) 算数・数学の勉強は好きだ。



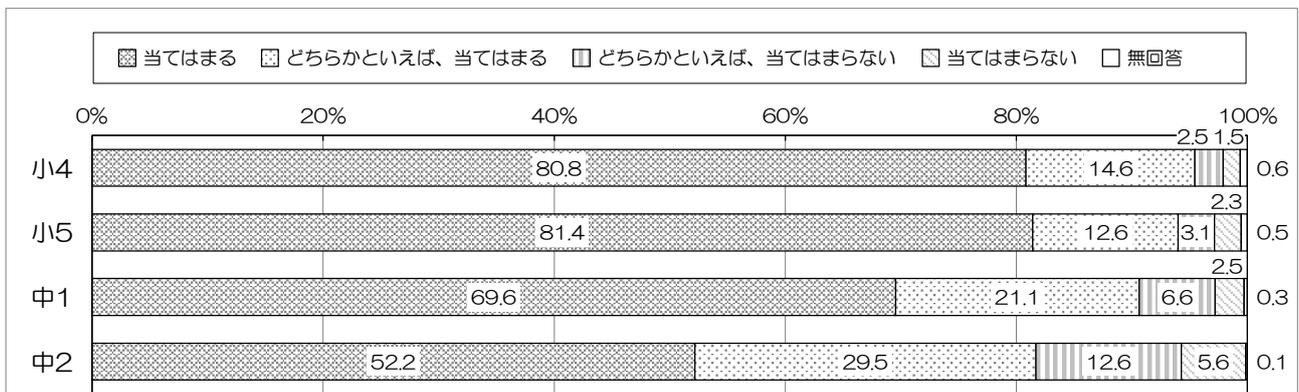
(59) 算数・数学の勉強は大切だ。



(60) 算数・数学の授業の内容はよく分かる。

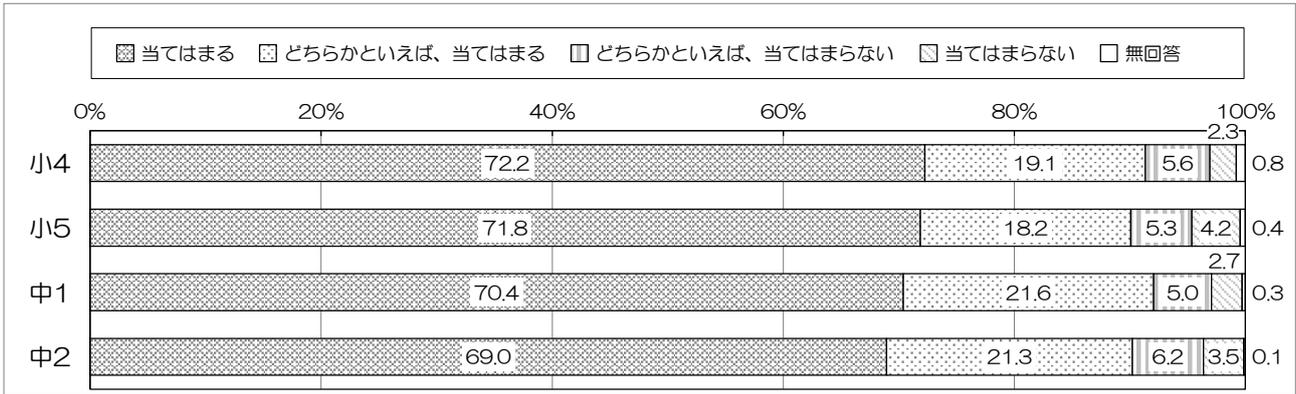


(61) 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。

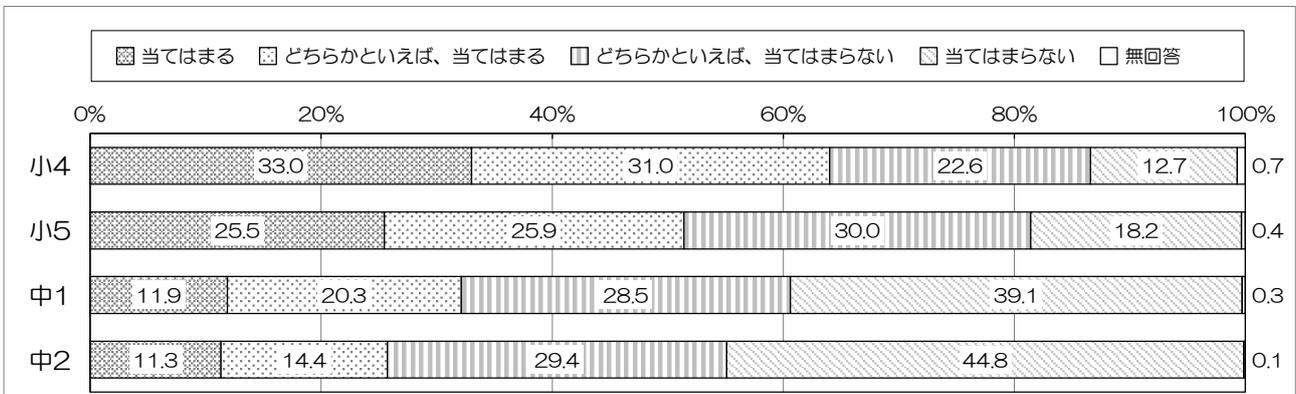


10 台東区独自調査

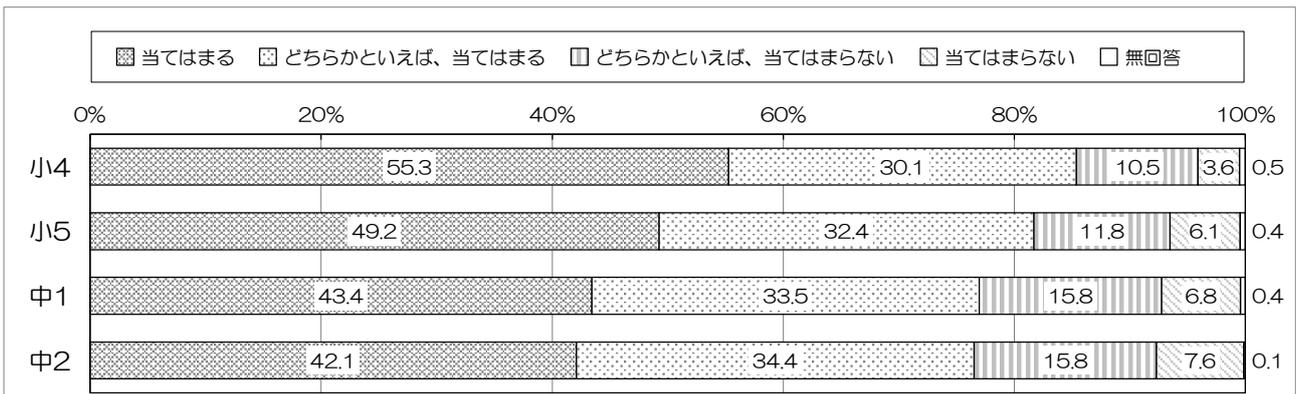
(62) 自分の考えや気持ちを理解してくれる友達がいる。



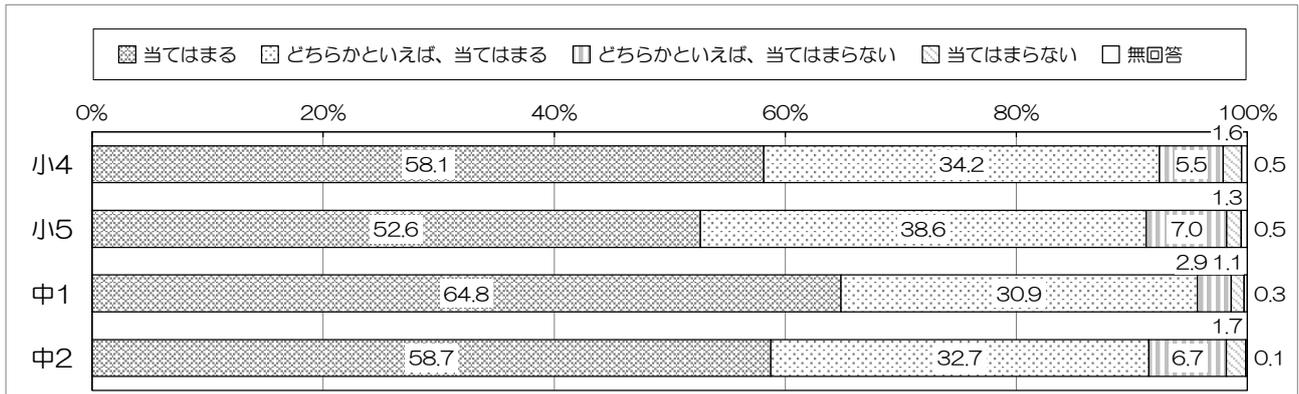
(63) 美術館や博物館などに行く。



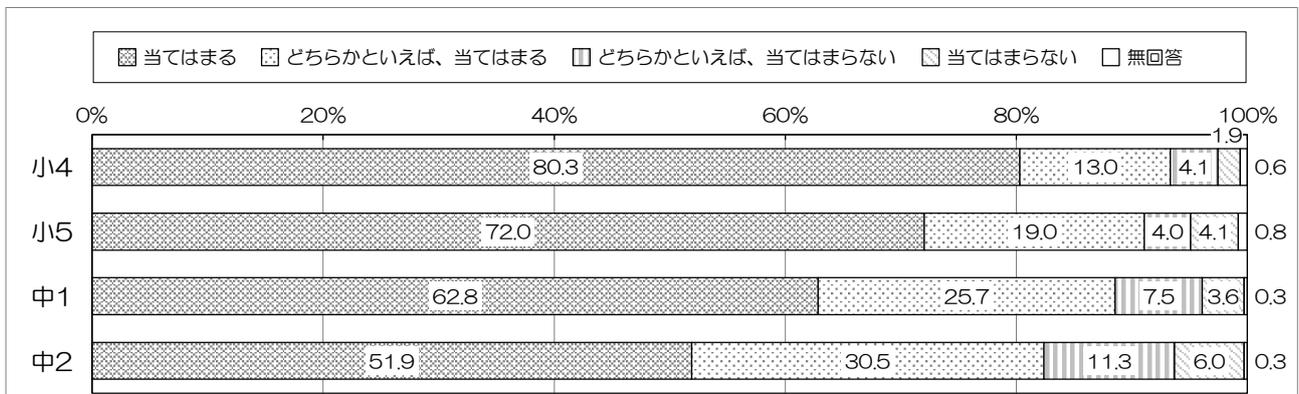
(64) 自分からすすんで、家族や地域の人にあいさつをしている。



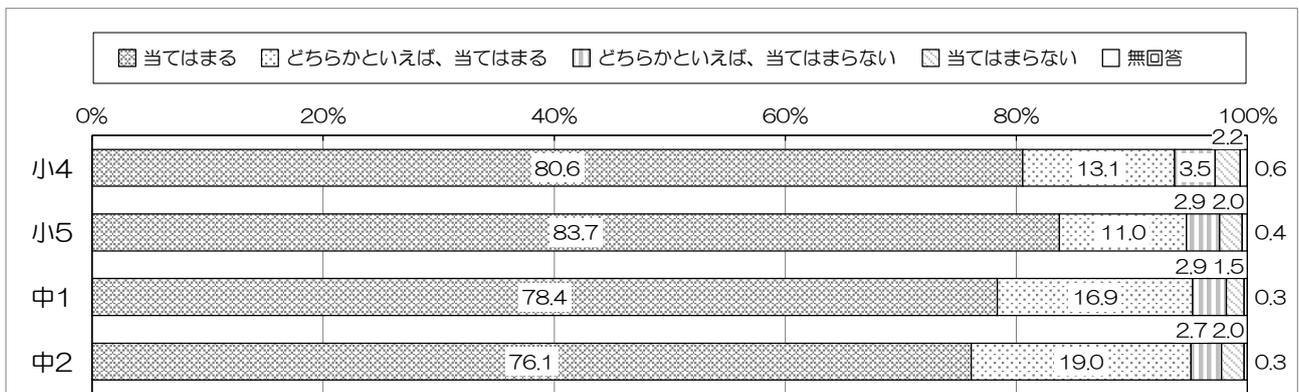
(65) 学校の決まりを守っている。



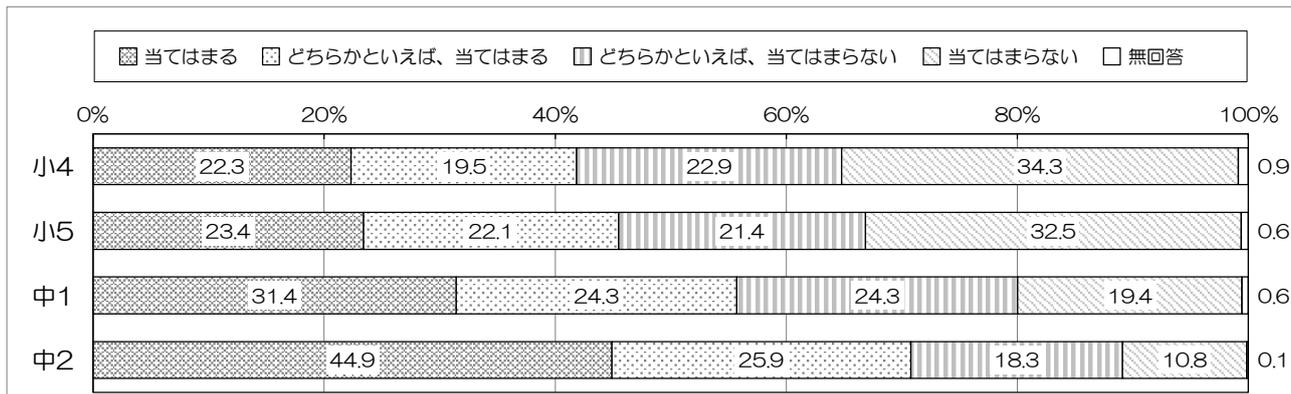
(66) 学校の決まりは必要であると思う。



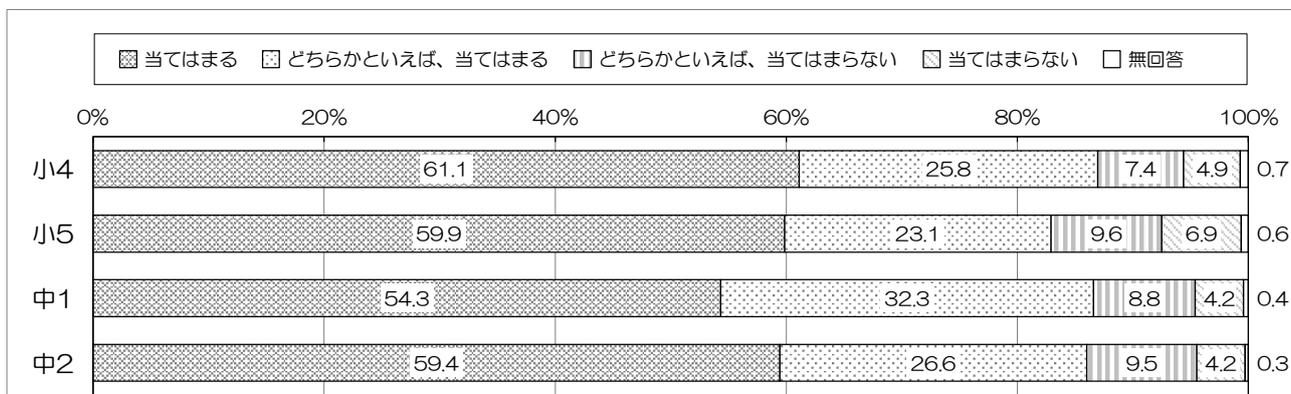
(67) 社会に決まりは必要であると思う。



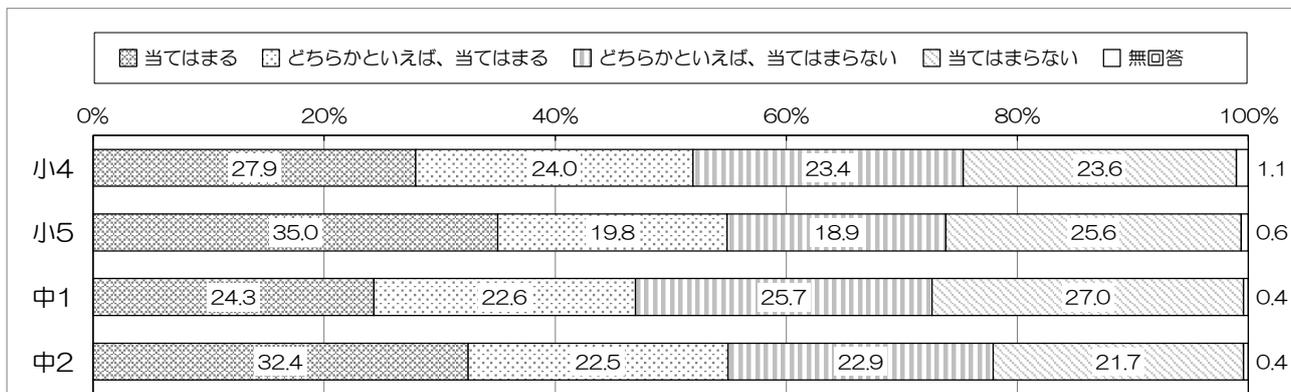
(68) 学校の決まりの中に、不要なもの、実態にあわないものがあると思う。



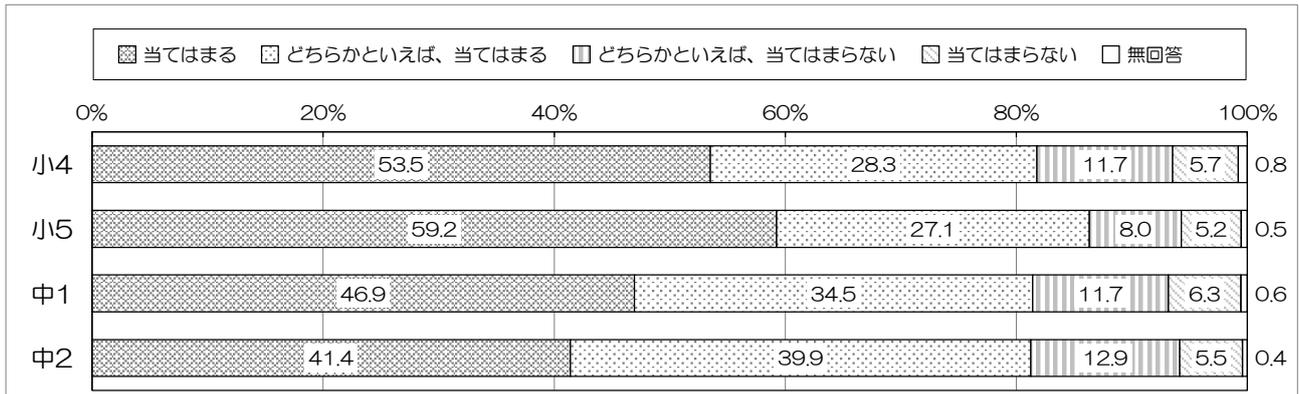
(69) 学校の決まりをよりよいものにしたいと思う。



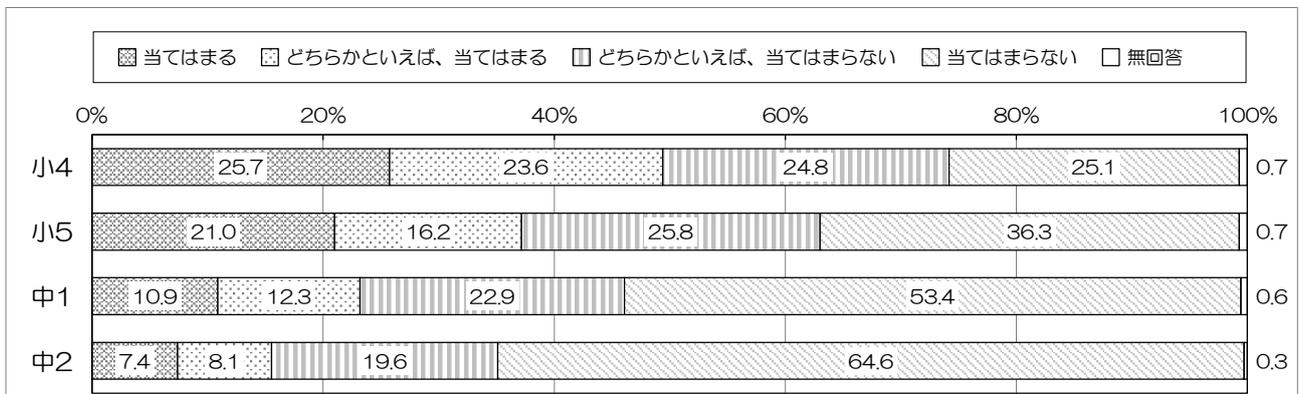
(70) 標準服（制服）のあり方について、児童・生徒が主体的に話し合う場を設けてほしいと思う。



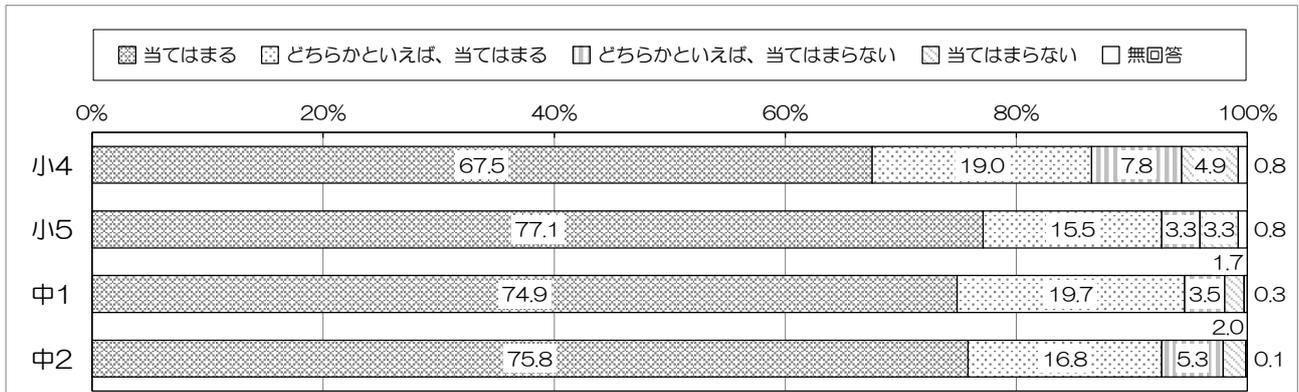
(71) デジタル教科書や電子黒板などを使った授業（学習）は分かりやすい。



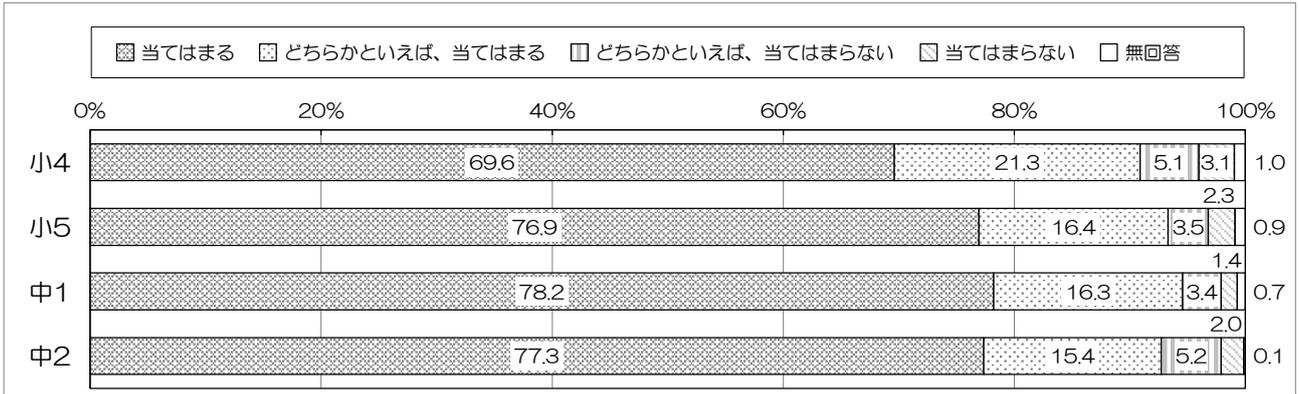
(72) 家庭で、（学校の）タブレットを使って学習を行っている。



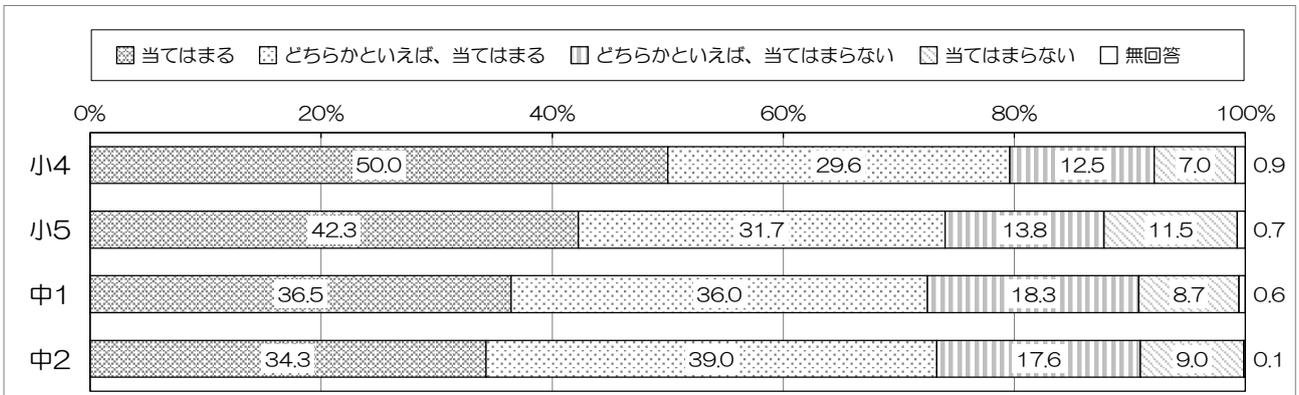
(73) 差別はいかなる理由があろうと許されないとと思う。



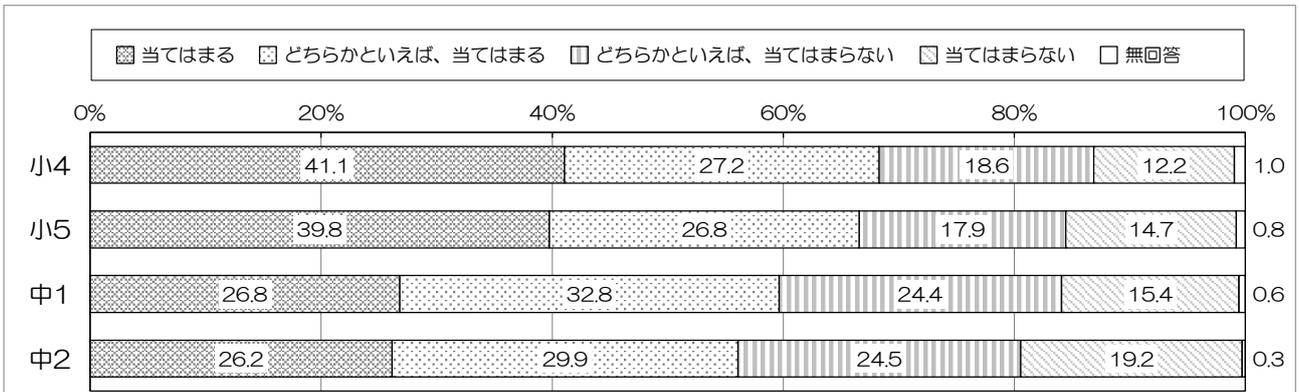
(74) 人権はどんな人であろうと守られなくてはならないと思う。



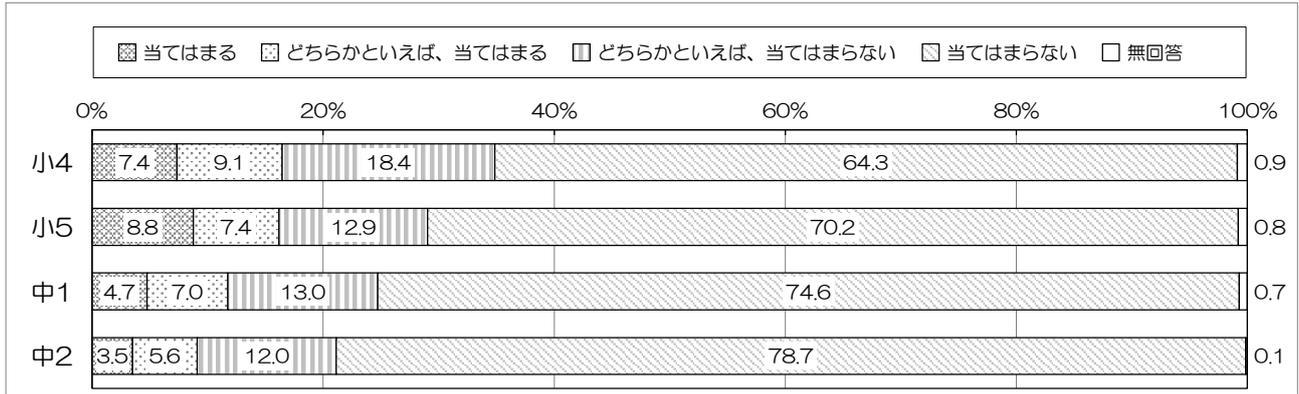
(75) 授業者の先生以外の先生から教わったり、サポートしてもらったりすると分かりやすい。



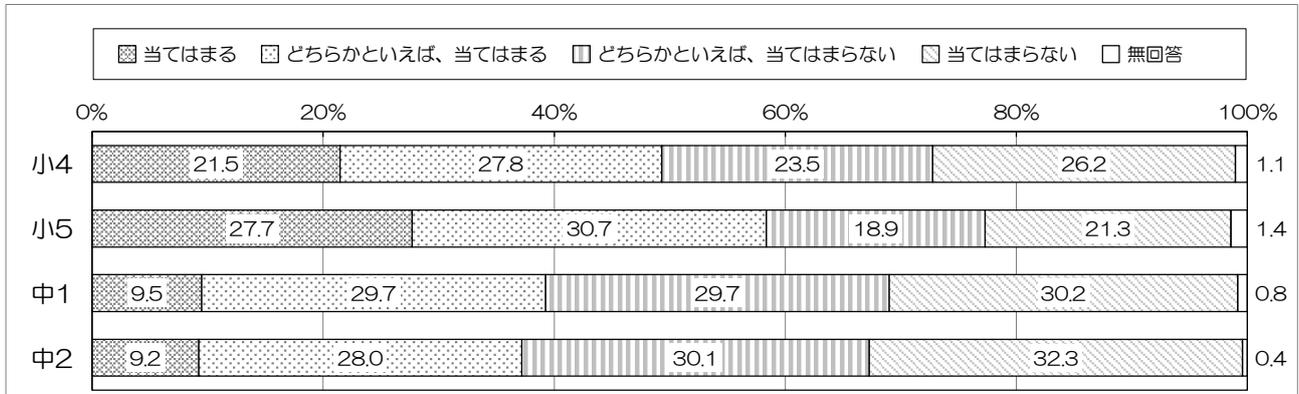
(76) 専門家などのゲストティーチャーから教わることで、学習に対してより興味がわく。



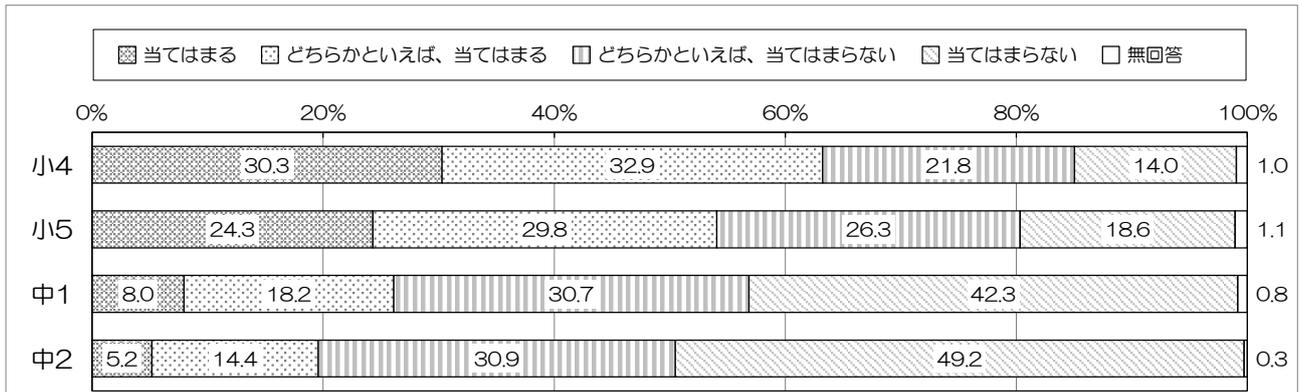
(77) スクールカウンセラーにいろいろ相談している。



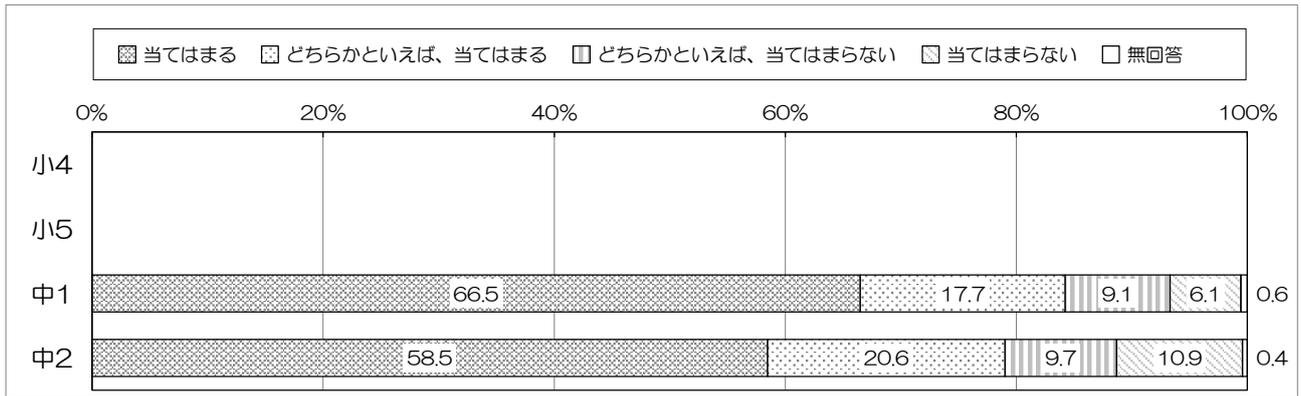
(78) 「学校2020レガシー」としての取組（オリンピック・パラリンピックに関する授業）は、自分のためになっている。



(79) 学校図書館を活用した調べ学習を行っている。



(80) 自分が取り組みたい運動や活動ができる部活動が学校にある。



第3章 アンケート調査と学力調査のクロス分析

1 学習習慣、学習環境等

	質問番号	質問事項
小	22	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含みます）。
中	22	

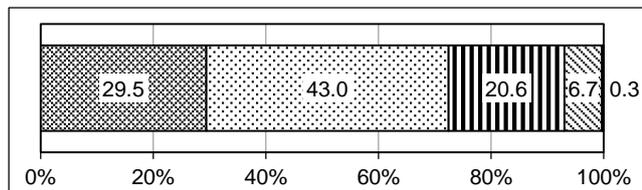
〔アンケート調査と学力調査のクロス分析〕

○ 小・中学校とも、家で自分で計画を立てて勉強をしている（学校の授業の予習や復習を含みます）と回答した児童・生徒の方が、教科平均正答率が高い傾向が見られる。

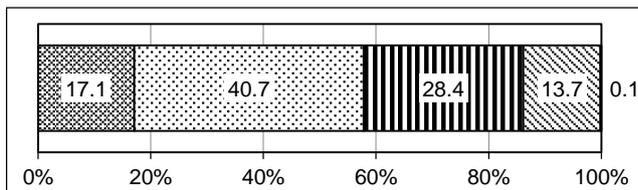
よくしている
 ときどきしている
 あまりしていない
 全くしていない
 無回答

【小学校】

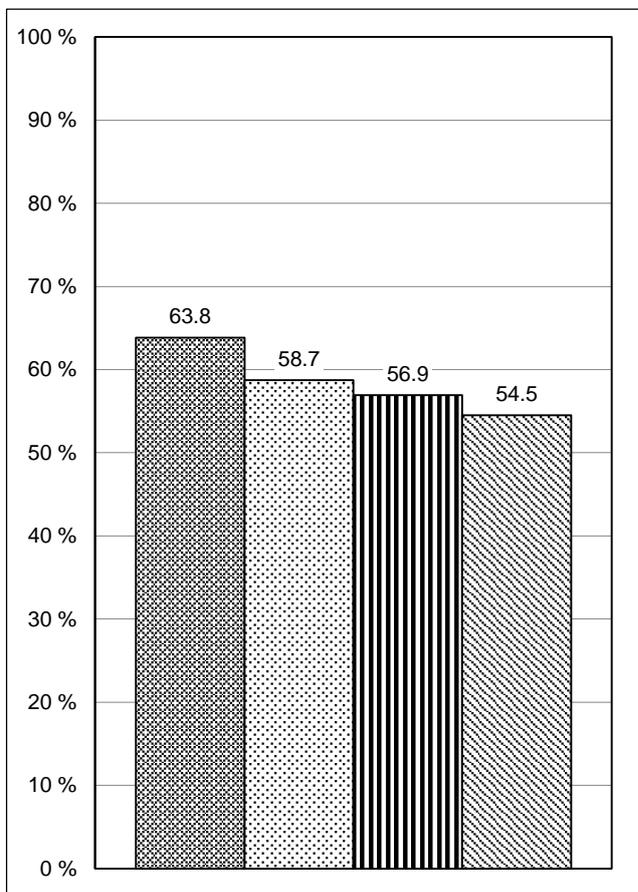
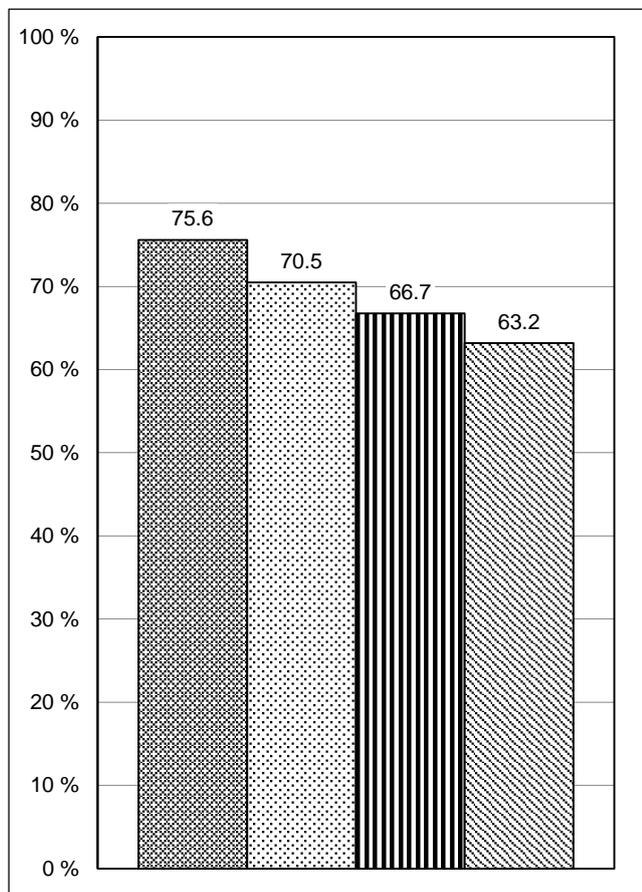
学年平均回答構成比



【中学校】



クロス分析（※縦軸は学年・教科平均正答率）



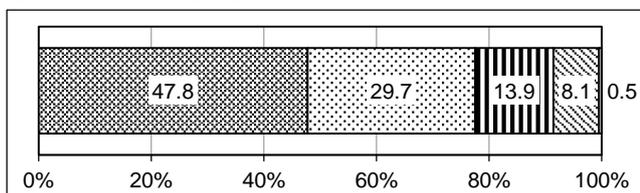
	質問番号	質問事項
小	29	読書は好きですか。
中	29	

〔アンケート調査と学力調査のクロス分析〕
 ○ 小・中学校とも、読書は好きだと回答した児童・生徒の方が、教科平均正答率が高い傾向が見られる。

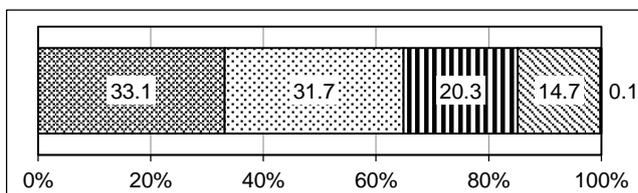
当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない 無回答

【小学校】

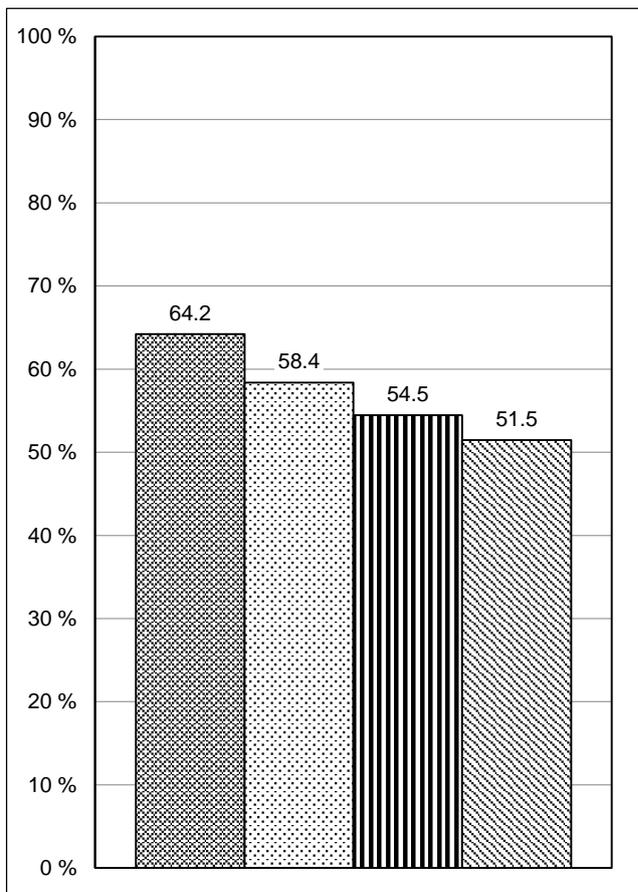
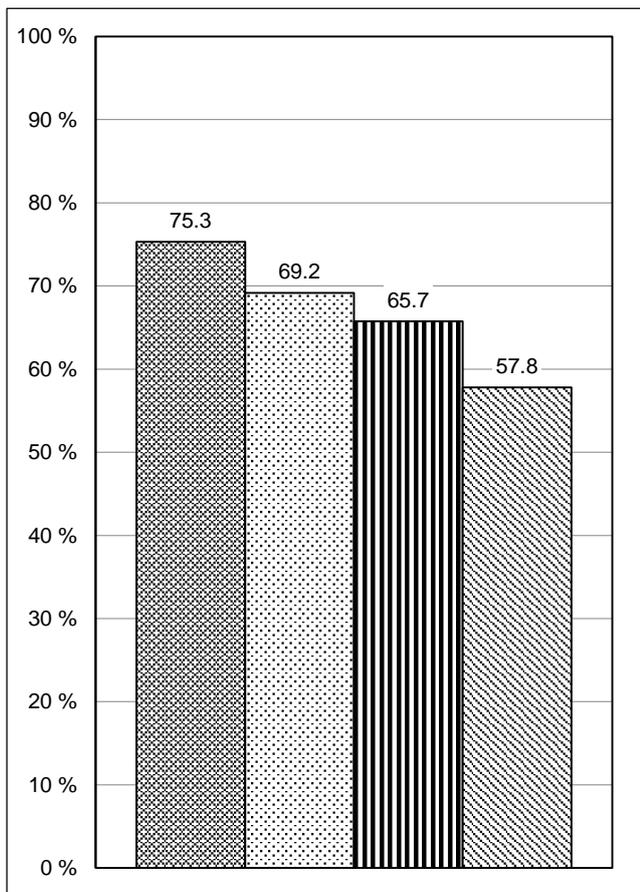
学年平均回答構成比



【中学校】



クロス分析 (※縦軸は学年・教科平均正答率)



2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

	質問番号	質問事項
小	43	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。
中	43	

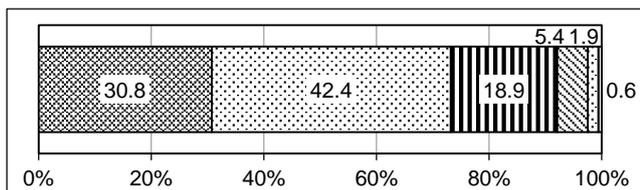
〔アンケート調査と学力調査のクロス分析〕

○ 小・中学校とも、授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと回答した児童・生徒の方が、教科平均正答率が高い傾向が見られる。

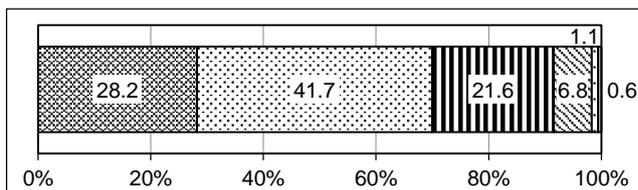
発表していた どちらかといえば、発表していた どちらかといえば、発表していなかった
 発表していなかった 考えを発表する機会はなかった 無回答

【小学校】

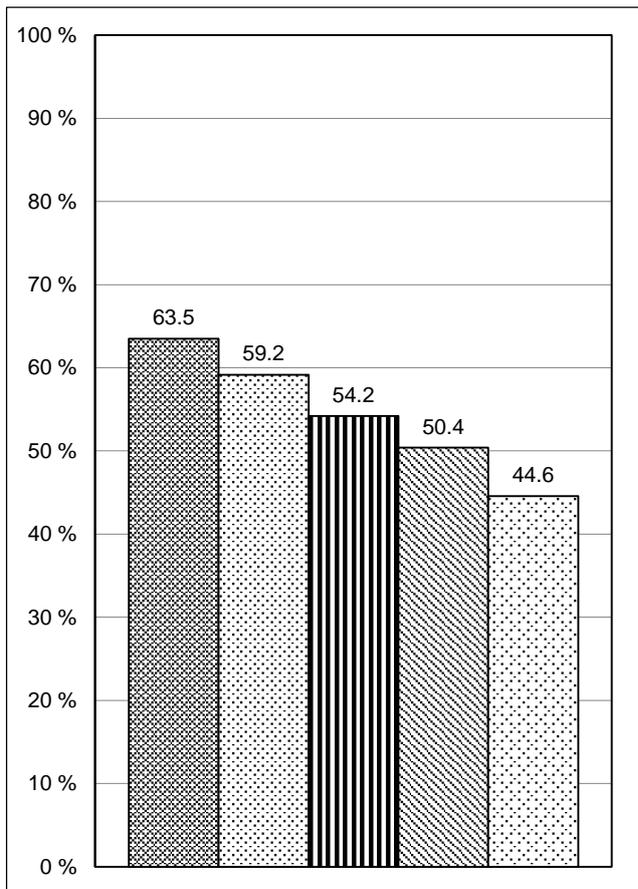
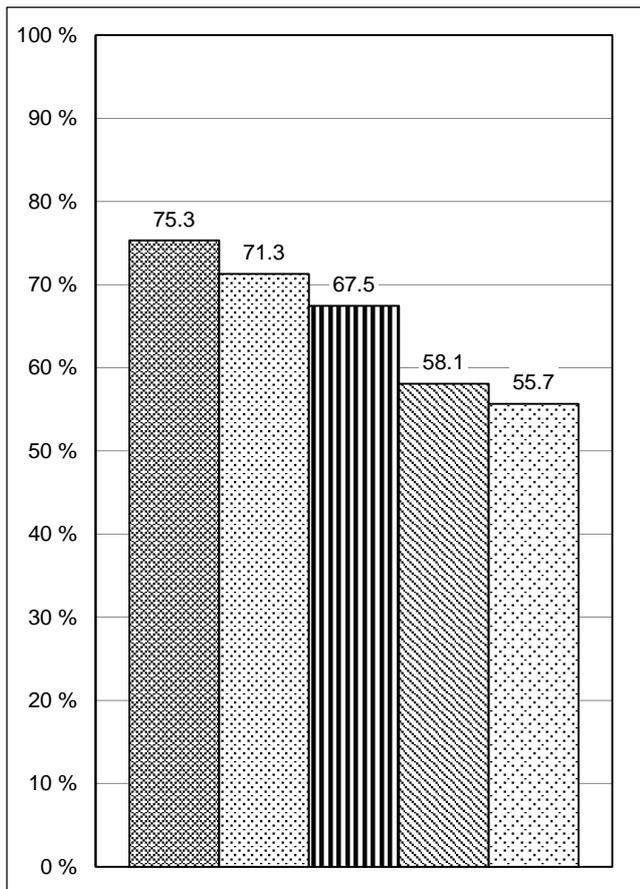
学年平均回答構成比



【中学校】



クロス分析（※縦軸は学年・教科平均正答率）



	質問番号	質問事項
小	44	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。
中	44	

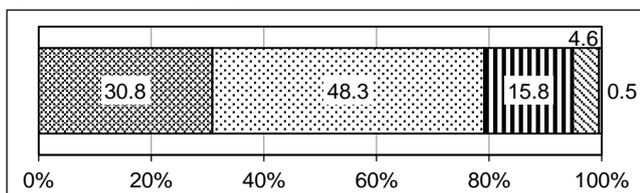
〔アンケート調査と学力調査のクロス分析〕

○ 小・中学校とも、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した児童・生徒の方が、教科平均正答率が高い傾向が見られる。

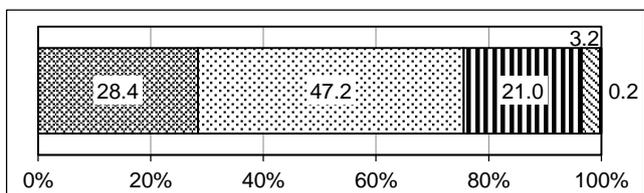
当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない 無回答

【小学校】

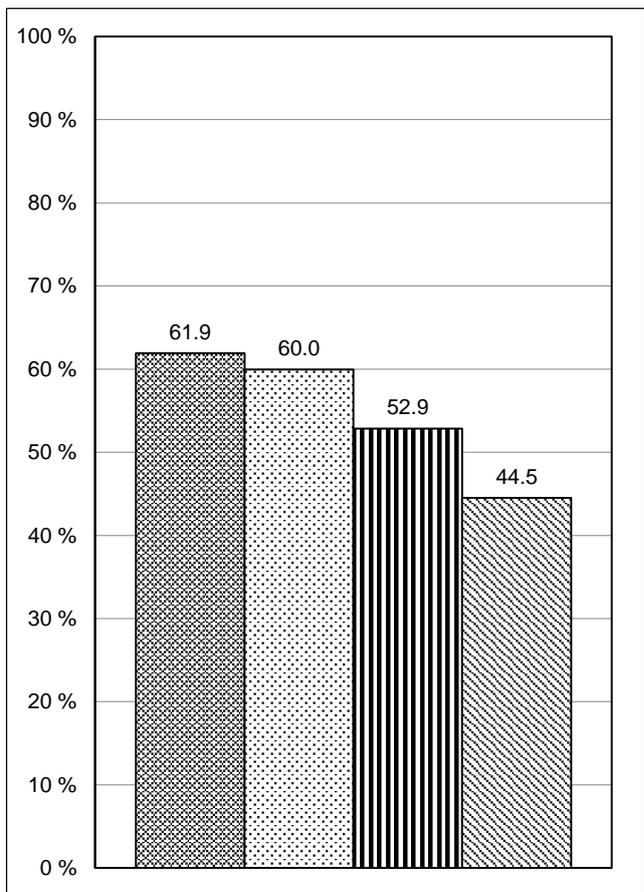
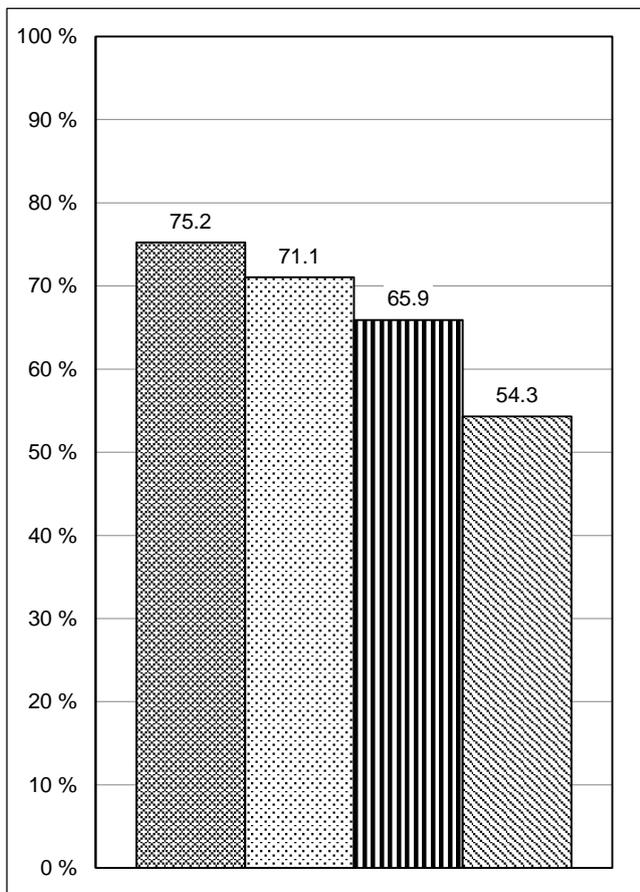
学年平均回答構成比



【中学校】



クロス分析 (※縦軸は学年・教科平均正答率)



	質問番号	質問事項
小	45	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考え
中	45	をもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていた。

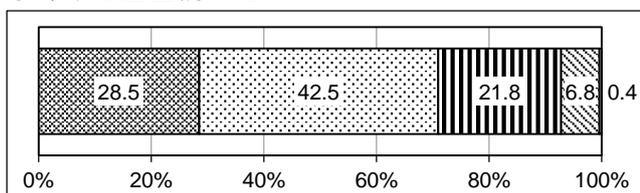
〔アンケート調査と学力調査のクロス分析〕

○ 小・中学校とも、授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていたと回答した児童・生徒の方が、教科平均正答率が高い傾向が見られる。

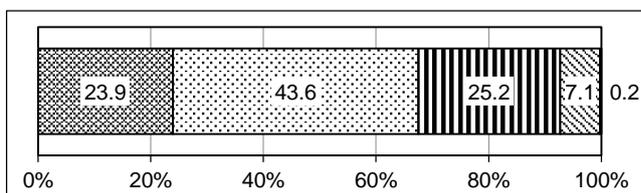
当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない 無回答

【小学校】

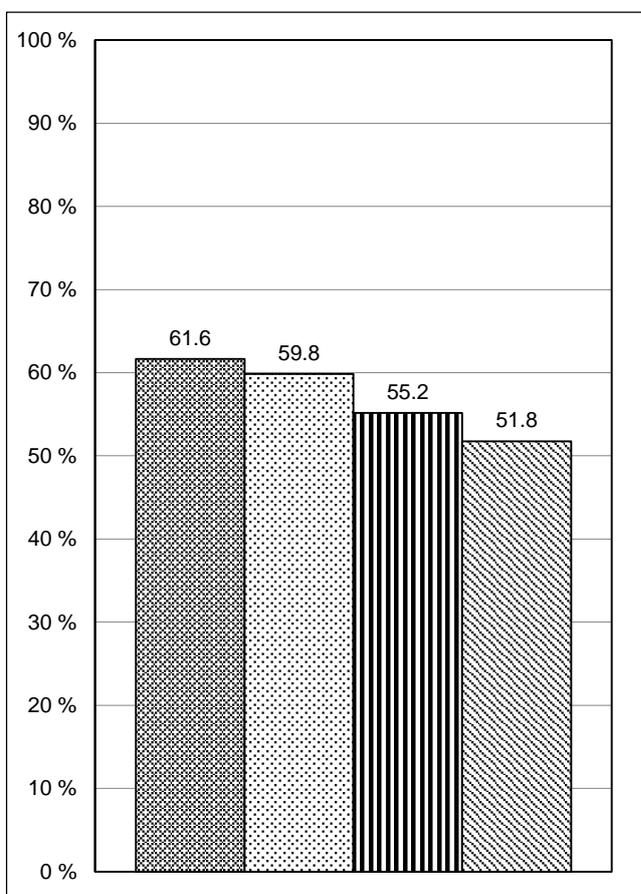
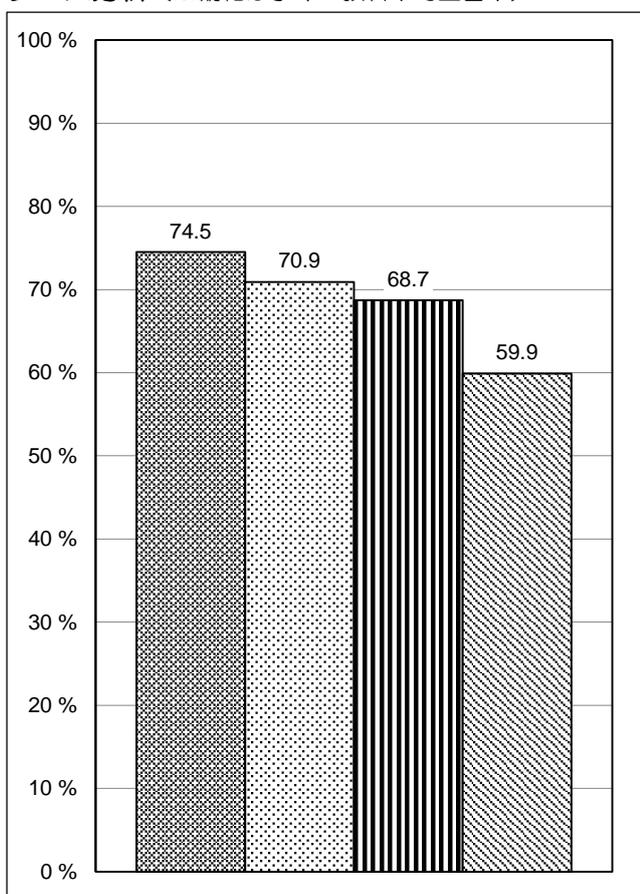
学年平均回答構成比



【中学校】



クロス分析（※縦軸は学年・教科平均正答率）



	質問番号	質問事項
小	49	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。
中	49	

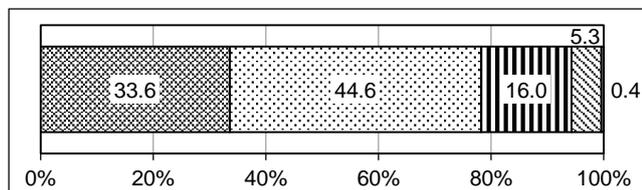
〔アンケート調査と学力調査のクロス分析〕

○ 小・中学校とも、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した児童・生徒の方が、教科平均正答率が高い傾向が見られる。

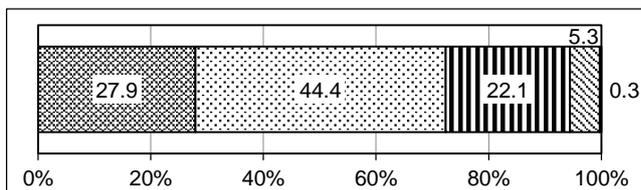
当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない 無回答

【小学校】

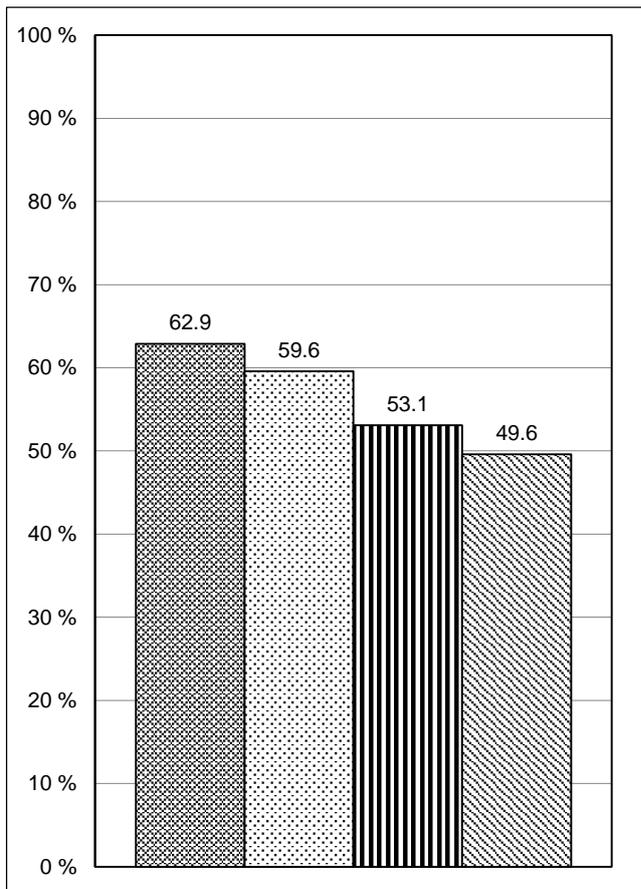
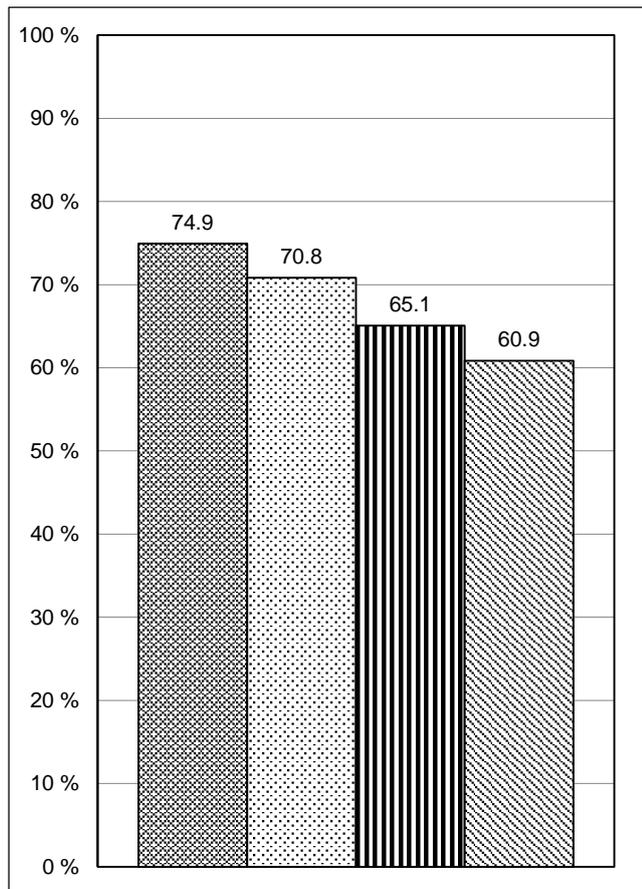
学年平均回答構成比



【中学校】



クロス分析 (※縦軸は学年・教科平均正答率)



3 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳

	質問番号	質問事項
小	50	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
中	50	

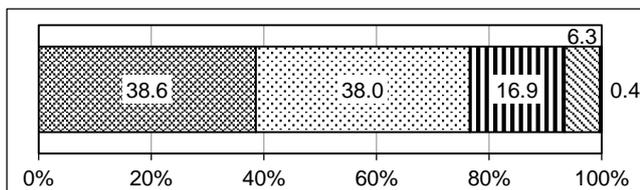
〔アンケート調査と学力調査のクロス分析〕

○ 小・中学校とも、総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると回答した児童・生徒の方が、教科平均正答率が高い傾向が見られる。

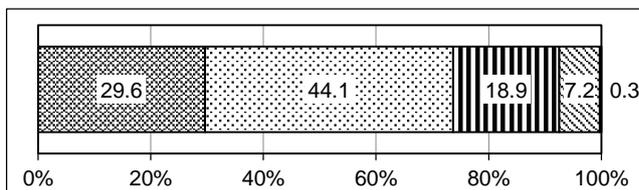
当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない 無回答

【小学校】

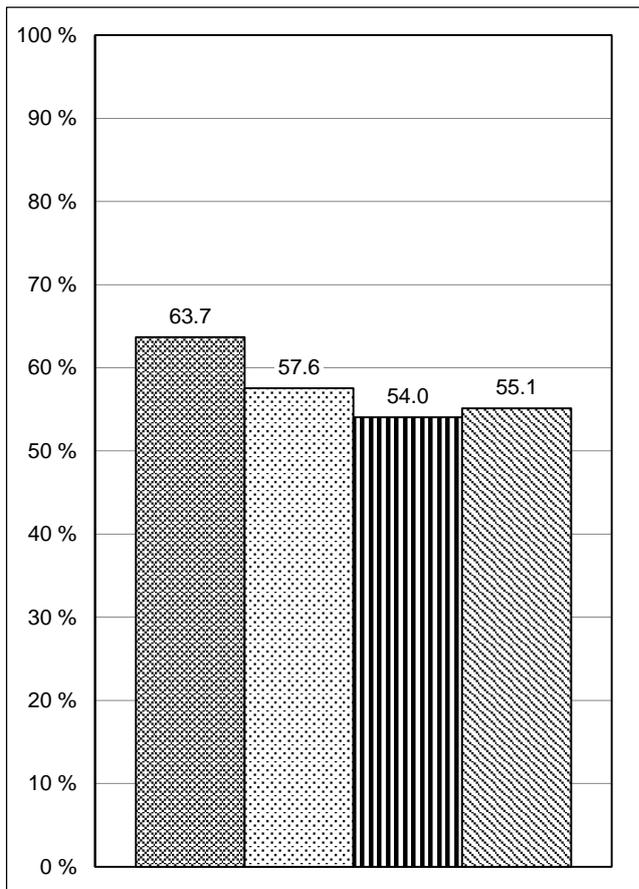
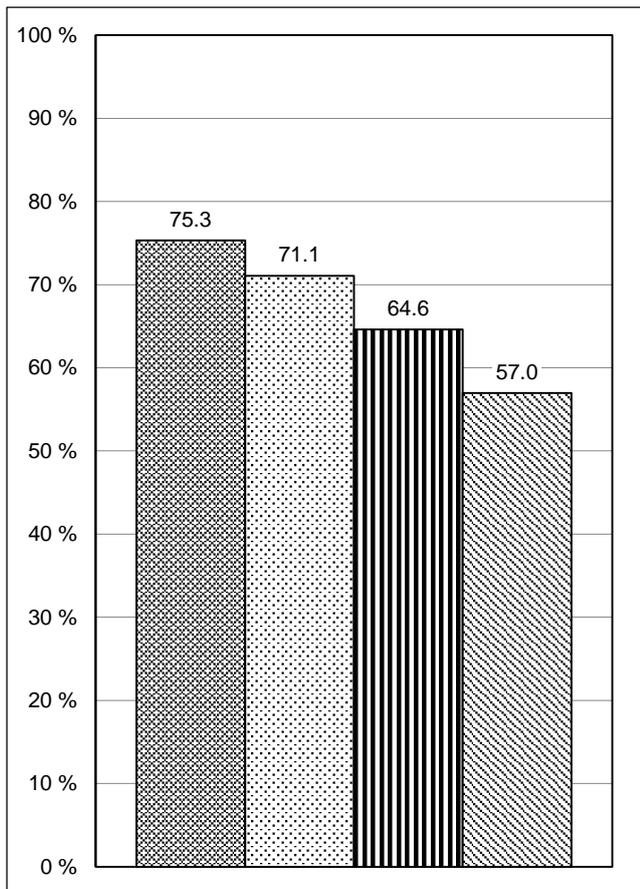
学年平均回答構成比



【中学校】



クロス分析 (※縦軸は学年・教科平均正答率)



4 台東区独自調査

	質問番号	質問事項
小	74	人権はどんな人であろうと守られなくてはならないと思う。
中	74	

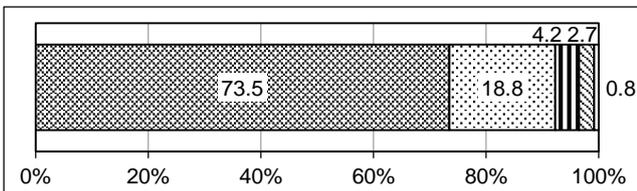
〔アンケート調査と学力調査のクロス分析〕

○ 小・中学校とも、人権はどんな人であろうと守られなくてはならないと思うと回答した児童・生徒の方が、教科平均正答率が高い傾向が見られる。

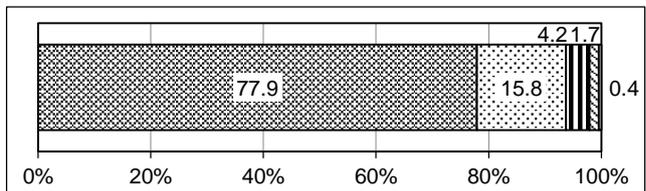
当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない 無回答

【小学校】

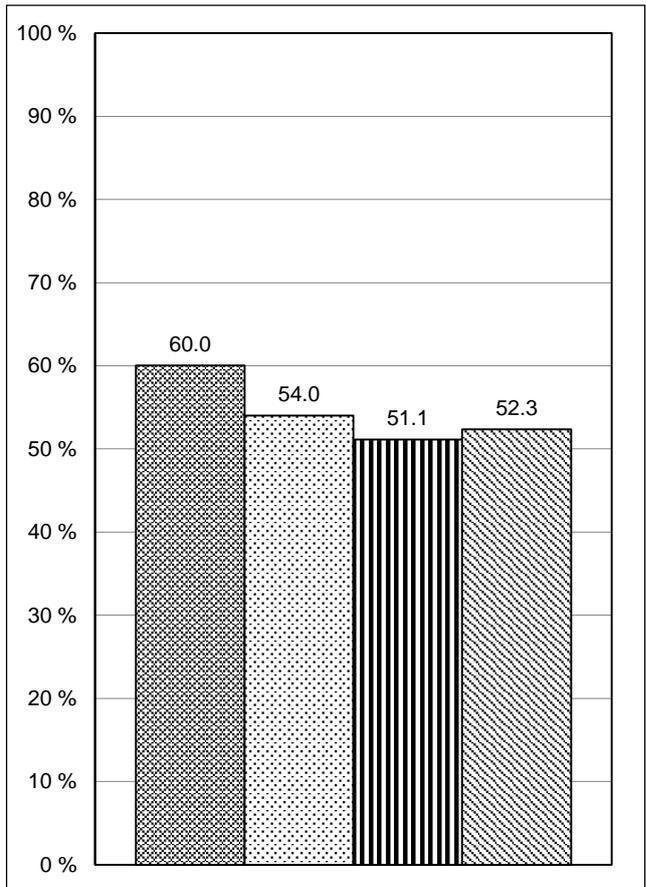
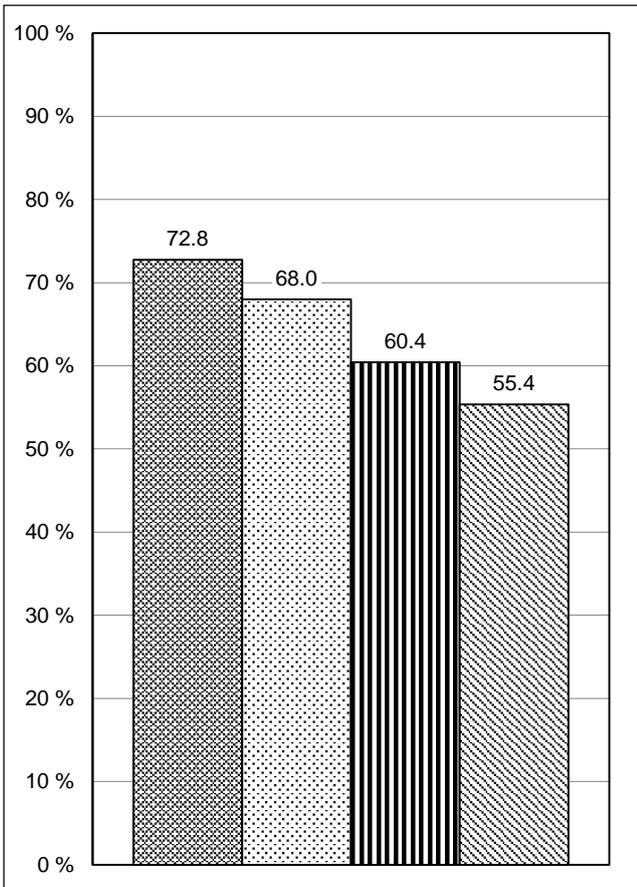
学年平均回答構成比



【中学校】



クロス分析 (※縦軸は学年・教科平均正答率)



令和6年度

台東区総合学力調査報告書

図書登録 令和6年度 登録第10号

発行 令和6年8月発行

発行者 台東区教育委員会指導課

〒110-8615

台東区東上野4丁目5番6号

電話03-5246-1451